

電子フォーム設計ソフト

FormPat Designer

Ver.3.0

操作マニュアル

2010 年 6 月 29 日

Digital Assist デジタルアシスト株式会社

BLANK PAGE

この度は、『 **FormPat Designer** 』をお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。

『 **FormPat Designer** 』は、定型文書等のフォームを作成できるソフトウェアです。
本マニュアルは、『 **FormPat Designer** 』の基本的な取り扱い方法を説明します。
本ソフトウェアをご使用になる前や、プログラミング等、必要に応じてお読み下さい。

- ・本マニュアルは、デジタルアシスト株式会社が作成したもので、全ての権利をデジタルアシスト株式会社が保有しています。デジタルアシスト株式会社に無断で本書の一部又は全部を転載することを禁止します。
- ・デジタルアシスト株式会社は、予告なく本マニュアルの一部又は全体を修正、変更することがありますのでご了承下さい。
- ・本ソフトウェアを無断複製することを禁止します。
- ・本製品の内容またはその仕様に関して発生した結果については、いかなる責任も負いかねますのでご了承下さい。

デジタルアシスト株式会社

Windows, Microsoft は、米国 Microsoft Corporation の登録商標です。

その他、この文書に掲載しているソフトウェアおよび周辺機器の名称は各メーカーの商標または登録商標です。

BLANK PAGE

1.	はじめに	1
1.1	本製品について	1
1.2	参照・保存フォルダについて	1
2.	導 入	2
2.1	必要な機器構成	2
3.	基本操作	3
3.1	『 <i>FormPat Designer</i> 』の起動	3
3.2	フォームの新規作成	4
3.3	ヘッダ情報の設定	4
3.4	画像の読み込み	6
3.5	画像の消去	7
3.6	プリンタの設定	8
3.7	項目の追加	9
3.8	ラベルの設定	10
3.9	テキストの設定	11
3.10	コンボボックスの設定	12
3.11	チェックボタンの設定	13
3.12	ラジオボタンの設定	14
3.13	画像の設定	15
3.14	線画の設定	16
3.15	バーコードの設定	20
3.16	印鑑の設定	22
3.17	画像ファイルの設定	23
3.18	DB参照の設定	25
3.19	ハイパーリンク（テキスト）の設定	29
3.20	ハイパーリンク（ラベル）の設定	30
3.21	貼付画像の設定	31
3.22	手書編集の設定	32
3.23	手書画像の設定	34
3.24	フォーム複写の設定	35
3.25	カレンダーの設定	37
3.26	その他プロパティ項目の設定	39
3.26.1	可視表示	39
3.26.2	読み取り専用	39
3.26.3	検索対象	40
3.26.4	ラジオグループ名称	40
3.26.5	外部参照名称	41
3.26.6	端数処理	41
3.26.7	計算結果のゼロサプレス	42
3.26.8	チェックボタン、ラジオボタンを枠付きで印刷する	43
3.26.9	計算式	43
3.26.10	検証コントロール	46

3.27	フォームの印刷	48
3.28	フォームの保存	49
4.	項目操作	51
4.1	項目の移動	51
4.2	項目の切り取り	51
4.3	項目の複写&貼り付け	52
4.4	項目複写時の項目名称自動採番	53
4.5	複数項目の移動	54
4.6	カーソルキーの移動	54
4.7	操作の回復・復元（アンドウ・リドゥ）	55
4.8	重複位置項目の選択	55
4.9	項目の前後関係調節	56
4.10	デフォルト項目情報の設定	58
4.11	項目のプロパティ変更	59
4.12	複数項目のプロパティ変更	59
4.13	項目の一覧確認	60
4.14	項目のロック	60
4.15	画像補正	61
4.16	画像合成	62
5.	ページ操作	63
5.1	ページの追加	63
5.2	ページの移動	63
5.3	ページの削除	65
6.	フォーム操作	67
6.1	環境設定	67
6.2	拡大／縮小表示	68
6.3	グリッド表示	69
6.4	印刷プレビュー	69
6.5	別名保存	70
6.6	全項目移動	71
6.7	拡大／縮小編集	73
6.8	タブ順自動設定	75
6.9	OCR文字認識（オプション機能）	76
6.10	OCR表組認識（オプション機能）	78
6.11	モバイル自動調整（オプション機能）	80
7.	画像編集	81
7.1	画像補正	81
7.2	貼り付け合成	83
8.	外部ファイルについて	85
8.1	検証コントロール用外部ファイル	85
8.2	外部参照名称用外部ファイル	86
9.	ライセンスについて	87
10.	他アプリケーションとの連携について	89
11.	補足事項	91
12.	その他注意事項	97

1. はじめに

1.1 本製品について

本製品は、日本語 **Microsoft Windows 2000／XP／Vista／7** のみで動作します。
本製品で作成したフォームは、日本語 **Microsoft Windows 2000／XP／Vista／7** 対応プリンタであれば、デザインしたそのままのイメージで印刷できますが、プリンタの制限によっては若干異なるイメージで印刷される場合もありますので、体験版にて動作確認されることをお奨めします。

1.2 参照・保存フォルダについて

本マニュアルでは、FormPat20 がインストールされている環境で使用する場合の説明になっています。従って、FormPat20 がインストールされていない環境で 사용되는場合は、下記のフォルダを事前に作成して頂くか、別のフォルダとして適宜読み替えて下さい。

C:¥FormPat20Data¥Form

C:¥FormPat20Data¥Image

2. 導 入

2.1 必要な機器構成

■ コンピュータ本体

日本語 **Microsoft Windows 2000／XP／Vista／7** がインストール済みであるものが
必要です。（CPU PentiumIV 2GHz 以上を推奨）

■ ディスプレイ

解像度 800 x 600 ドット以上で 65,536 色以上が表示可能なカラーディスプレイが
必要です。（解像度 1024 x 768 ドット以上、ビデオメモリ **64MB** 以上を推奨）

■ ハードディスク

インストールに必要なハードディスクの容量は**約 20MB** です。
（プログラムの動作を安定させるために空き容量は**約 300MB** 以上を推奨）

■ メモリ

256MB 以上必要です。
（貼り付け画像枚数が多い場合や 120 万画素 (3.7MB) 以上の画像を使用する場合は、
消費メモリを多く必要とするため **256MB** 以上を推奨）

■ 対応プリンタ

日本語 **Microsoft Windows 2000／XP／Vista／7** で使用可能なプリンタドライバを
有しているプリンタが必要です。また、プリンタドライバの制限によっては正常に
動作しない場合もあります。

■ 画像読取り装置

日本語 **Microsoft Windows 2000／XP／Vista／7** で使用できるイメージスキャナが
必要です。

■ 日本語入力システム

日本語 **Microsoft Windows 2000／XP／Vista／7** で使用できる日本語変換IMEが必要です。

■ マウス

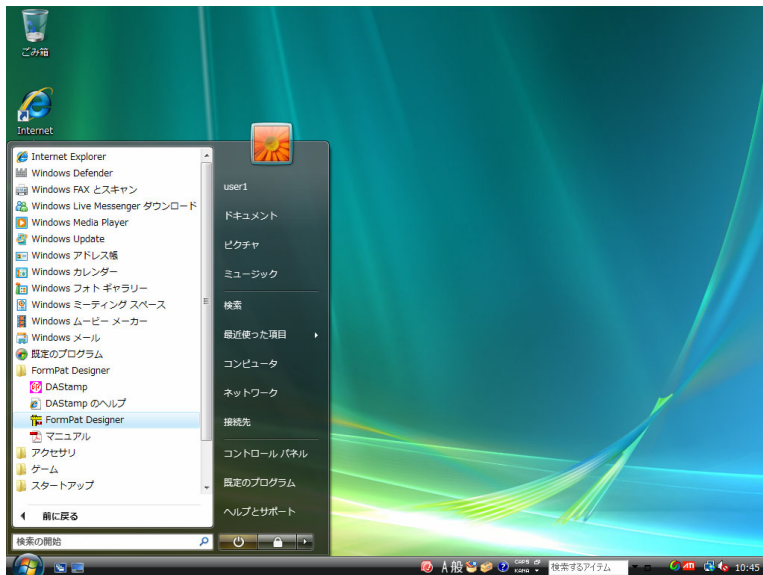
日本語 **Microsoft Windows 2000／XP／Vista／7** で使用可能なマウスが必要です。

3. 基本操作

本アプリケーションを使用する際の基本的な操作手順を示します。

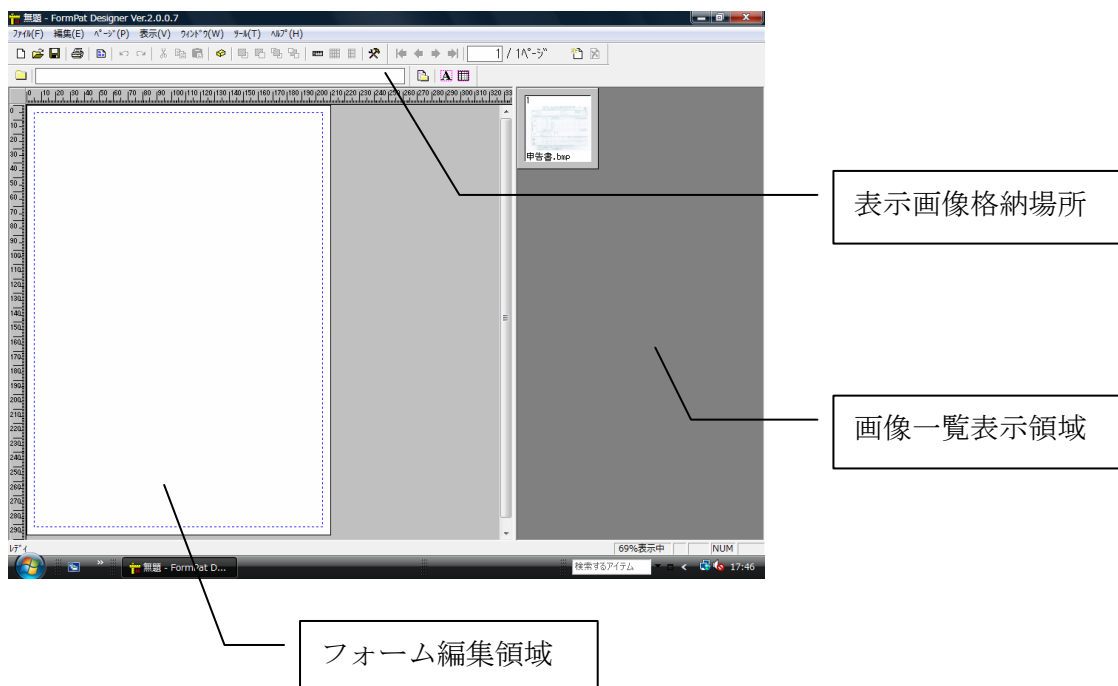
3.1 『FormPat Designer』の起動

- ① [スタート] → [プログラム] → [FormPat Designer] → [FormPat Designer] を起動します。



※画面は Windows Vista の場合ですが、Windows 2000／XP／7 も同じ操作になります。

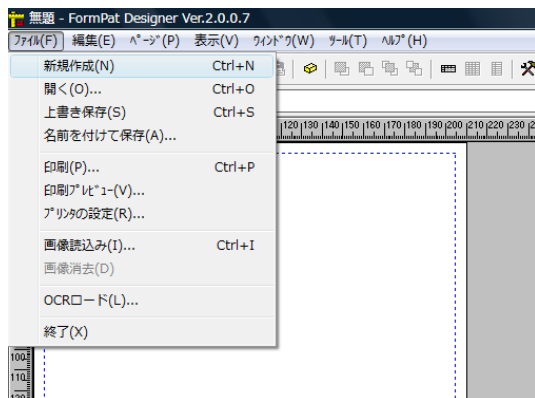
- ② プログラムが起動して下記の画面が表示されます。



3.2 フォームの新規作成

フォームを新規に作成します。

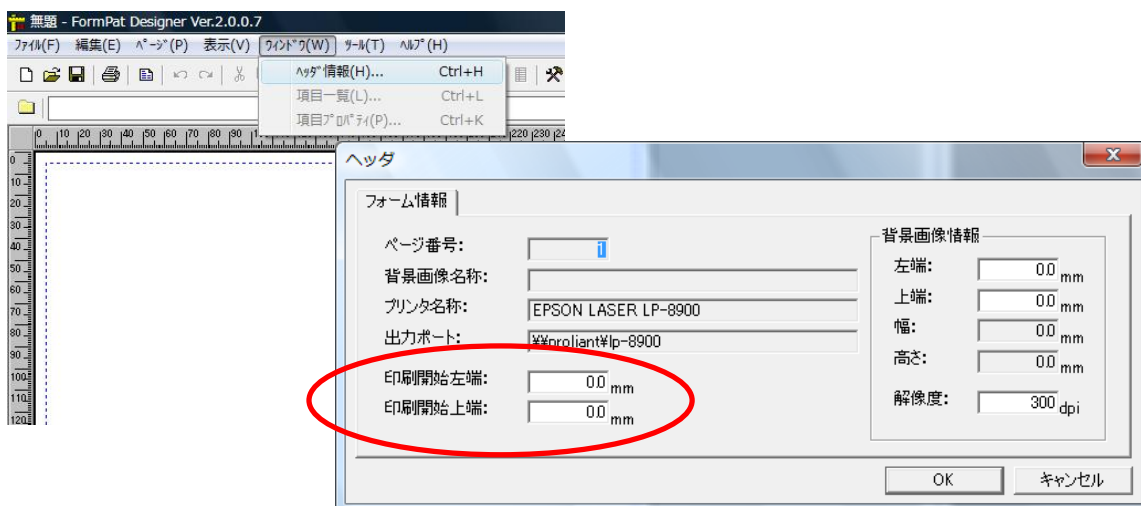
[ファイル(F)] メニューの [新規作成(N)] を選択します。



3.3 ヘッダ情報の設定

フォーム情報等を設定します。

[ウィンドウ(W)] メニューの [ヘッダ情報(H)] を選択します。



■印刷開始左端・印刷開始上端

プリンタを変更した後、機種によっては印刷開始位置を調節する必要があり、その際にここで調整します。

印刷開始位置を左方向、上方向に移動する移動量で指定します。

左端：基準点「0」からプラスの値で右方向、マイナスの値で左方向へ移動

上端：基準点「0」からプラスの値で下方向、マイナスの値で上方向へ移動

設定した内容は印刷プレビュー画面で確認できます。

通常は0のままで変更する必要はありません。

■背景画像情報

背景画像の左端・上端を変更します。

背景画像位置を左方向、上方向に移動する移動量で指定します。

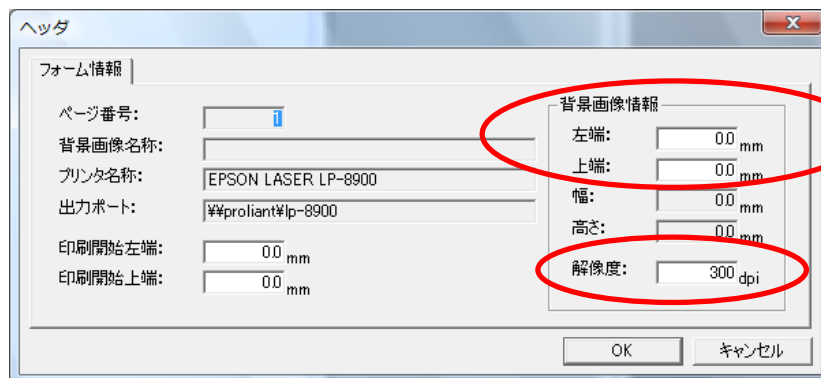
左端：基準点「0」からプラスの値で右方向、マイナスの値で左方向へ移動

上端：基準点「0」からプラスの値で下方向、マイナスの値で上方向へ移動

通常は0のままで変更する必要はありません。

■解像度

背景画像をスキャナから取り込んだときの解像度を指定します。

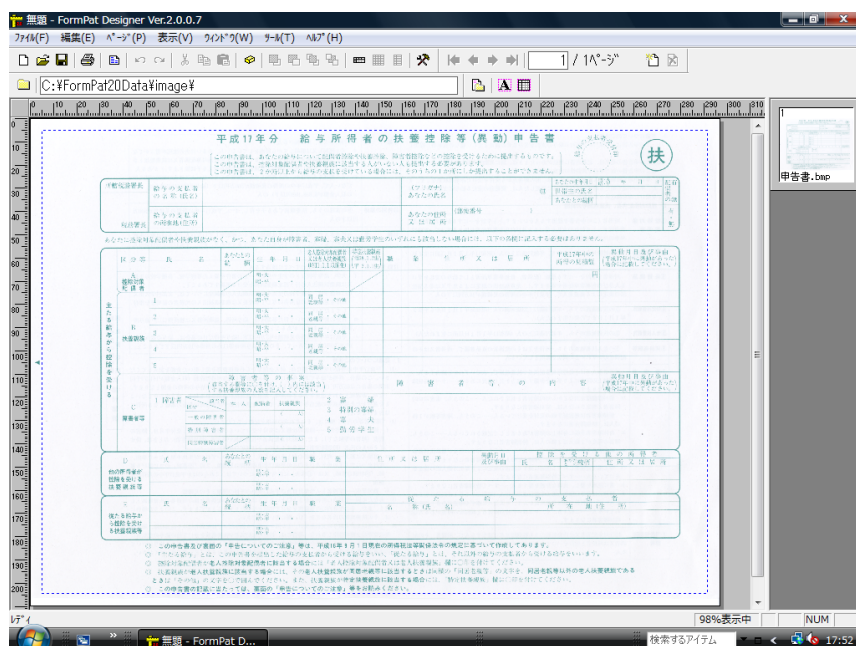
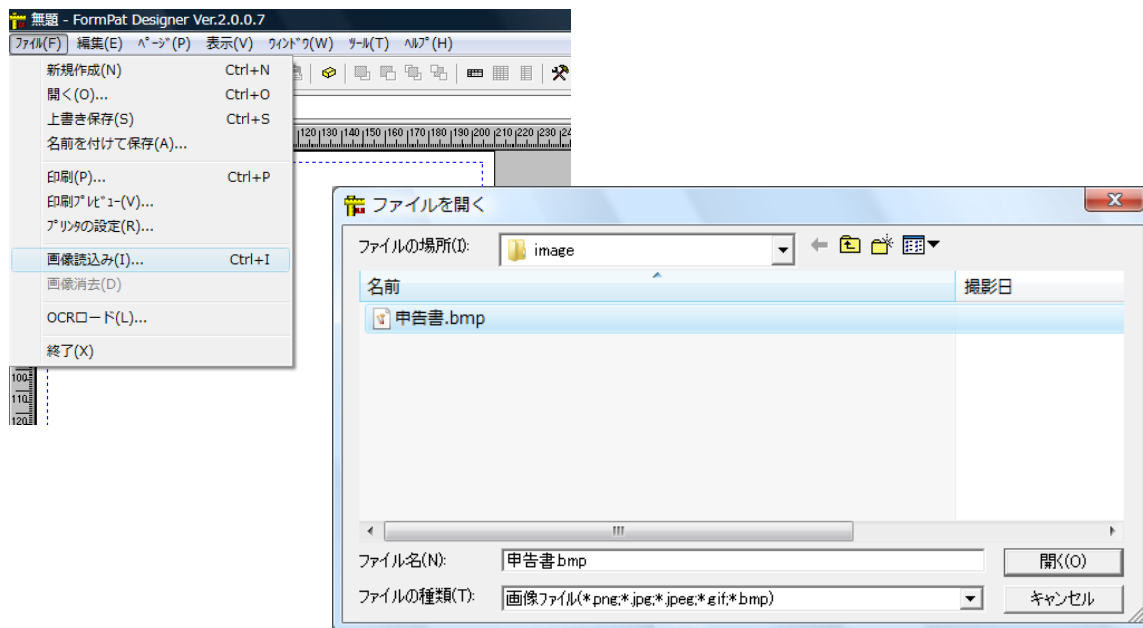


3.4 画像の読み込み

画像を読み込みます。

※ [ツール(T)] メニューから[画像フォルダ変更(I)]を選択して、画像ファイルが格納されている場所を変更しておいて下さい（「3.17 画像ファイルの設定③~④」参照）。

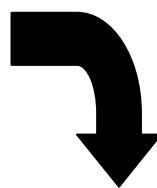
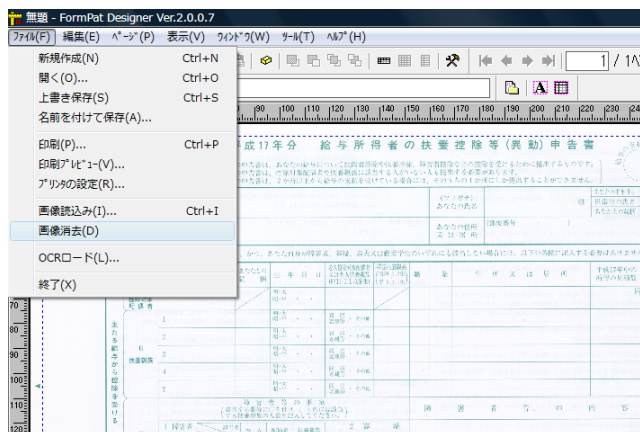
[ファイル(F)] メニューの [画像読み込み(I)] を選択します。
ファイルを開く画面が表示されますので、画像ファイルを格納している場所とファイル名を指定して [開く(O)] を押すと画像が表示されます。



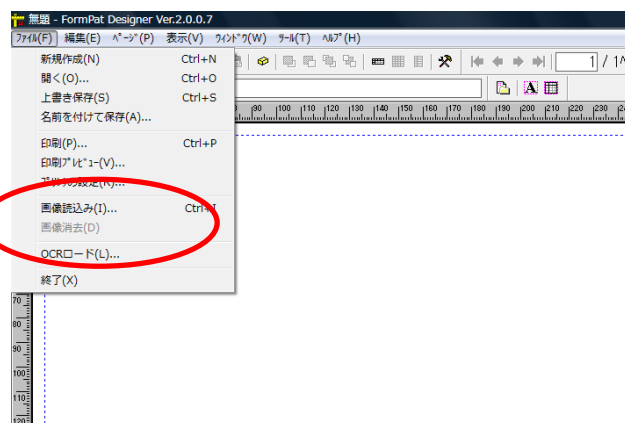
3.5 画像の消去

読込んだ画像を消去します。

〔ファイル(F)〕メニューの〔画像消去(D)〕を選択すると読んでいる画像が消去されます。
なお、画像を読んでいる状態の時のみ〔画像消去(D)〕が選択できるようになります。



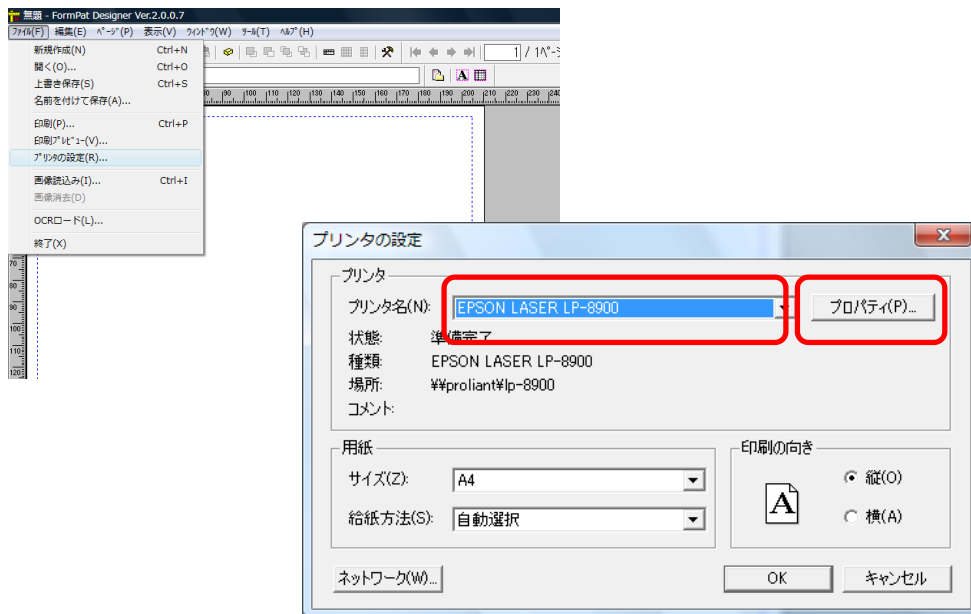
※画像を読込んでいない場合、
〔画像消去(D)〕が押せません。



3.6 プリンタの設定

プリンタの用紙サイズや印刷プロパティ情報を設定します。
ここで設定するプリンタ用紙サイズがそのままフォーム用紙サイズになります。

[ファイル(F)] メニューの [プリンタの設定(R)] を選択すると、プリンタの設定画面が表示されますのでプリンタ名称とプロパティを設定して [OK] を押します。

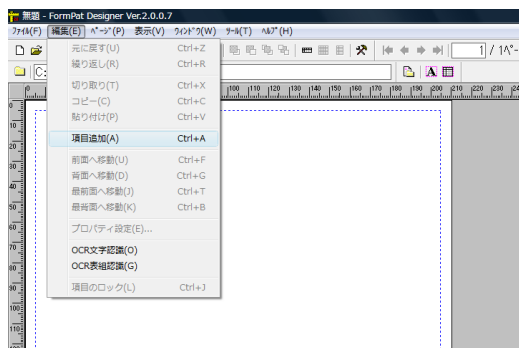


注意 プリンタの設定を行わなかった場合は、Windows のデフォルトプリンタとして設定されているプリンタとそのプロパティが設定されます。

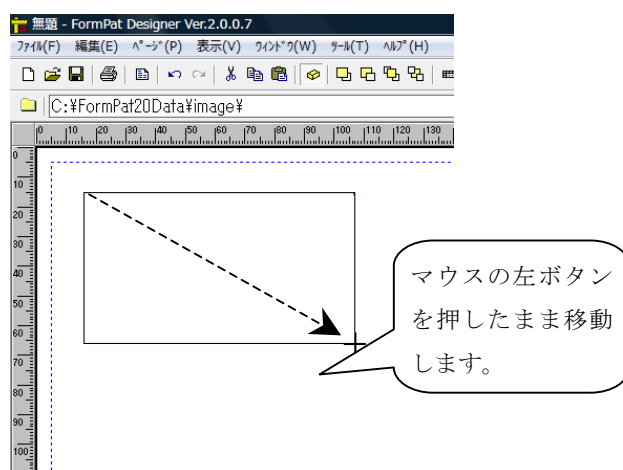
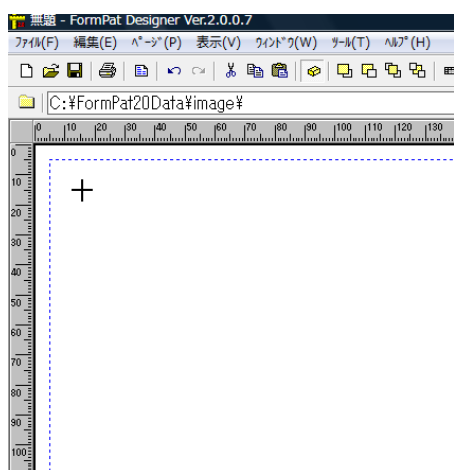
3.7 項目の追加

項目を設定するための枠を追加します。

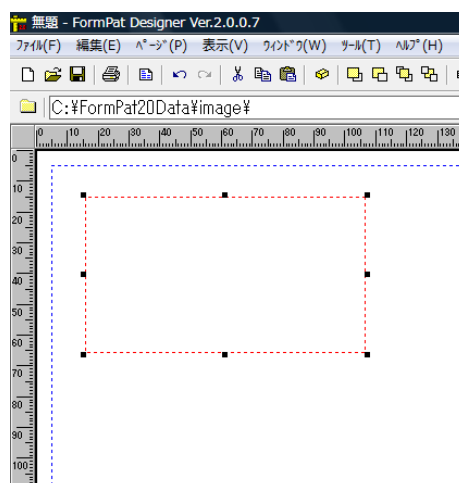
- ① 編集(E)] メニューから [項目追加(A)] を選択します。



- ②マウスをフォーム上に移動するとカーソルが+になりますので、枠を追加する位置に+を移動してマウスの左ボタンを押します。マウスの左ボタンを押した位置が枠の左上位置となり、マウスの左ボタンは離さずに押したままマウスを移動して枠を描画します。枠のサイズが設定したい大きさになったら、マウスの左ボタンを離して右下位置を設定します。



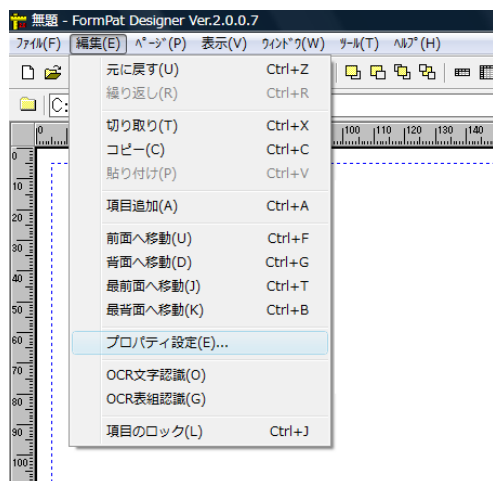
※枠の追加を途中でキャンセルする場合は再度 [編集(E)] メニューの [項目追加(A)] を選択します。これでカーソルが矢印へ戻ります。



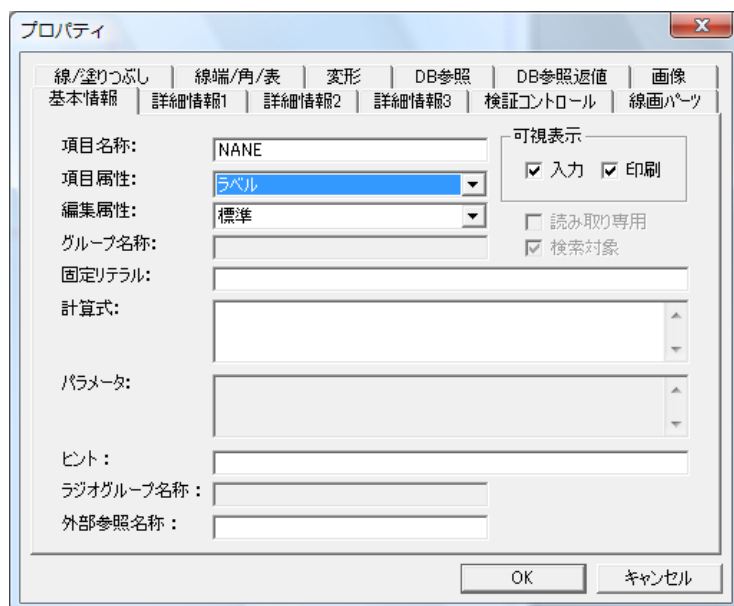
3.8 ラベルの設定

項目の属性をラベルに設定します。

- ①項目を追加します（「3.7 項目の追加」参照）。
- ② 編集(E)] メニューから [プロパティ設定(E)] を選択します。



- ③プロパティ画面が表示されますので、「項目名称」に任意の名称を入力し、「項目属性」で“ラベル”を選択して下さい。

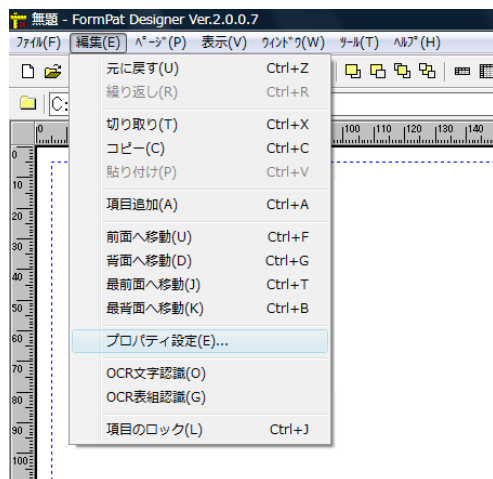


※プロパティの設定については、「1 1. 補足事項」を参照して下さい。

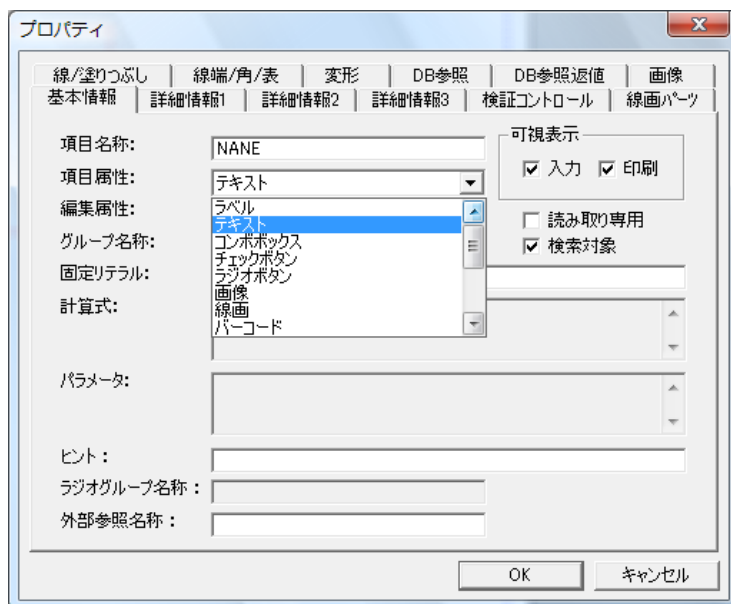
3.9 テキストの設定

項目の属性をテキストに設定します。

- ①項目を追加します（「3.7 項目の追加」参照）。
- ③ 編集(E)] メニューから [プロパティ設定(E)] を選択します。



- ③プロパティ画面が表示されますので、「項目名称」に任意の名称を入力し、「項目属性」で“テキスト”を選択して下さい。

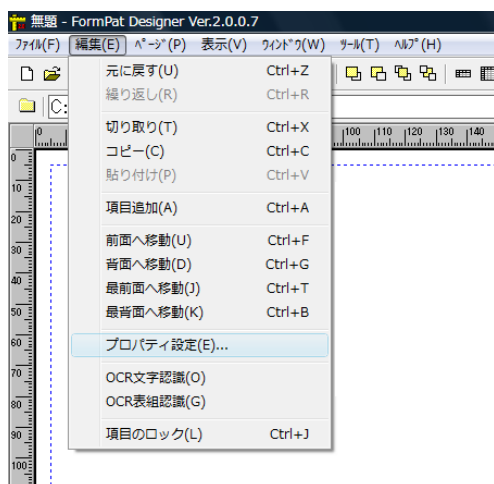


※プロパティの設定については、「11. 補足事項」を参照して下さい。

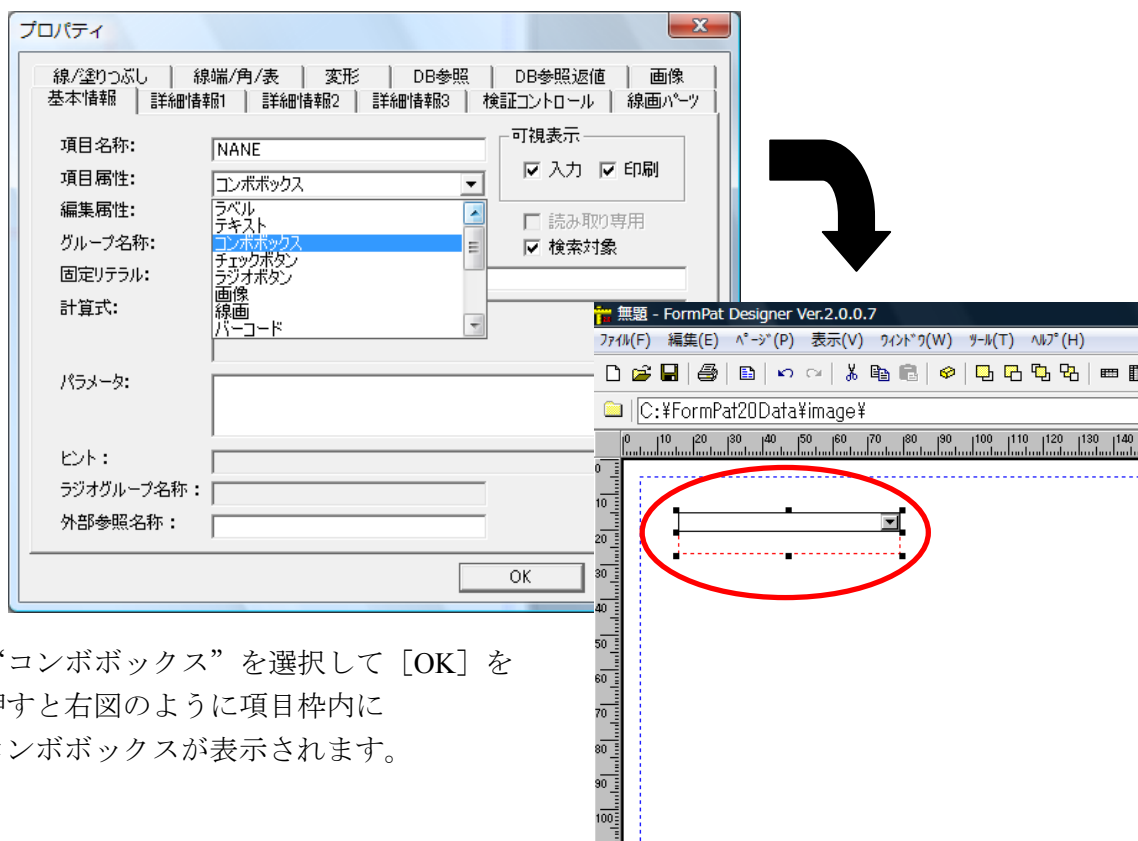
3.10 コンボボックスの設定

項目の属性をコンボボックスに設定します。

- ①項目を追加します（「3.7 項目の追加」参照）。
- ②[編集(E)]メニューから[プロパティ設定(E)]を選択します。



- ③プロパティ画面が表示されますので、「項目名称」に任意の名称を入力し、「項目属性」で“コンボボックス”を選択して下さい。



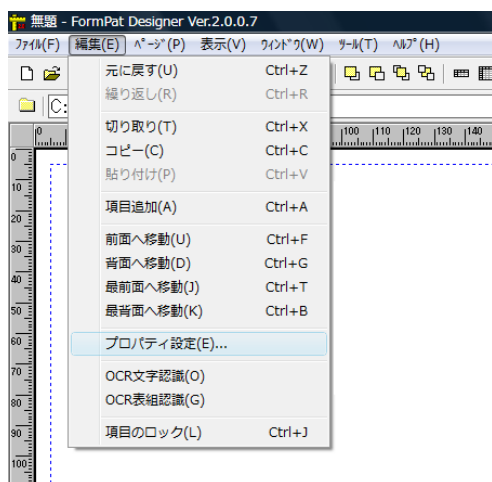
- ※ “コンボボックス” を選択して [OK] を押すと右図のように項目枠内にコンボボックスが表示されます。

※プロパティの設定については、「11. 補足事項」を参照して下さい。

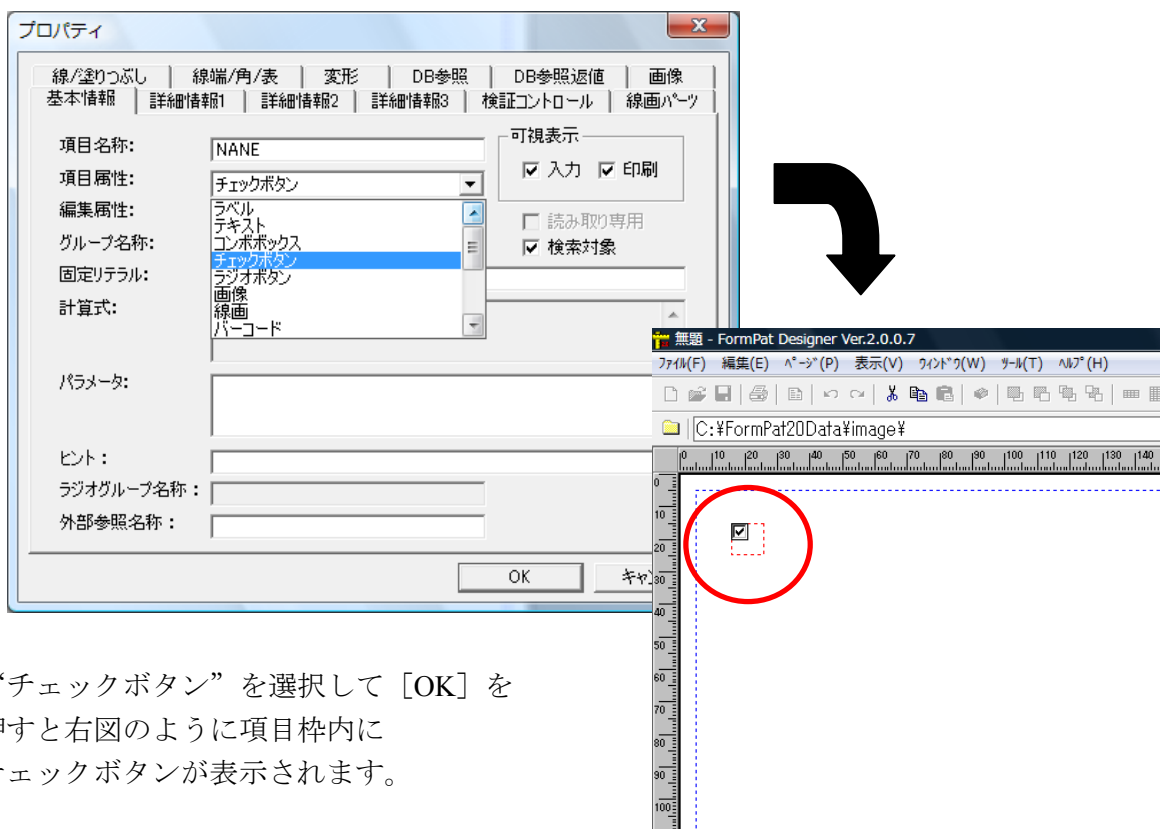
3.1.1 チェックボタンの設定

項目の属性をチェックボタンに設定します。

- ①項目を追加します（「3.7 項目の追加」参照）。
- ②[編集(E)] メニューから[プロパティ設定(E)] を選択します。



- ③プロパティ画面が表示されますので、「項目名称」に任意の名称を入力し、「項目属性」で“チェックボタン”を選択して下さい。



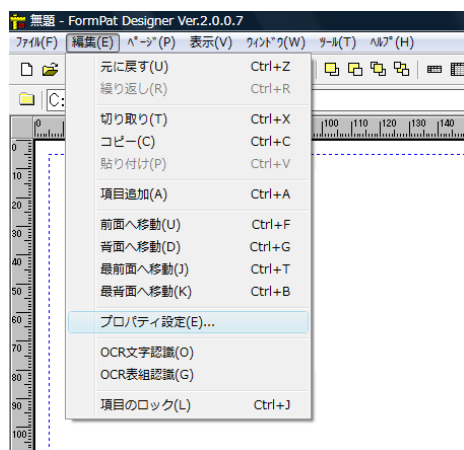
※ “チェックボタン” を選択して [OK] を押すと右図のように項目枠内にチェックボタンが表示されます。

※プロパティの設定については、「1.1. 補足事項」を参照して下さい。

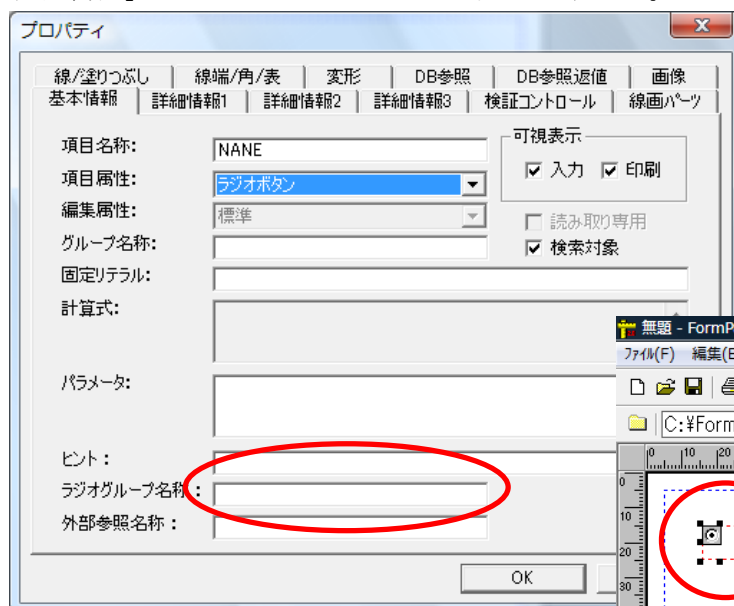
3.1.2 ラジオボタンの設定

項目の属性をラジオボタンに設定します。

- ①項目を追加します（「3.7 項目の追加」参照）。
- ②[編集(E)] メニューから[プロパティ設定(E)] を選択します。

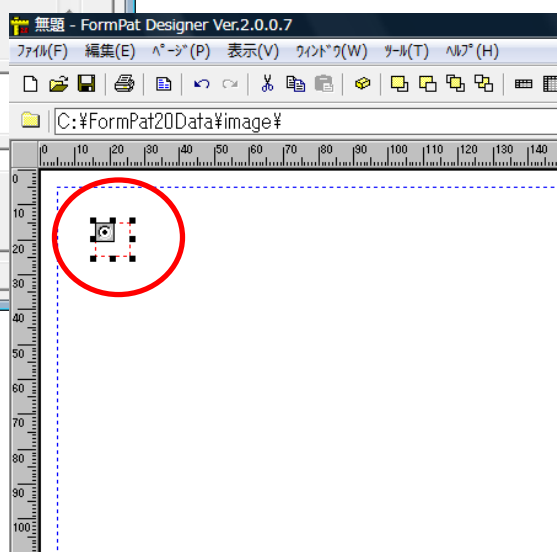


- ③プロパティ画面が表示されますので、「項目名称」に任意の名称を入力し、「項目属性」で“ラジオボタン”を選択して下さい。



- ※ “ラジオボタン” を選択して [OK] を押すと右図のように項目枠内にラジオボタンが表示されます。

- ④任意のラジオグループ名称を設定して下さい。

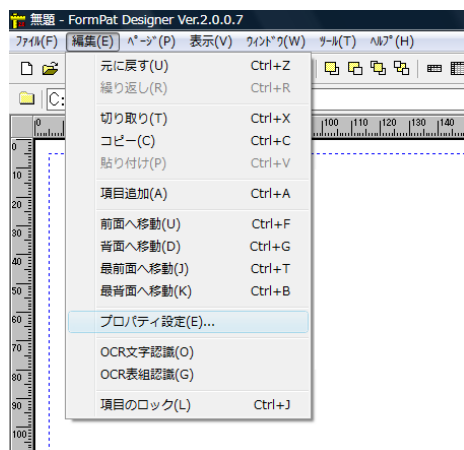


※プロパティの設定については、「1.1. 補足事項」を参照して下さい。

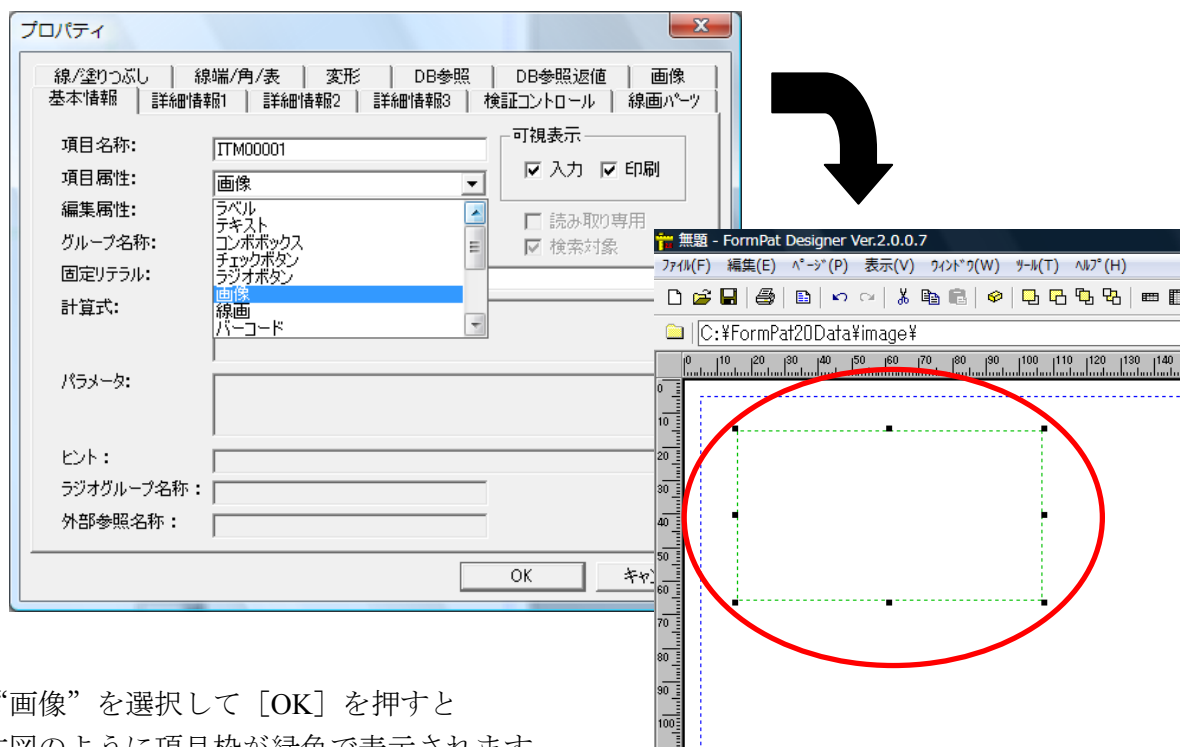
3.1.3 画像の設定

項目の属性を画像に設定します。

- ①項目を追加します（「3.7 項目の追加」参照）。
- ②〔編集(E)〕メニューから〔プロパティ設定(E)〕を選択します。



- ③プロパティ画面が表示されますので、「項目名称」に任意の名称を入力し、「項目属性」で“画像”を選択して下さい。



※ “画像”を選択して〔OK〕を押すと
右図のように項目枠が緑色で表示されます。

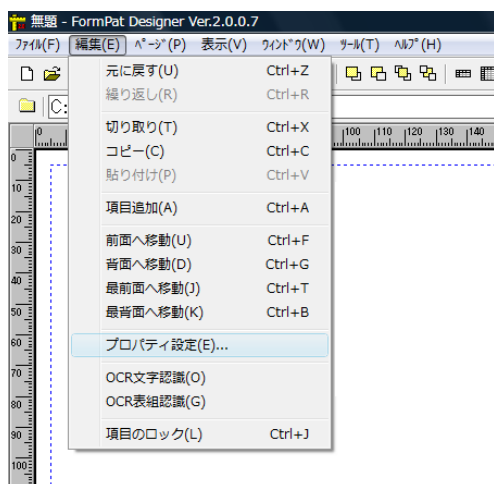
※プロパティの設定については、「1.1. 補足事項」を参照して下さい。

※画像ファイルの貼り付けは「3.1.7 画像ファイルの設定」を参照して下さい。

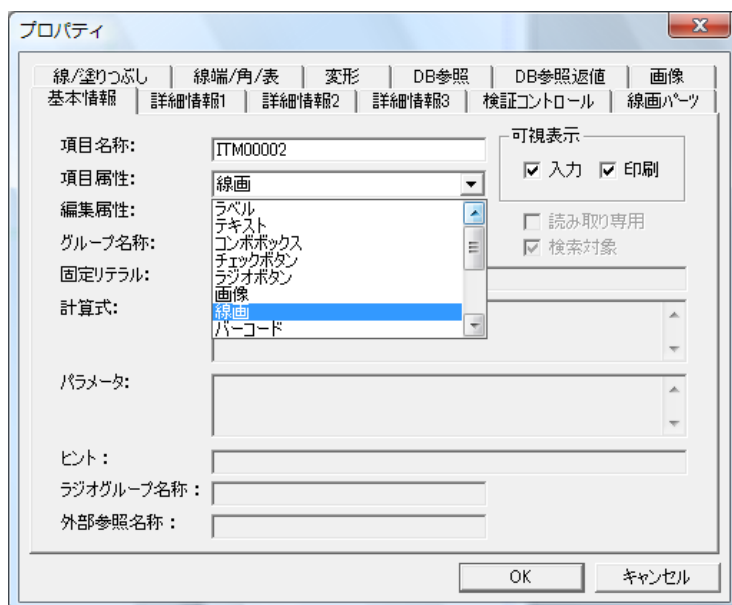
3.1.4 線画の設定

項目の属性を線画に設定します。

- ①項目を追加します（「3.7 項目の追加」参照）。
- ②[編集(E)]メニューから[プロパティ設定(E)]を選択します。

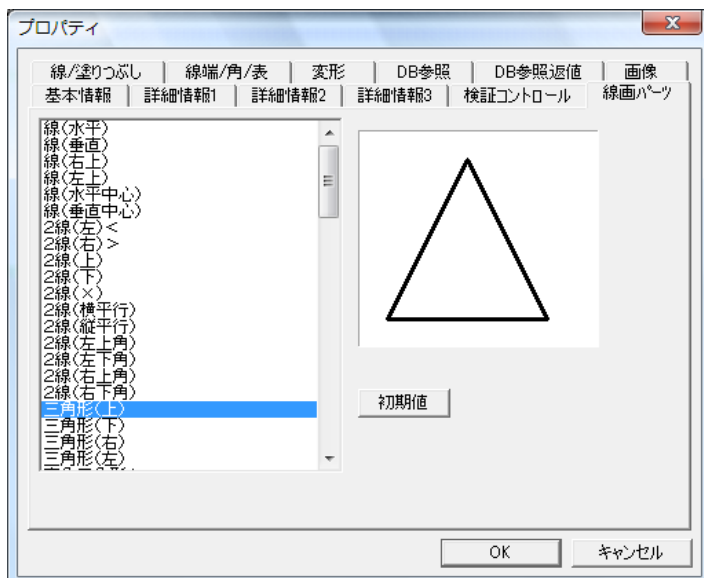


- ③プロパティ画面が表示されますので、「項目名称」に任意の名称を入力し、「項目属性」で“線画”を選択して下さい。

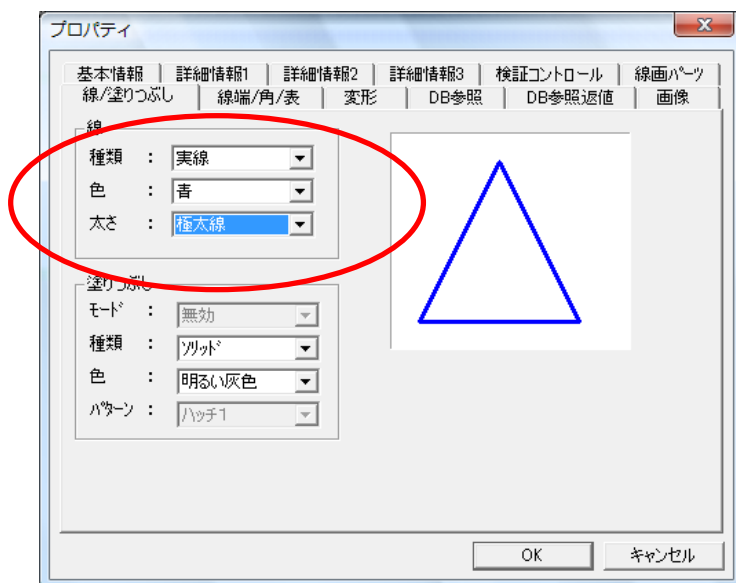


- ④“線画”を選択すると[線画パーツ]、[線塗りつぶし]、[線端/角/表]、[変形]のタブが有効となります。

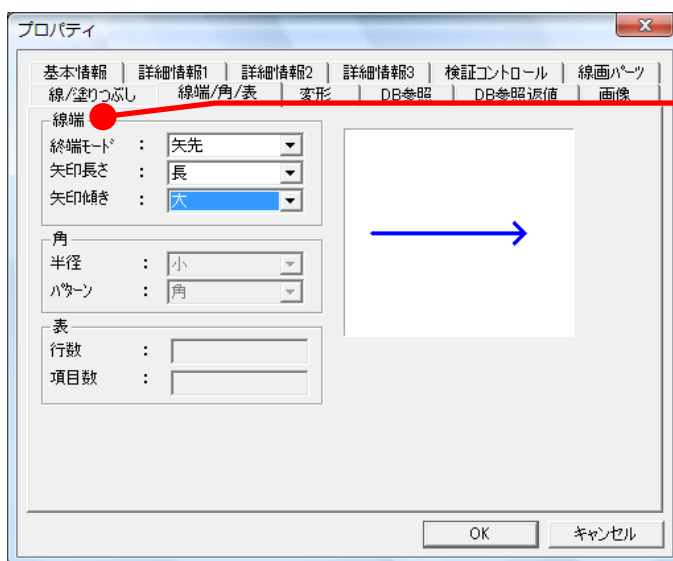
- ④ 線画パーツ] のタブをクリックし、線画の種類を選択します。



- ⑤ 線/塗りつぶし] のタブをクリックし、線の種類、色、太さ等を指定します。

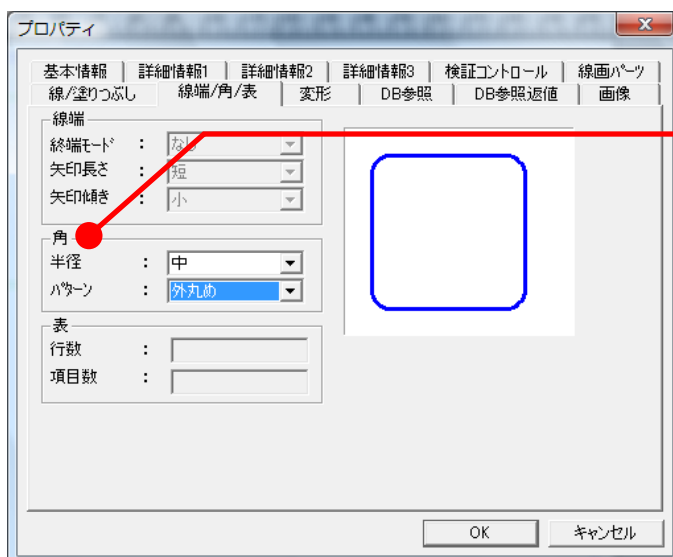


⑥ 線端/角/表] のタブをクリックし、線端、角、表の行数/列数 等を指定します。



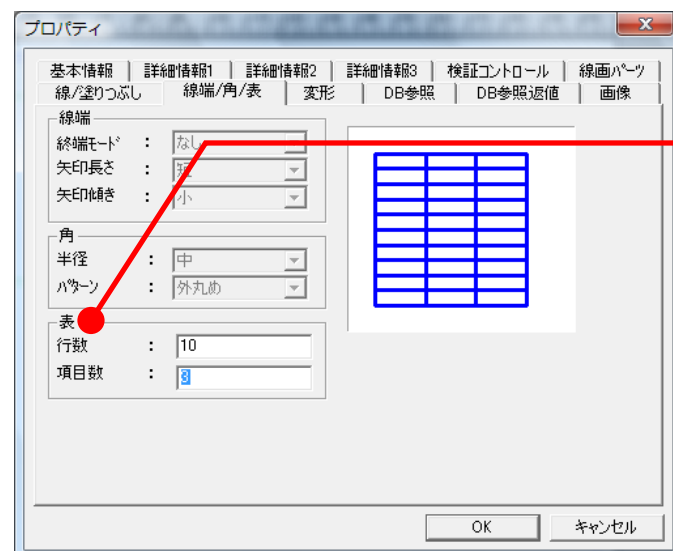
線端

[線画パーツ] で“線”を選択している場合にのみ、指定できます。



角

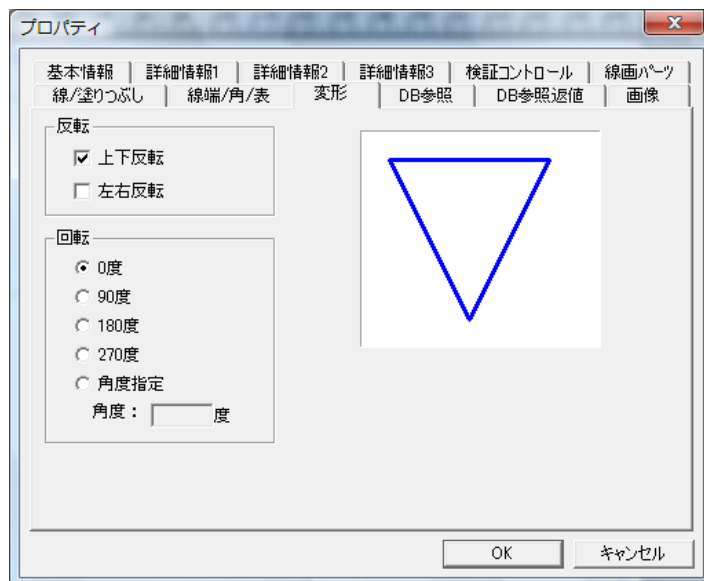
[線画パーツ] で“角丸”を選択している場合にのみ、指定できます。



表

[線画パーツ] で“表”を選択している場合にのみ、指定できます。

⑦ 変形] のタブをクリックし、反転させたり、回転させたりします。

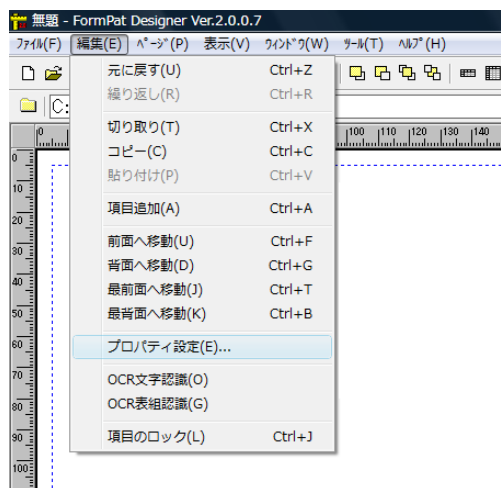


※プロパティの設定については、「1 1. 補足事項」を参照して下さい。

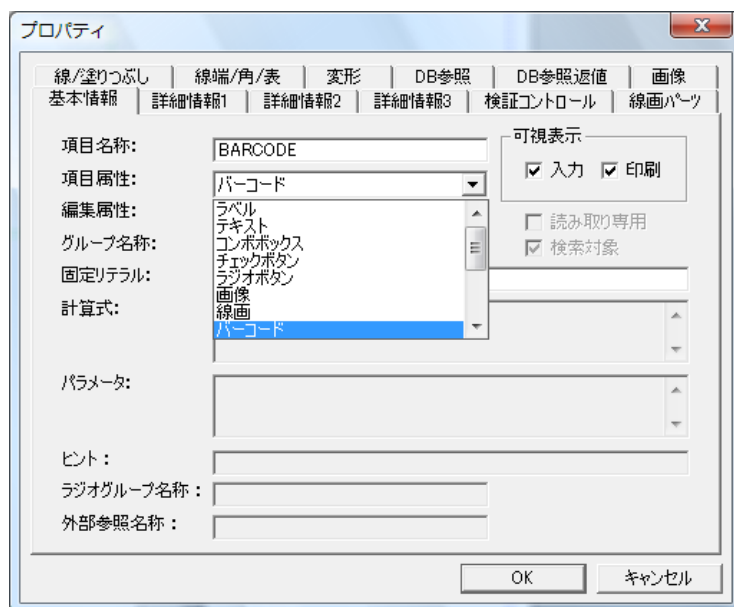
3.15 バーコードの設定

項目の属性をバーコードに設定します。

- ①項目を追加します（「3.7 項目の追加」参照）。
- ②〔編集(E)〕メニューから〔プロパティ設定(E)〕を選択します。



- ③プロパティ画面が表示されますので、「項目名称」に任意の名称を入力し、「項目属性」で“バーコード”を選択して下さい。



④固定リテラルを設定します。バーコードの種類によって以下のように入力して下さい。

- CODE 3 9 : C 3 9 - 0 1 2 3 4 5 A B C D E F G (*1
- J A N 8 : J A S - 1 2 3 4 5 6 7 8 (*2
- J A N 1 3 : J A N - 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 (*3
- N W - 7 : N W 7 - A 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 B (*4
- I T F : I T F - 0 1 2 3 4 5

- *1 最初と最後の桁の*は自動的に付加しますので必要ありません。
- *2 7桁の数字を設定した場合は、8桁目にチェックデジットを自動的に付加します。
- *3 12桁の数字を設定した場合は、13桁目にチェックデジットを自動的に付加します。
- *4 最初と最後の桁にA～Dを付加して下さい。

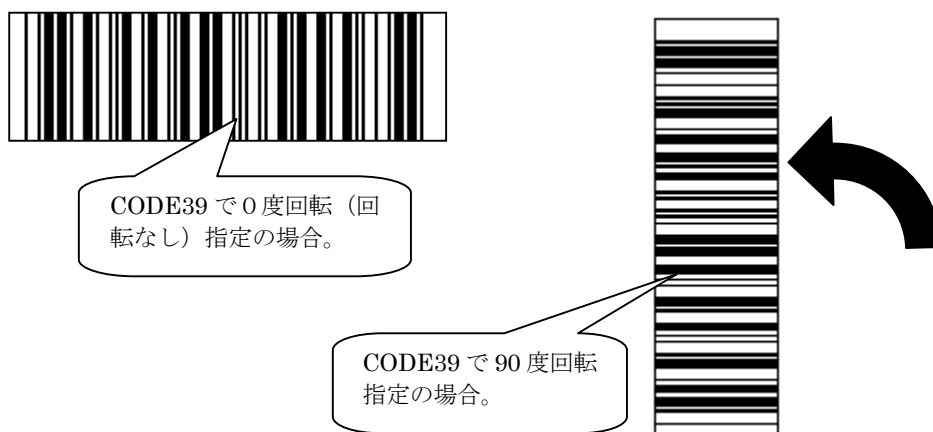
※可変バーコードは、バーコード種類の後に[?]を付加します。

- CODE 3 9 : “C 3 9 - ?”

※バーコードを回転させる場合は、バーコード種類の前に回転モードを付加します。

- CODE 3 9 : “0 - C 3 9 - 1 2 3 4 5” (反時計回りに0度回転) *5
- “1 - C 3 9 - 1 2 3 4 5” (反時計回りに90度回転)
- “2 - C 3 9 - 1 2 3 4 5” (反時計回りに180度回転)
- “3 - C 3 9 - 1 2 3 4 5” (反時計回りに270度回転)

*5 “0 -”は省略可能。

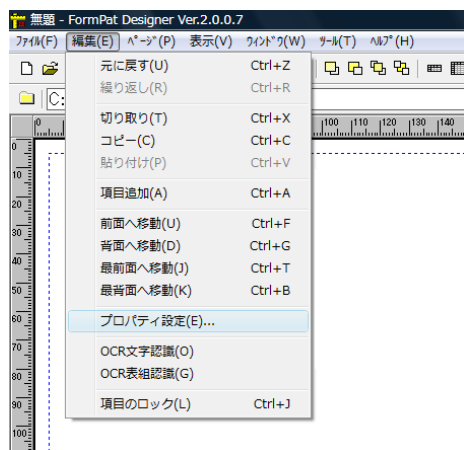


※プロパティの設定については、「11. 補足事項」を参照して下さい。

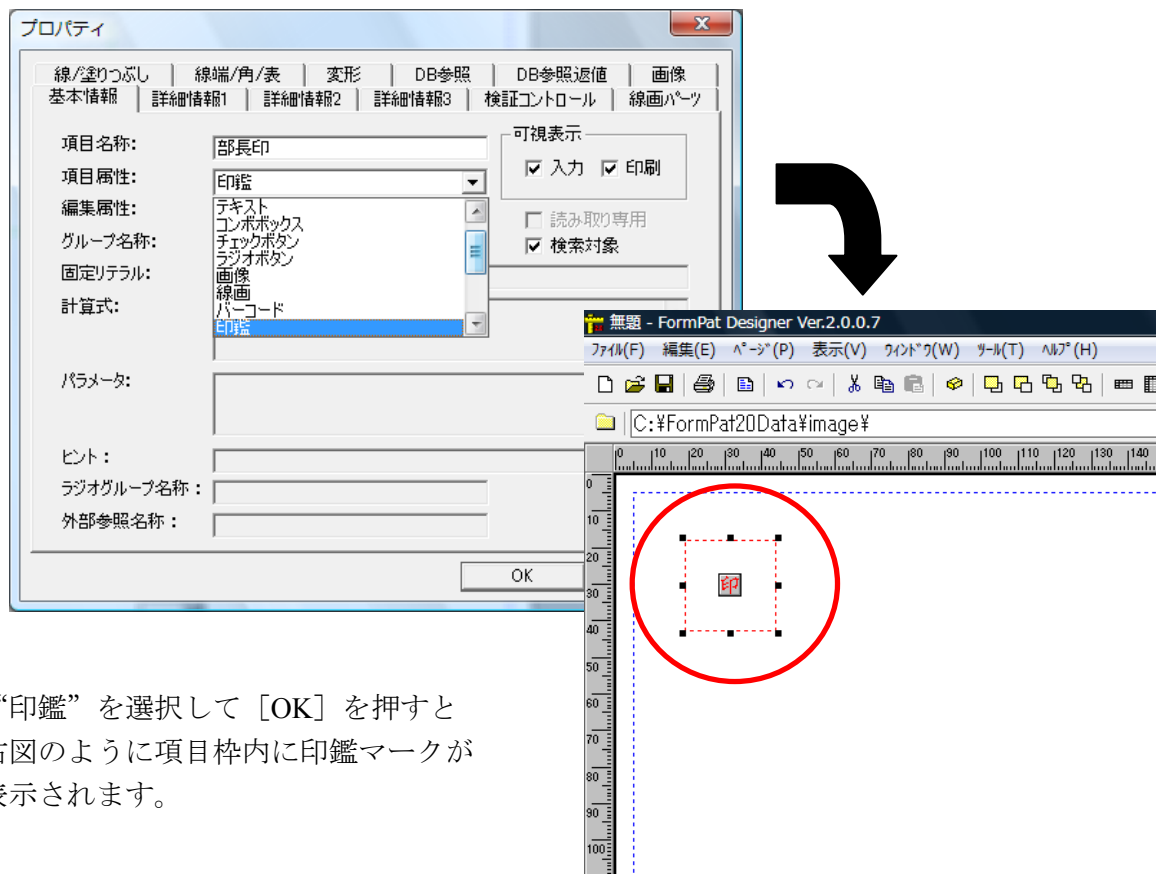
3.16 印鑑の設定

項目の属性を印鑑に設定します。

- ①項目を追加します（「3.7 項目の追加」参照）。
- ② [編集(E)] メニューから [プロパティ設定(E)] を選択します。



- ③プロパティ画面が表示されますので、「項目名称」に任意の名称を入力し、「項目属性」で“印鑑”を選択して下さい。



※ “印鑑” を選択して [OK] を押すと
右図のように項目枠内に印鑑マークが
表示されます。

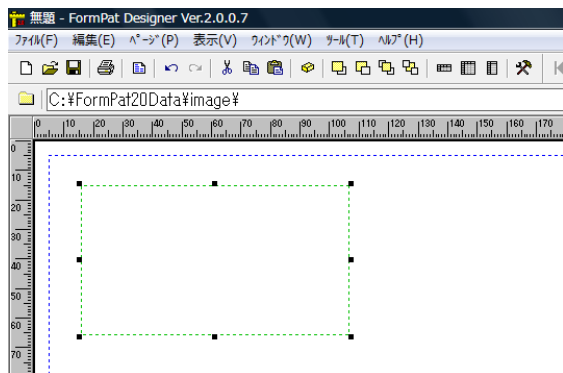
※プロパティの設定については、「11. 補足事項」を参照して下さい。

3.1.7 画像ファイルの設定

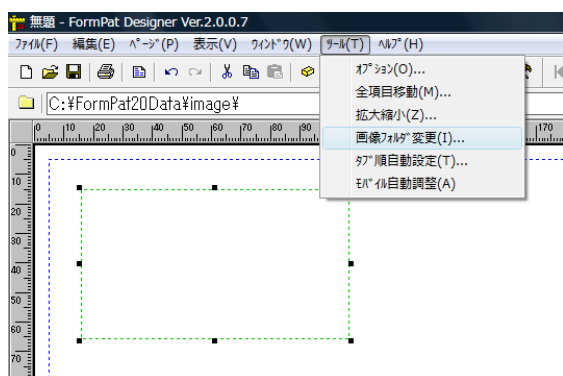
画像項目に貼り付ける画像ファイルを設定します。

①画像項目を追加します（「3.1.2 画像の設定」参照）。

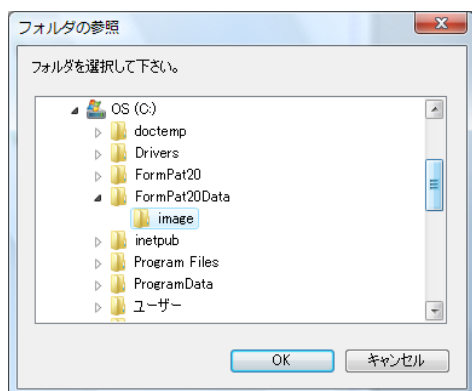
②画像を貼り付ける項目を選択した状態にします。



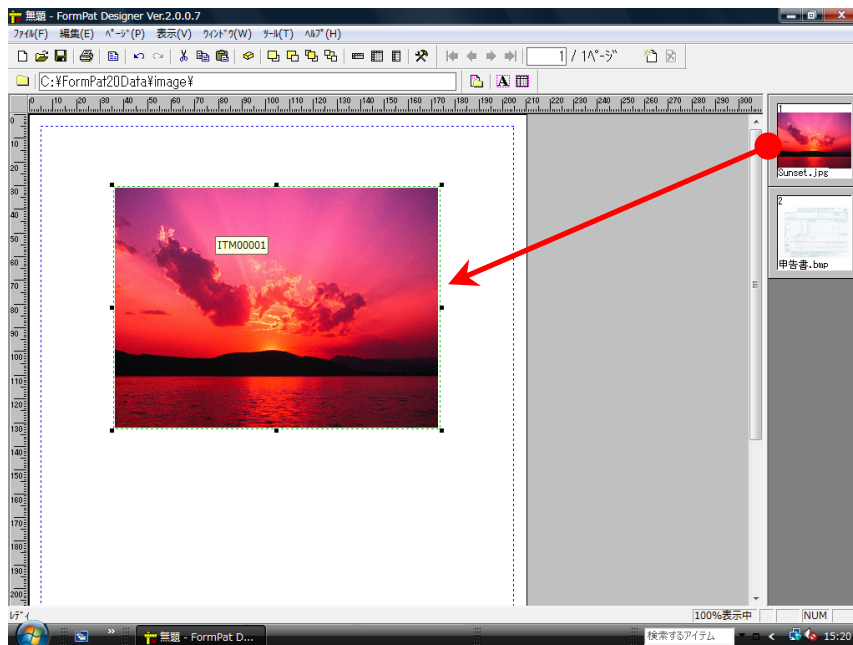
③ [ツール(T)] メニューから [画像フォルダ変更(I)] を選択します。



④フォルダの参照画面が表示されますので、貼り付ける画像が格納されているフォルダを設定して [OK] を押します。



- ⑤指定されたフォルダ内に画像ファイルが存在する場合は、存在する全ての画像を画像一覧表示領域に表示します。貼り付ける画像上でマウスの左ボタンを1回クリックして、画像項目枠へマウスを移動します。さらにマウスの左ボタンを1回クリックして貼り付けます。ここで、マウスの操作はドラッグ&ドロップではなくクリック&クリックですので注意して下さい。

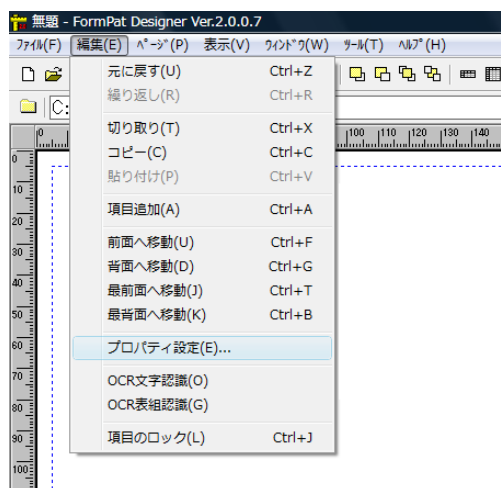


※プロパティの設定については、「1.1. 補足事項」を参照して下さい。

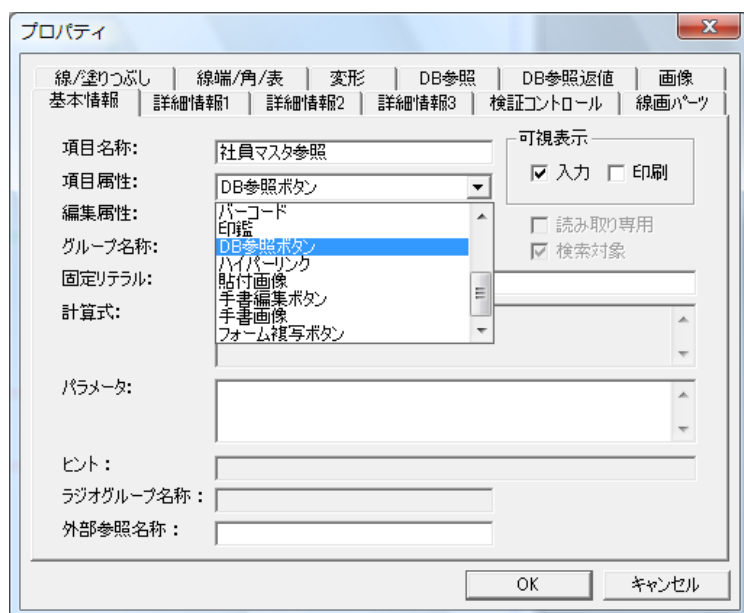
3.18 DB参照の設定

項目の属性をDB参照に設定します。

- ①項目を追加します（「3.7 項目の追加」参照）。
- ②[編集(E)]メニューから[プロパティ設定(E)]を選択します。



- ③プロパティ画面が表示されますので、「項目名称」に任意の名称を入力し、「項目属性」で“DB参照ボタン”を選択して下さい。



※項目属性でDB参照ボタンを選択すると、可視表示の印刷チェックは外れます。

- ④固定リテラルにDB参照ボタンへ表示する文字を設定します。

⑤パラメータにポップアップウィンドウの属性を設定します。

ウィンドウの属性は JAVA スクリプト `window.open` と `window.showModalDialog` の `style` に準拠しています。

但し、`window.open` と `window.showModalDialog` の記述の混在はできません。

主要な属性を下記に示します。これ以外にも指定可能な属性があります。

◇`window.open` の場合

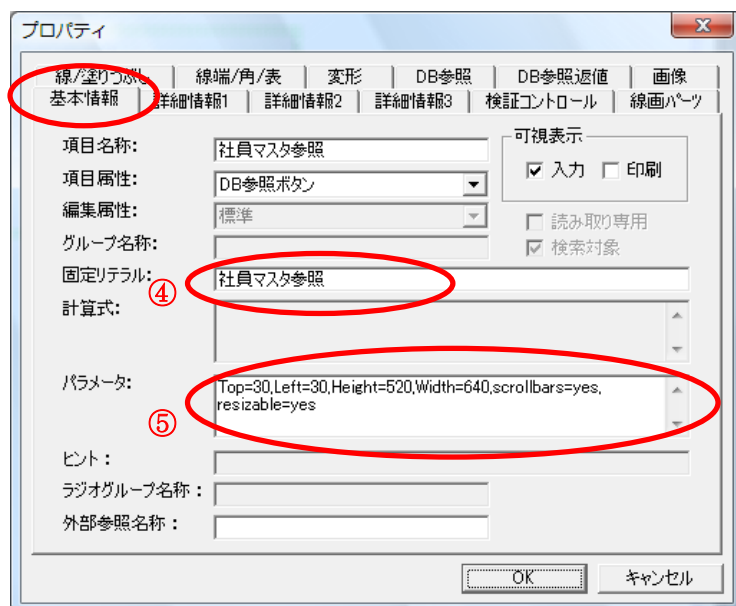
ウィンドウ属性	解説
<code>Top=n</code>	画面の上端からのウィンドウの位置
<code>Left=n</code>	画面の左端からのウィンドウの位置
<code>Height=n</code>	ウィンドウの高さ
<code>Width=n</code>	ウィンドウの横幅
<code>Scrollbars=yes no</code>	スクロールバーの表示／非表示
<code>resizable=yes no</code>	ウィンドウサイズ変更の可能／不可能

例) `Top=30,Left=30,Height=520,Width=640,scrollbars=yes,resizable=yes`

◇`window.showModalDialog` の場合

ウィンドウ属性	解説
<code>dialogTop=npx</code>	画面の上端からのウィンドウの位置 (ピクセル単位)
<code>dialogLeft=npx</code>	画面の左端からのウィンドウの位置 (ピクセル単位)
<code>dialogHeight=npx</code>	ウィンドウの高さ (ピクセル単位)
<code>dialogWidth=npx</code>	ウィンドウの横幅 (ピクセル単位)
<code>scroll=yes no</code>	スクロールバーの表示／非表示
<code>resizable=yes no</code>	ウィンドウサイズ変更の可能／不可能
<code>status=yes no</code>	ステータスバーの表示／非表示

例) `dialogTop =30px; dialogLeft =30px; dialogHeight =520px; dialogWidth =640px; scroll=no;resizable=no;status=no`



⑥DSN に DB 接続情報を設定します。

DB 接続情報	解説
Provider=xxxx	Microsoft Access 2000 / 2002 / 2003 : Microsoft.Jet.OLEDB.4.0 Microsoft SQL Server 2000 : sqloledb Oracle 9i / 10g : Oracle9i (ODP.NET)
Data Source=xxxx	Microsoft Access : mdb ファイル名称 (絶対パス) Microsoft SQL Server 2000 : サーバー名称 Oracle 9i / 10g : ローカル・ネット・サービス名称
User Id=xxxx	ユーザ ID (Microsoft SQL Server 2000、Oracle 9i / 10g のみ)
Password=xxxx	パスワード (Microsoft SQL Server 2000、Oracle 9i / 10g のみ)
Initial Catalog=xxxx	DB 名称 (Microsoft SQL Server 2000 のみ)

例)

■Microsoft Access 2000 / 2002 / 2003

Provider=Microsoft.Jet.OLEDB.4.0;Data Source=c:\¥dat1.mdb;

■Microsoft SQL Server 2000

Provider=sqloledb;Data Source=Svr1;User Id=usr1;Password=pas1;Initial Catalog=dat1;

■Oracle 9i / 10g

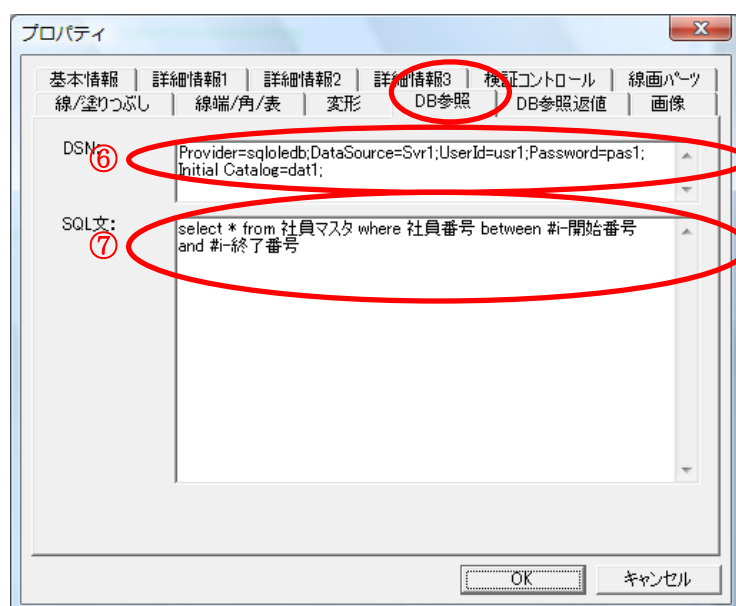
Provider=Oracle9i;Data Source=Ora1;User Id=usr1;Password=pas1;

⑦SQL 文に DB 検索情報を設定します。

画面から検索条件を設定するようにする場合は、パラメータ変数を使用します。

パラメータ変数	解説
#i-xxxx	数値型
#c-xxxx	文字型
#d-xxxx	日付型

例) select * from 社員マスタ where 社員番号 between #i-開始番号 and #i-終了番号



■ 固定値設定

select * from 社員マスタ where 社員番号 between #i-開始番号=0 and #i-終了番号=999

■ 曖昧検索

select * from 社員マスタ where 社員名称 like #c-%名称%

■ 項目値設定

select * from 社員マスタ where 作成日付 >= #d-日付=[登録日]

⑧ 数にDB検索結果を表示する行数を設定します。

⑨ 返値番号に検索結果の返値項目番号を設定します。

項目名称に検索結果を格納するテキスト属性の項目を設定します。

違う項目名称に同じ返値番号を指定することも可能です。

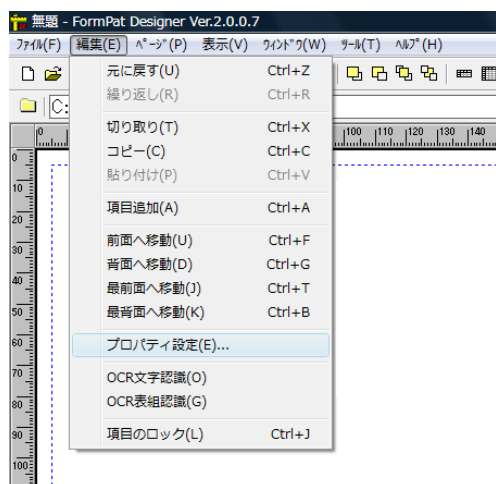
検索結果は最大200項目まで設定できます。[<][>]ボタンでページ移動します。

※プロパティの設定については、「11. 補足事項」を参照して下さい。

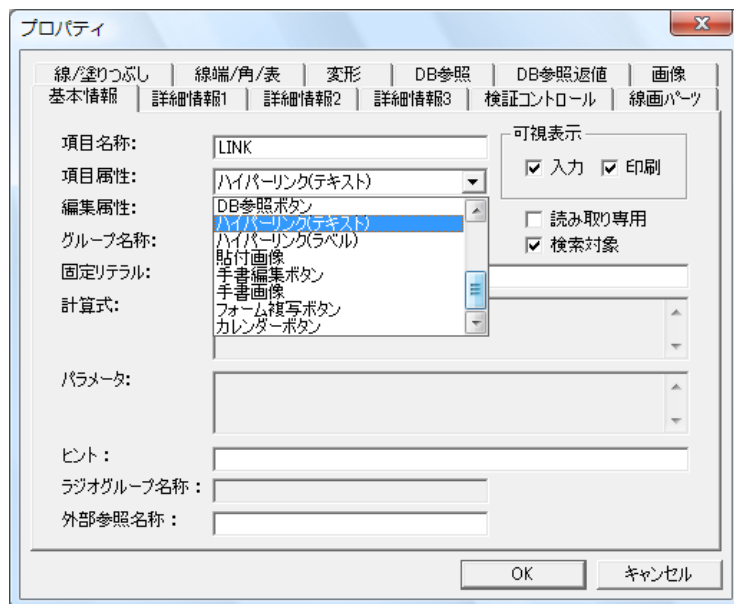
3.19 ハイパーリンク（テキスト）の設定

項目の属性をハイパーリンク（テキスト）に設定します。

- ①項目を追加します（「3.7 項目の追加」参照）。
- ②[編集(E)]メニューから[プロパティ設定(E)]を選択します。



- ③プロパティ画面が表示されますので、「項目名称」に任意の名称を入力し、「項目属性」で“ハイパーリンク（テキスト）”を選択して下さい。



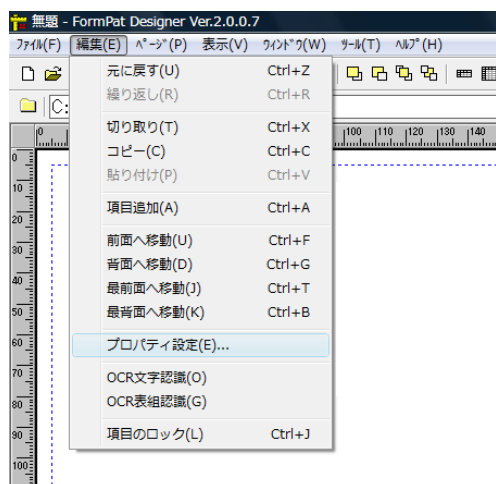
※ハイパーリンク（テキスト）とは、WWWブラウザのプレビュー画面でハイパーリンクになる属性です。

※プロパティの設定については、「11. 補足事項」を参照して下さい。

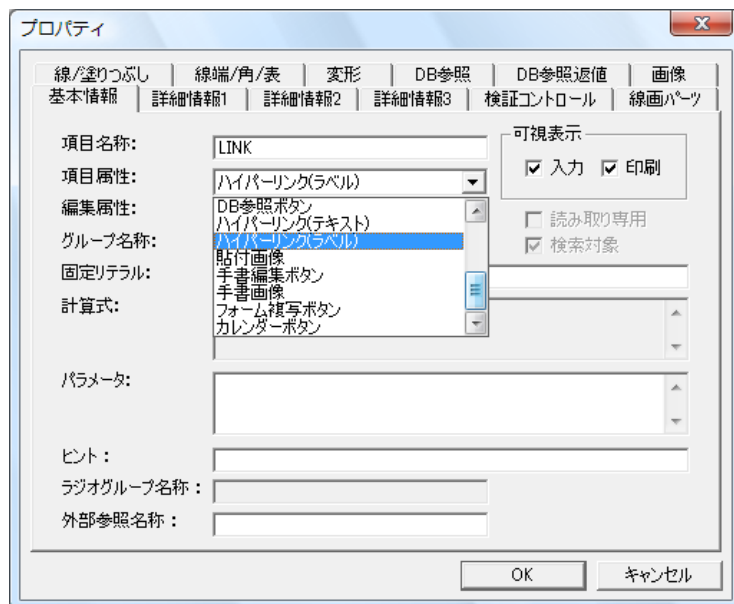
3.20 ハイパーリンク（ラベル）の設定

項目の属性をハイパーリンク（ラベル）に設定します。

- ①項目を追加します（「3.7 項目の追加」参照）。
- ②[編集(E)]メニューから[プロパティ設定(E)]を選択します。



- ③プロパティ画面が表示されますので、「項目名称」に任意の名称を入力し、「項目属性」で“ハイパーリンク（ラベル）”を選択して下さい。



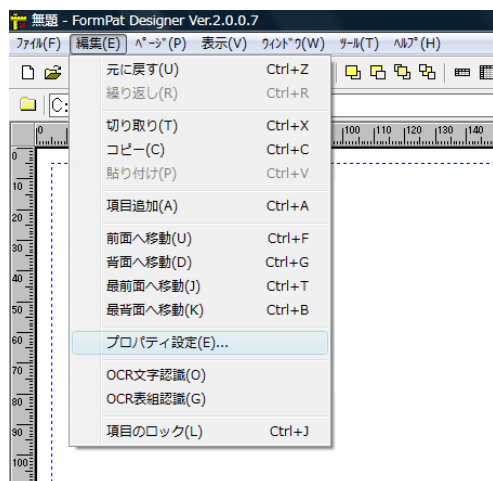
※ハイパーリンク（ラベル）とは、WWWブラウザの入力画面でハイパーリンクになる属性です。

※プロパティの設定については、「11. 補足事項」を参照して下さい。

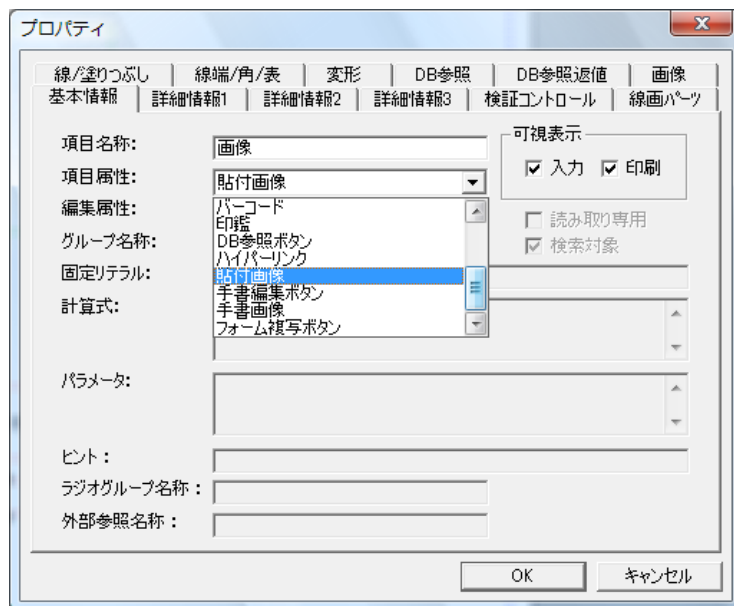
3.2.1 貼付画像の設定

項目の属性を貼付画像に設定します。

- ①項目を追加します（「3.7 項目の追加」参照）。
- ②〔編集(E)〕メニューから〔プロパティ設定(E)〕を選択します。



- ③プロパティ画面が表示されますので、「項目名称」に任意の名称を入力し、「項目属性」で“貼付画像”を選択して下さい。



※プロパティの設定については、「1.1. 補足事項」を参照して下さい。

※貼付画像は仕様上、項目の前後関係を正しく反映できない為、他の項目と重ならない様に配置して下さい。

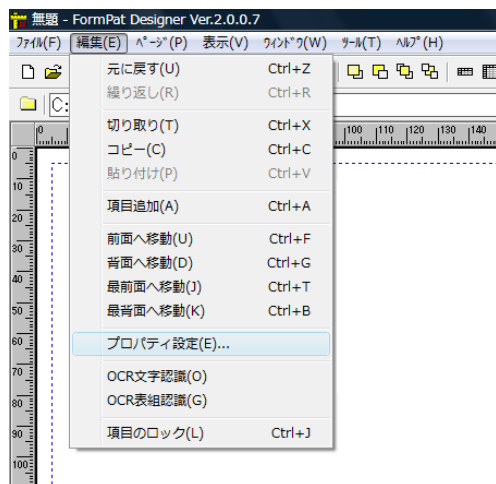
3.2.2 手書編集の設定

項目の属性を手書編集に設定します。

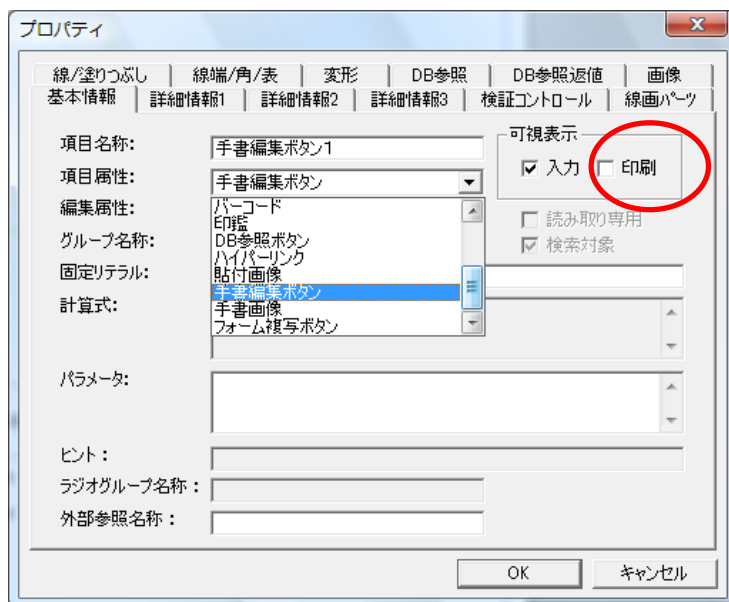
※事前に手書画像項目を作成しておいて下さい（「3.2.1 手書画像の設定」参照）。

①項目を追加します（「3.7 項目の追加」参照）。

② [編集(E)] メニューから [プロパティ設定(E)] を選択します。



③プロパティ画面が表示されますので、「項目名称」に任意の名称を入力し、「項目属性」で“手書編集ボタン”を選択して下さい。

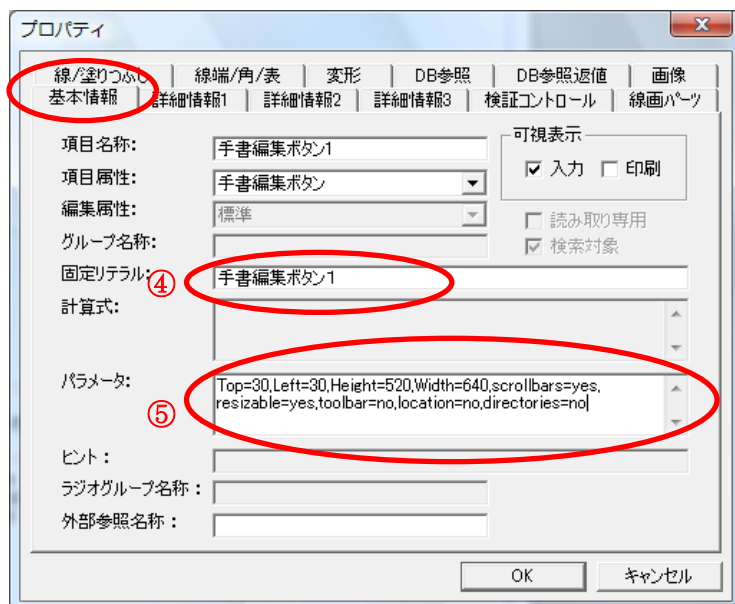


※項目属性で手書編集ボタンを選択すると、可視表示の印刷チェックは外れます。

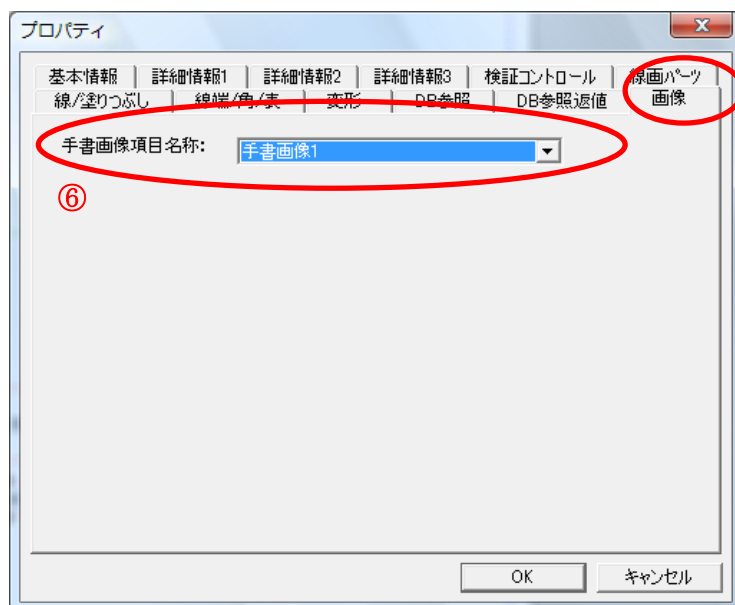
④固定リテラルに手書編集ボタンへ表示する文字を設定します。

⑤パラメータにポップアップウィンドウの属性を設定します。

「3. 18 DB参照の設定」⑤参照。



⑥手書画像項目名称に編集対象となる手書画像属性の項目を設定します。

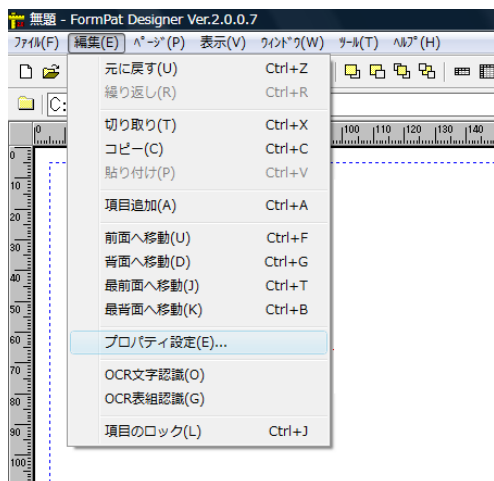


※プロパティの設定については、「1 1. 補足事項」を参照して下さい。

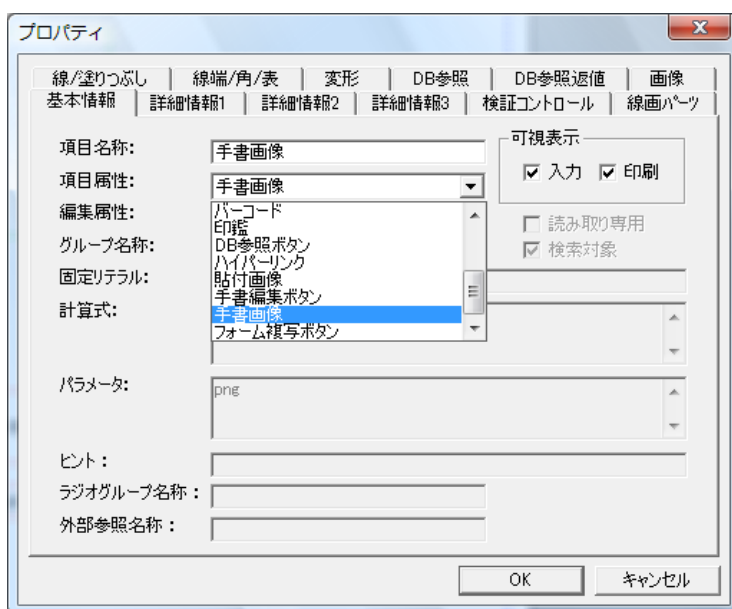
3.2.3 手書画像の設定

項目の属性を手書画像に設定します。

- ①項目を追加します（「3.7 項目の追加」参照）。
- ②[編集(E)] メニューから[プロパティ設定(E)] を選択します。



- ③プロパティ画面が表示されますので、「項目名称」に任意の名称を入力し、「項目属性」で“手書画像”を選択して下さい。



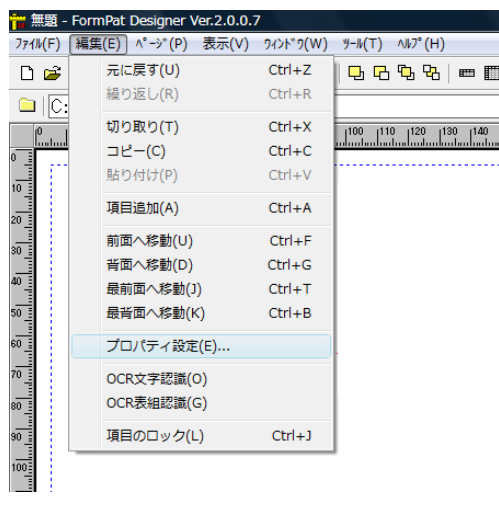
※プロパティの設定については、「1.1. 補足事項」を参照して下さい。

※手書画像は仕様上、項目の前後関係を正しく反映できない為、他の項目と重ならないように配置して下さい。

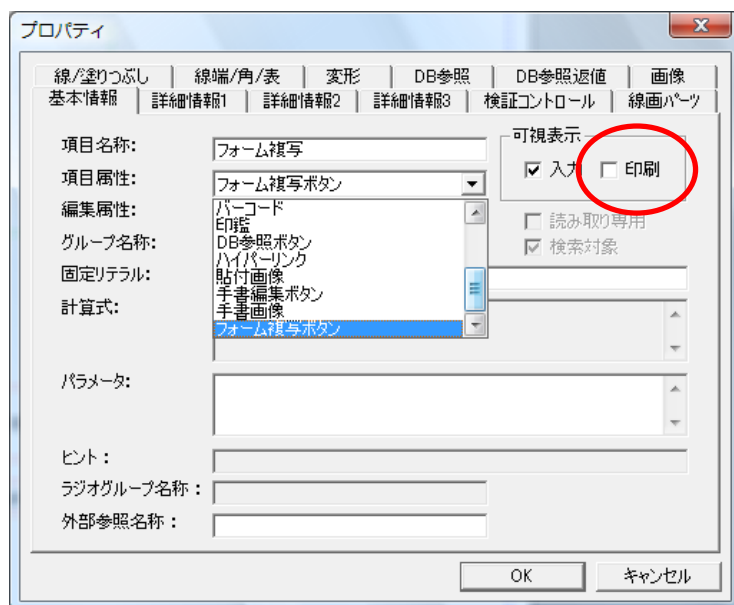
3.2.4 フォーム複写の設定

項目の属性をフォーム複写に設定します。

- ①項目を追加します（「3.7 項目の追加」参照）。
- ②〔編集(E)〕メニューから〔プロパティ設定(E)〕を選択します。



- ③プロパティ画面が表示されますので、「項目名称」に任意の名称を入力し、「項目属性」で“フォーム複写ボタン”を選択して下さい。



※項目属性でフォーム複写ボタンを選択すると、可視表示の印刷チェックは外れます。

④固定リテラルにフォーム複写ボタンへ表示する文字を設定します。

⑤パラメータにポップアップウィンドウの属性を設定します。

「3. 18 DB参照の設定」⑤参照。

プロパティ

線/塗りつぶし | 線端/角/表 | 変形 | DB参照 | DB参照返値 | 画像
基本情報 | 詳細情報1 | 詳細情報2 | 詳細情報3 | 検証コントロール | 線画パーツ

項目名称: フォーム複写

項目属性: フォーム複写ボタン

編集属性: 標準

グループ名称:

固定リテラル: フォーム複写

計算式:

パラメータ: Top=30,Left=30,Height=520,Width=640,scrollbars=yes,resizable=yes,toolbar=no,location=no,directories=no

ヒント:

ラジオグループ名称:

外部参照名称:

OK キャンセル

⑥行数にフォームの検索結果を表示する行数を設定します。

プロパティ

線/塗りつぶし | 線端/角/表 | 変形 | DB参照 | DB参照返値 | 画像
基本情報 | 詳細情報1 | 詳細情報2 | 詳細情報3 | 検証コントロール | 線画パーツ

印刷方向
☒ 横書 ☐ 縦書 ☐ 均等割付け ☐ 複数行

左右
☐ 左詰 ☒ 中央 ☐ 右詰

上下
☐ 上付 ☒ 中央 ☐ 下付

均等割付け
☒ 内寄 ☐ 中央 ☐ 外寄

ポップアップ
行数: 10 行

カレンダー日付項目名称:

OK キャンセル

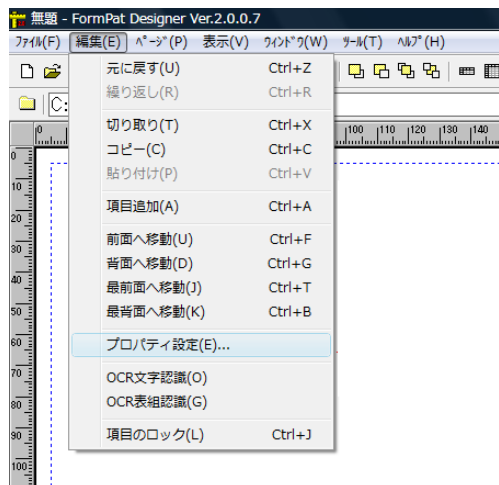
※プロパティの設定については、「1 1. 補足事項」を参照して下さい。

3.25 カレンダーの設定

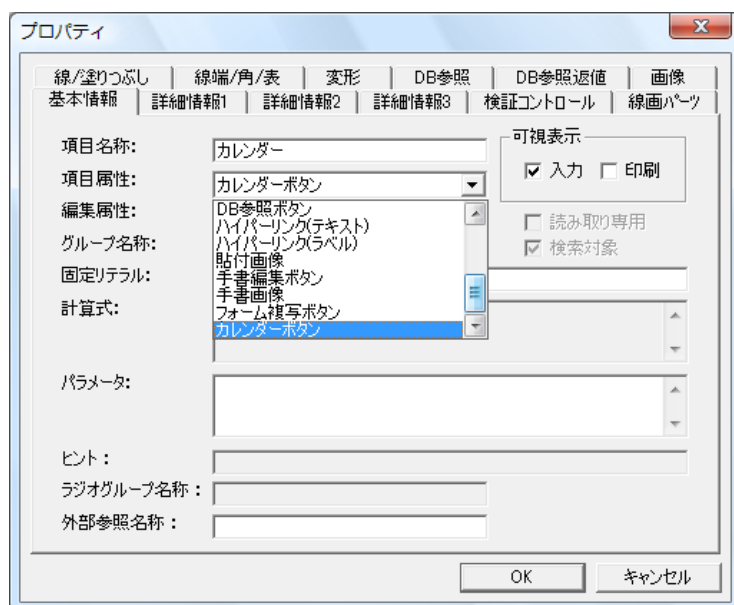
項目の属性をカレンダーに設定します。

※事前に日付項目を作成しておいて下さい。

- ①項目を追加します（「3.7 項目の追加」参照）。
- ②[編集(E)] メニューから[プロパティ設定(E)] を選択します。



- ③プロパティ画面が表示されますので、「項目名称」に任意の名称を入力し、「項目属性」で“カレンダーボタン”を選択して下さい。



※項目属性でカレンダーボタンを選択すると、可視表示の印刷チェックは外れます。

④固定リテラルにカレンダーボタンへ表示する文字を設定します。

⑤パラメータにポップアップウィンドウの属性を設定します。

「3. 18 DB参照の設定」⑤参照。

プロパティ

線/塗りつぶし | 線端/角/表 | 変形 | DB参照 | DB参照返値 | 画像
基本情報 | 詳細情報1 | 詳細情報2 | 詳細情報3 | 検証コントロール | 線画パーツ

項目名称: カレンダー
項目属性: カレンダーボタン
編集属性: 標準
グループ名称:
固定リテラル: カレンダー
計算式:
パラメータ: Top=30,Left=30,Height=520,Width=640,Scrollbars=yes,resizable=yes,toolbar=no,location=no,directories=no
ヒント:
ラジオグループ名称:
外部参照名称:

可視表示
☒ 入力 ☐ 印刷
☐ 読み取り専用
☒ 検索対象

OK キャンセル

⑥カレンダー日付項目名称に貼付対象となる日付項目を設定します。

プロパティ

線/塗りつぶし | 線端/角/表 | 変形 | DB参照 | DB参照返値 | 画像
基本情報 | 詳細情報1 | 詳細情報2 | 詳細情報3 | 検証コントロール | 線画パーツ

印刷方向
☒ 横書 ☐ 縦書 ☐ 均等割付け
☐ 複数行

左右
☐ 左詰 ☒ 中央 ☐ 右詰

上下
☐ 上付 ☒ 中央 ☐ 下付

均等割付け
☒ 内寄 ☐ 中央 ☐ 外寄

ポップアップ
⑥ 行数: 0 行

カレンダー日付項目名称:
作成日
承認日
申請日

OK キャンセル

3.2.6 その他プロパティ項目の設定

その他のプロパティ項目を設定します。

3.2.6.1 可視表示

入力と印刷でそれぞれの可視表示、不可視表示が設定できます。

チェックを付けると可視になり、チェックを外すと不可視になります。

不可視の場合でも計算式や検証コントロールに使用することは可能です。

例えば、入力はさせるが印刷はさせたくない場合には、入力のみチェックを付けます。

プロパティ

線/塗りつぶし | 線端/角/表 | 変形 | DB参照 | DB参照返値 | 画像

基本情報 | 詳細情報1 | 詳細情報2 | 詳細情報3 | 検証コントロール | 線画パーツ

項目名称: 社員番号

項目属性: テキスト

編集属性: 標準

グループ名称:

固定リテラル:

計算式:

パラメータ:

ヒント: 社員番号を入力してください。

ラジオグループ名称:

外部参照名称:

可視表示

☒ 入力 ☒ 印刷

☐ 読み取り専用

☒ 検索対象

OK キャンセル

3.2.6.2 読み取り専用

テキスト属性を入力できない読み取り専用を設定できます。

DB 参照等でデータは設定するが、入力はさせたくない場合に使用します。

プロパティ

線/塗りつぶし | 線端/角/表 | 変形 | DB参照 | DB参照返値 | 画像

基本情報 | 詳細情報1 | 詳細情報2 | 詳細情報3 | 検証コントロール | 線画パーツ

項目名称: 社員番号

項目属性: テキスト

編集属性: 標準

グループ名称:

固定リテラル:

計算式:

パラメータ:

ヒント: 社員番号を入力してください。

ラジオグループ名称:

外部参照名称:

可視表示

☒ 入力 ☒ 印刷

☒ 読み取り専用

☒ 検索対象

OK キャンセル

3.2 6.3 検索対象

検索の対象項目にする場合にチェックを付けます。
標準は検索対象になっています。

プロパティ

線/塗りつぶし | 線端/角/表 | 変形 | DB参照 | DB参照返値 | 画像
基本情報 | 詳細情報1 | 詳細情報2 | 詳細情報3 | 検証コントロール | 線画パーツ

項目名称: 社員番号

項目属性: テキスト

編集属性: 標準

グループ名称:

固定リテラル:

計算式:

パラメータ:

ヒント: 社員番号を入力してください。

ラジオグループ名称:

外部参照名称:

可視表示
☒ 入力 ☒ 印刷
☒ 読み取り専用
☒ 検索対象

OK キャンセル

3.2 6.4 ラジオグループ名称

ラジオボタンのグループ名称を設定します。

プロパティ

線/塗りつぶし | 線端/角/表 | 変形 | DB参照 | DB参照返値 | 画像
基本情報 | 詳細情報1 | 詳細情報2 | 詳細情報3 | 検証コントロール | 線画パーツ

項目名称: 男性

項目属性: ラジオボタン

編集属性: 標準

グループ名称:

固定リテラル:

計算式:

パラメータ:

ヒント:

ラジオグループ名称: 性別

外部参照名称:

可視表示
☒ 入力 ☒ 印刷
☒ 読み取り専用
☒ 検索対象

OK キャンセル

3.2 6.5 外部参照名称

プロパティの初期値を外部ファイルから参照するときに、外部ファイルに登録されている参照名称を設定します。

外部ファイル名は SetControl.xml です。

プロパティ

線/塗りつぶし | 線端/角/表 | 変形 | DB参照 | DB参照返値 | 画像

基本情報 | 詳細情報1 | 詳細情報2 | 詳細情報3 | 検証コントロール | 線画パーツ

項目名称: 商品

項目属性: テキスト

編集属性: 標準

グループ名称:

固定リテラル:

計算式:

パラメータ:

ヒント:

ラジオグループ名称: 性別

外部参照名称:

可視表示

☒ 入力 ☒ 印刷

☒ 読み取り専用

☒ 検索対象

OK キャンセル

※外部ファイルの詳細については、「8. 外部ファイルについて」を参照して下さい。

3.2 6.6 端数処理

ラベル属性を表示する際の端数処理を設定します。端数処理は小数桁より下の桁で処理されます。例えば、小数が2桁のときは小数第3位が端数処理の対象となり、小数が0桁のときは小数第1位が端数処理の対象になります。

なお、計算式で保存されるデータには端数処理の影響はありません。

プロパティ

線/塗りつぶし | 線端/角/表 | 変形 | DB参照 | DB参照返値 | 画像

基本情報 | 詳細情報1 | 詳細情報2 | 詳細情報3 | 検証コントロール | 線画パーツ

位置とサイズ

縦: 100 mm 横: 500 mm

高さ: 100 mm 幅: 400 mm

桁数

整数: 10 桁 小数: 0 桁

フォント

名称: MS ゴシック

サイズ: 1000 ☐ 太字 ☐ 斜体

端数処理

☒ なし

☐ 四捨五入

☐ 切り上げ

☐ 切り捨て

計算結果のゼロサプレス

☒ なし

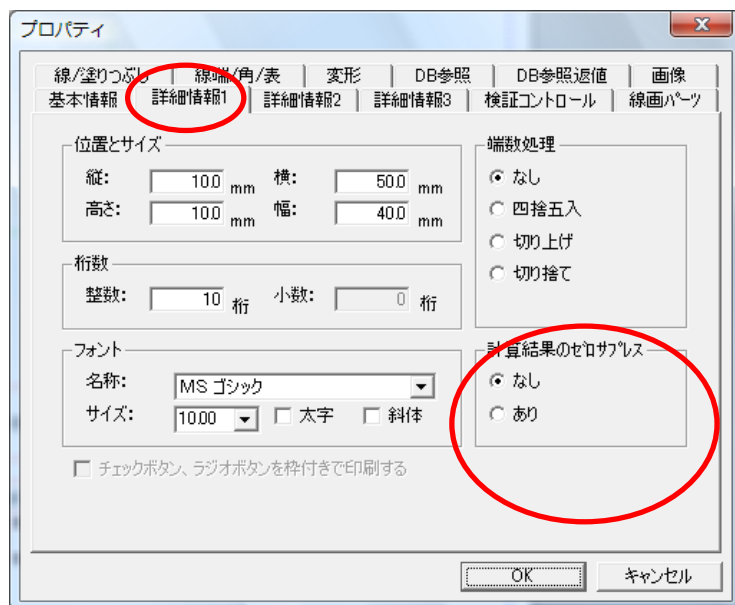
☐ あり

☐ チェックボタン、ラジオボタンを枠付きで印刷する

OK キャンセル

3.2 6.7 計算結果のゼロサプレス

計算結果が0（ゼロ）の時、そのまま0を表示する場合は「なし」を選択し、何も表示したくない（空白）場合は「あり」を選択します。

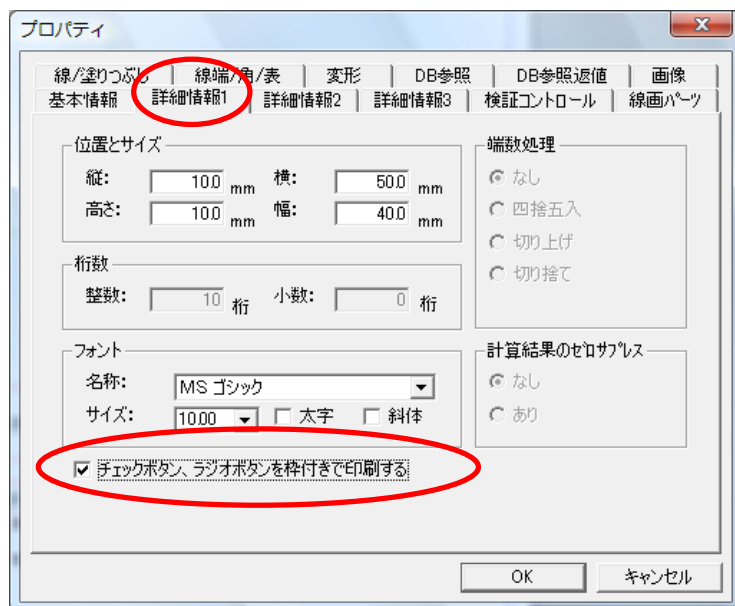


◇ 例) 計算結果（ラベル）のゼロサプレス

ゼロサプレス	A	B	A×Bの結果
あり	2	200	400
なし	2	200	400
あり	3	0	空白
なし	3	0	0
あり	0	300	空白
なし	0	300	0
あり	4	空白	空白
なし	4	空白	0
あり	空白	400	空白
なし	空白	400	0
あり	空白	空白	空白
なし	空白	空白	空白

3.2 6.8 チェックボタン、ラジオボタンを枠付きで印刷する

チェックボタン、ラジオボタンに枠を付けて印刷する時は、「チェックボタン、ラジオボタンを枠付きで印刷する」にチェックします。



3.2 6.9 計算式

四則演算や関数を設定することができます。

また、計算式に項目名のみを設定することで、その項目の値を複写することもできます。

◇ 演算記号の種類

加算	+
減算	-
乗算	*
除算	/
余り	%

◇ 関数の種類

合計	SUM
平均	AVERAGE
桁処理	ROUND, ROUNDUP, ROUNDDOWN
最大値	MAX
最小値	MIN
絶対値	ABS
整数化	INT
平方根	SQR

◇ 関数の記述方法

個別合計	SUM(項目名, 項目名, 項目名,)
共通変数範囲合計	SUM(項目共通名:開始 NO:終了 NO)
個別平均	AVERAGE(項目名, 項目名, 項目名,)
共通変数範囲	AVERAGE(項目共通名:開始 NO:終了 NO)
四捨五入	ROUND(項目名, 桁数) ※ 1
切上げ	ROUNDUP(項目名, 桁数) ※ 1
切捨て	ROUNDDOWN(項目名, 桁数) ※ 1
個別最大値	MAX(項目名, 項目名, 項目名,)
共通変数範囲最大値	MAX(項目共通名:開始 NO:終了 NO)
個別最小値	MIN(項目名, 項目名, 項目名,)
共通変数範囲最小値	MIN(項目共通名:開始 NO:終了 NO)
絶対値	ABS(項目名)
整数化	INT(項目名) ※ 2
平方根	SQR(項目名)

※ 1 桁数には有効桁数を指定します。

桁数が 1 のときは、小数第 2 位を丸めて小数第 1 位の値にします。

桁数が 0 のときは、小数第 1 位を丸めて整数の値にします。

桁数が -1 のときは、整数 1 の位を丸めて整数の値にします。

※ 2 整数化の際に小数点以下は切捨てます。

◇ 計算式の記述例

四則演算	((項目 1+項目 2-項目 3)*項目 4)/項目 5
個別合計	SUM(項目 1, 項目 3, 項目 5, 項目 8)
共通変数範囲合計(項目 1～項目 10)	SUM(項目:1:10)
個別平均	AVERAGE(項目 3, 項目 5)
共通変数範囲合計(項目 3～項目 20)	AVERAGE(項目:3:20)
四捨五入	ROUND(項目 1, 3)
切上げ	ROUNDUP(項目 1, 3)
切捨て	ROUNDDOWN(項目 1, 3)
個別最大値	MAX(項目 2, 項目 3, 項目 5, 項目 9)
共通変数範囲最大値(項目 1～項目 10)	MAX(項目:1:10)
個別最小値	MIN(項目 3, 項目 4, 項目 6, 項目 8)
共通変数範囲最小値(項目 3～項目 20)	MIN(項目:3:20)
絶対値	ABS(項目 1)
整数化	INT(項目 1)
平方根	SQR(項目 1)

※ + - * / % , : () の前後にはスペースを入れないで下さい。

※ + - * / % , : () は半角文字を使用して下さい。

◇計算式の結果例

項目 1 が 123.4567 の場合

ROUND(項目 1, 3)	→	123.457
ROUNDUP(項目 1, 3)	→	123.457
ROUNDDOWN(項目 1, 3)	→	123.456
INT(項目 1)	→	123

◇分岐計算式の記述方法

分岐条件による計算式を組み込む場合に使用します。

<基本構文>

SELECT(条件,式)	数値比較用数値設定
SELECTM(条件,式)	文字列比較用数値設定
STRSELECT(条件,文字列)	数値比較用文字列設定
STRSELECTM(条件,文字列)	文字列比較用文字列設定

※文字列にはテキスト項目名、ラベル項目名、固定文字列を指定可能です。

<比較記号>

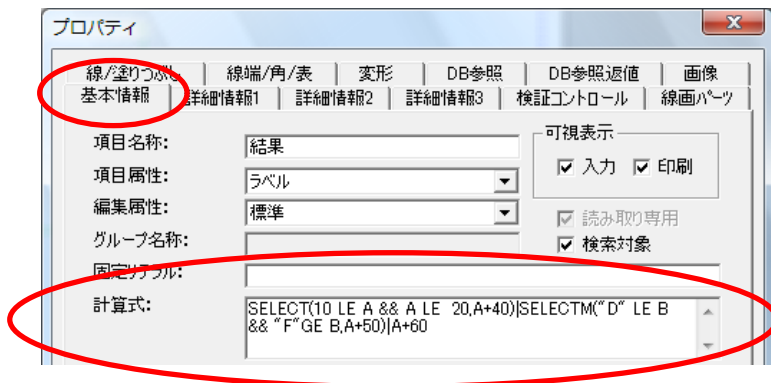
< : LT	≦ : LE	= : EQ
> : GT	≧ : GE	≠ : NE

SELECT()、SELECTM()、STRSELECT()、STRSELECTM()間の区切りは | を使用します。
条件の中は && のみ使用可能です。条件の中に "|, & () は使用禁止です。
条件及び式の中に分岐計算式(SELECT、SELECTM 等)、関数(SUM、ROUND 等)も使用禁止です。

◇分岐計算式の記述例

A=10～20 のとき A+40、B="D～F"のとき A+50、それ以外は A+60

SELECT(10 □ LE □ A □ && □ A □ LE □ 20,A+40)|SELECTM("D" □ LE □ B
□ && □ "F" □ GE □ B,A+50)|A+60



A=10～20 のとき “山田”、B= “D～F” のとき “田中”、それ以外は “佐藤”

STRSELECT(10 □ LE □ A □ && □ A □ LE □ 20,"山田")|STRSELECTM("D" □ LE □ B
□ && □ "F" □ GE □ B,"田中")|"佐藤"

※ Aは数値属性、Bは文字属性とする。なお、□ は半角スペースの意味です。

※ + - * / % , | () の前後にはスペースを入れないで下さい。

※ + - * / % , | () は半角文字を使用して下さい。

3.2.6.10 検証コントロール

必須、範囲判定、大小等価判定、形態チェックを設定することができます。

◇ 必須

必須の有無をチェックします。

◇ 範囲判定

入力データが指定された範囲になっているかチェックします。

範囲を「開始」～「終了」で指定します。

◇ 大小等価判定

入力データを基準値またはコントロールと比較します。

比較記号： =、≠、>、≥、<、≤

基準値： 比較する値を指定します。

コントロール： 比較する項目名を指定します。

◇ 形態チェック

入力データが指定された形態になっているかチェックします。

既定値：URL、E-Mail、電話番号、郵便番号、時刻(時分)、時刻(時分秒)、
時間(時分)、時間(時分秒)

任意：任意の形態チェックを外部ファイルから参照するときに、外部ファイルに
登録されている参照名称を設定します。

外部ファイル名は Validate.ref です。

プロパティ

線/塗りつぶし | 線端/角/表 | 変形 | DB参照 | DB参照逆施 | 画像
基本情報 | 詳細情報1 | 詳細情報2 | 詳細情報3 | 検証コントロール | 線画パーツ

☒ 必須 ☒ 判定

☒ 範囲判定 10 ~ 100

☐ 大小等価判定

比較記号 =

☒ 基準値

☐ コントロール 社員番号

☐ 形態チェック

☒ 規定値 URL

☐ 任意

OK キャンセル

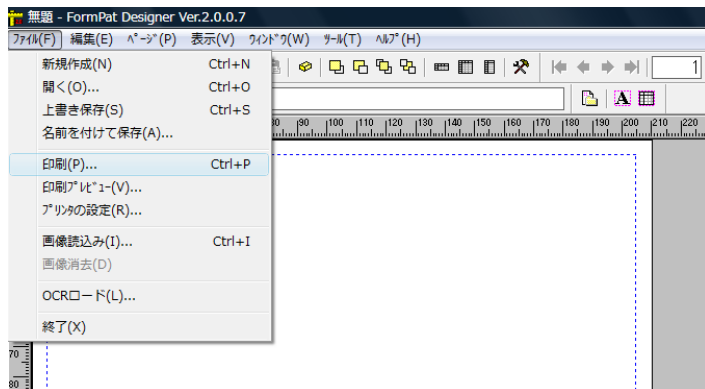
※外部ファイルに登録されていない参照名称が設定されているときは、未チェックとして
処理されますので、ご注意ください。

※外部ファイルの詳細については、「8. 外部ファイルについて」を参照して下さい。

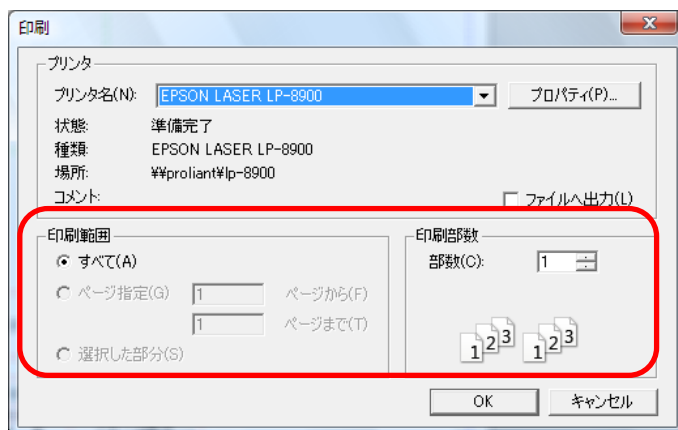
3.27 フォームの印刷

編集集中のフォームを印刷します。

- ① ファイル(F) メニューの [印刷(P)...] を選択します。



- ②印刷設定画面が表示されますが、印刷範囲と印刷部数以外は何も変更を加えず
[OK] を押します。プリンタやプロパティを変更する場合は、
『3.3 プリンタの設定』をご覧ください。また、印刷範囲については複数ページ
作成されている場合に指定できるようになります。



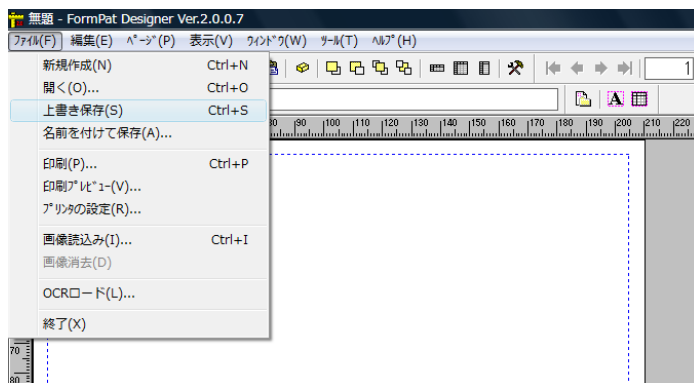
- ③印刷が開始されると次の画面が表示されますので、印刷を中止する場合は [キャンセル] を
押して下さい。但し、使用するコンピュータやプリンタによっては処理速度が速い為に
中止できない場合もあります。



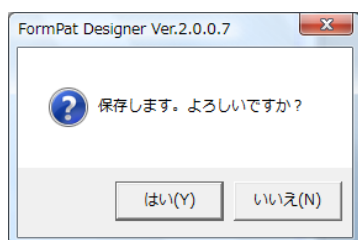
3.28 フォームの保存

編集中のフォームを保存します。

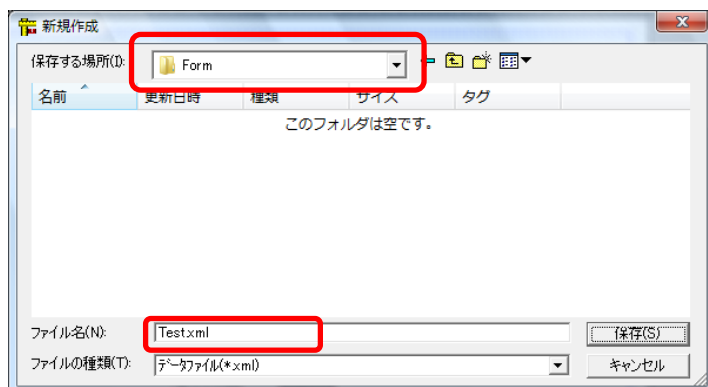
- ① ファイル(F) メニューの [上書き保存(S)] を選択します。



- ② 存確認画面が表示されますので、[はい(Y)] を押します。



- ③ 新規作成画面が表示されますので、保存する場所とファイル名称を指定して [保存(S)] を押します。



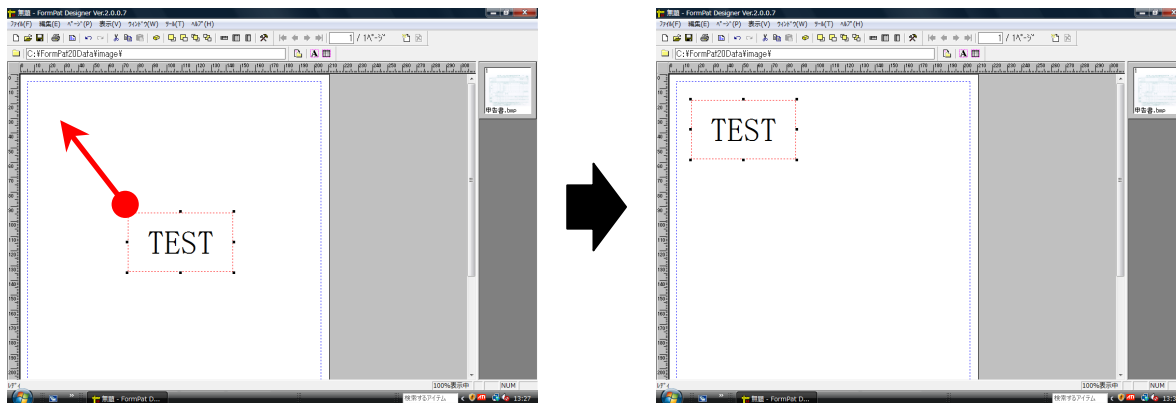
※ファイル名には xml 形式ファイル（xxxx.xml）または拡張子無し形式ファイルを指定して下さい。

BLANK PAGE

4. 項目操作

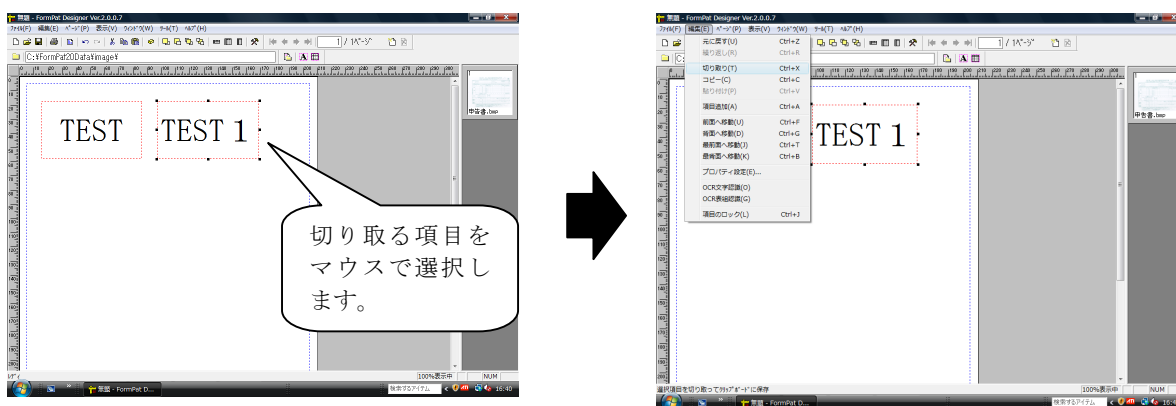
4.1 項目の移動

移動させる項目枠の上にマウスを移動します。
マウスの形状が  から  に変化しますので、マウスの左ボタンを押したまま
目的の位置へマウスを移動させ、マウスの左ボタンを離します。

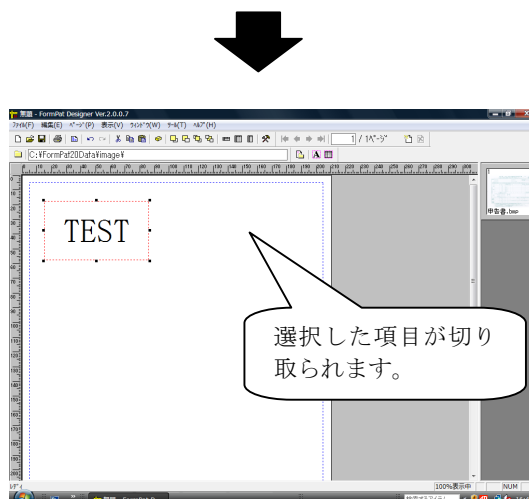


4.2 項目の切り取り

切り取りたい項目の枠をマウスで選択し、[編集(E)] メニューから [切り取り(T)] を
選択します。



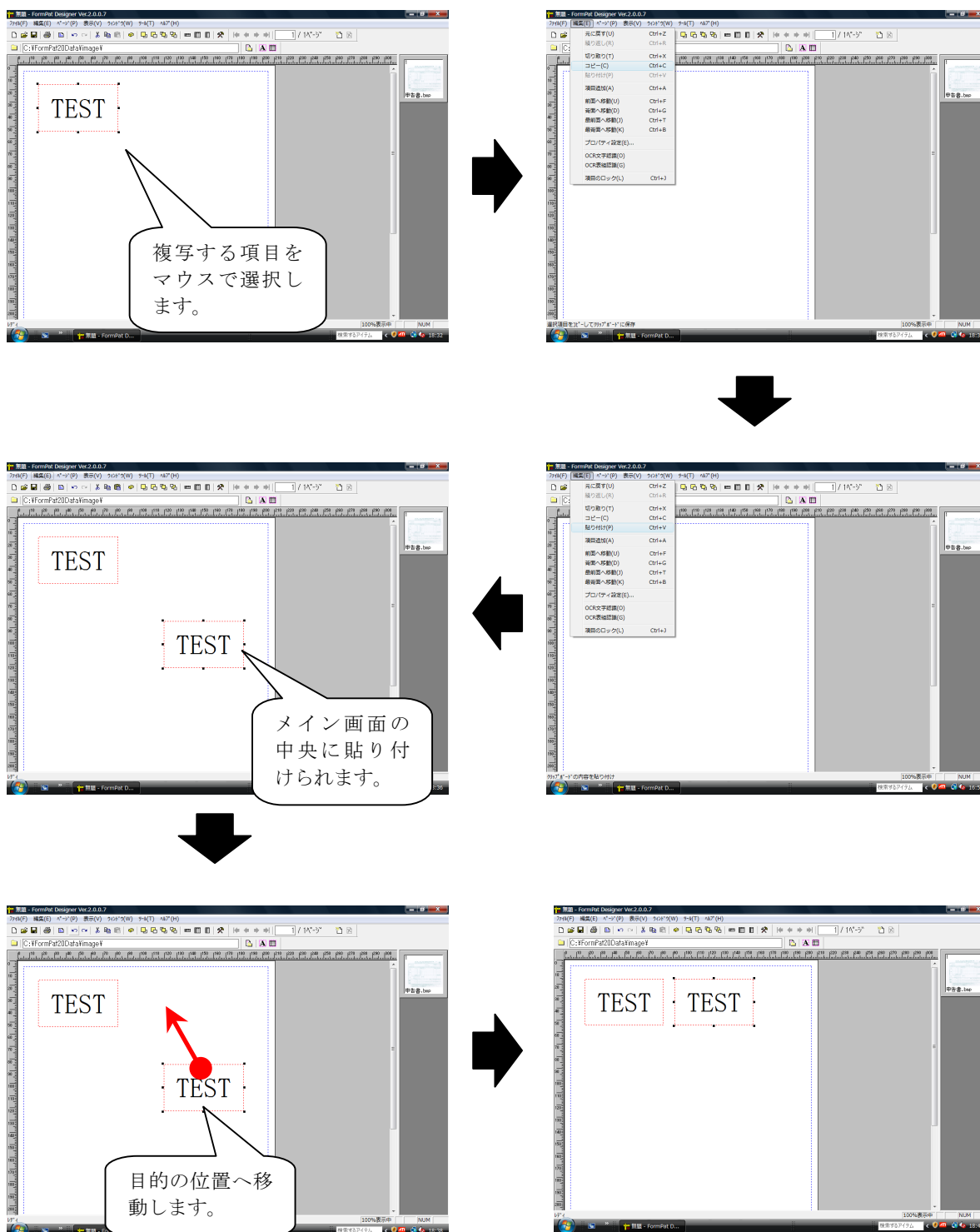
※項目を削除する場合も切り取りで
行って下さい。また、切り取った
項目を [編集(E)] メニューの
[貼り付け(P)] で項目を貼り付け
することもできます。



4.3 項目の複写&貼り付け

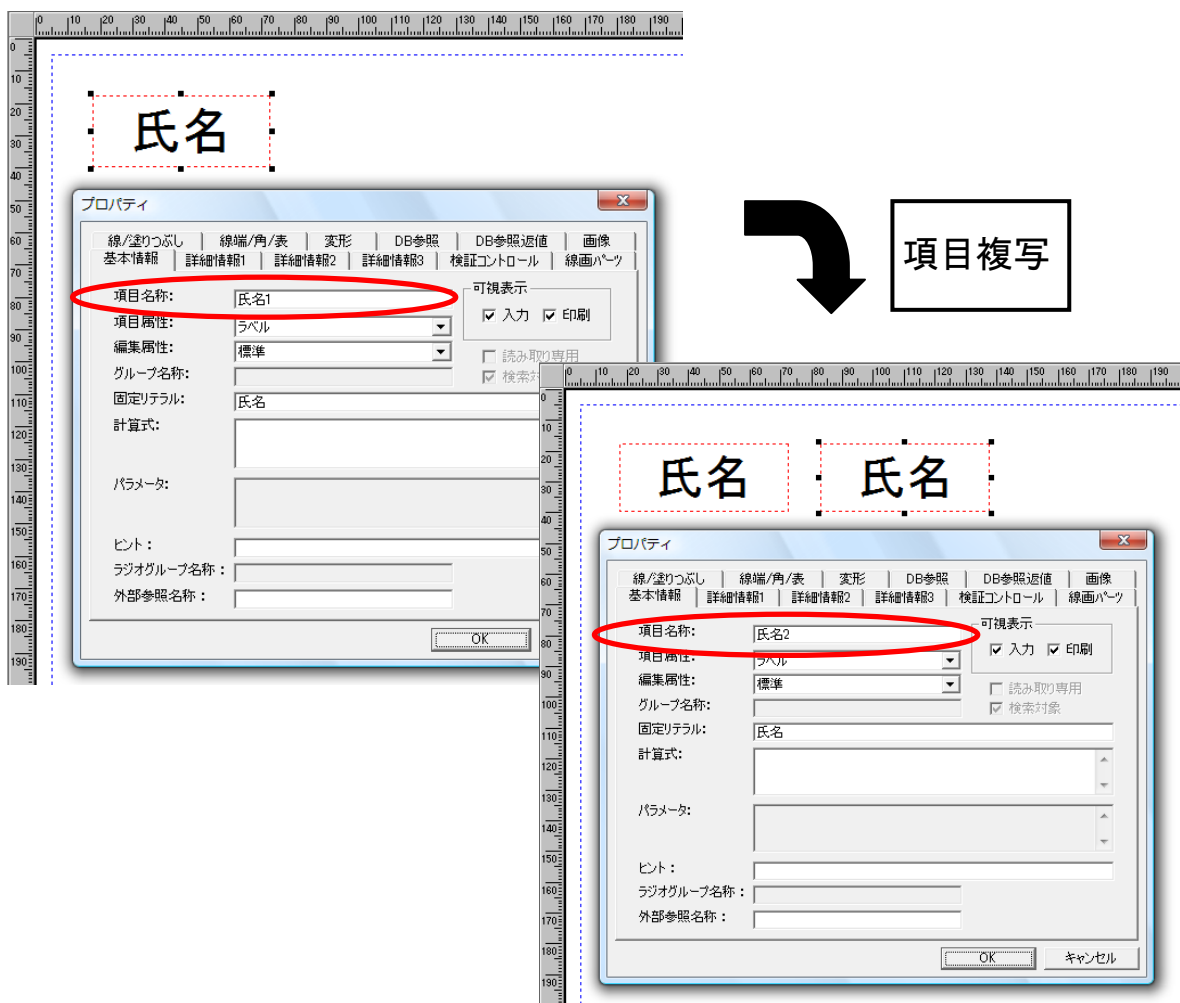
複写する項目枠をマウスで選択し、[編集(E)]メニューから[コピー(C)]を選択します。次に[編集(E)]メニューから[貼り付け(P)]を選択するとメイン画面の中央に複写された項目が貼り付けられるので、これをマウスでドラッグして目的の位置へ移動します。

また、マウスの右クリックで表示されるポップアップメニューから[貼り付け]を選択したときは、マウスポインタ位置に貼り付けられます。



4.4 項目複写時の項目名称自動採番

項目の複写時に項目名称を自動採番します。
項目名称+自動採番となります。



例) 項目名称“氏名 1”を複写して貼り付けると“氏名 2”になります。
項目名称“氏名_001”を複写して貼り付けると“氏名_002”になります。

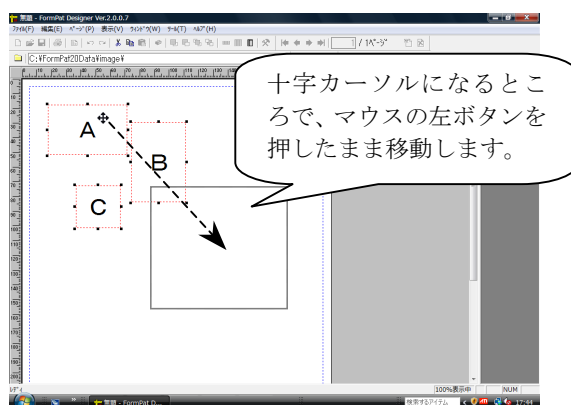
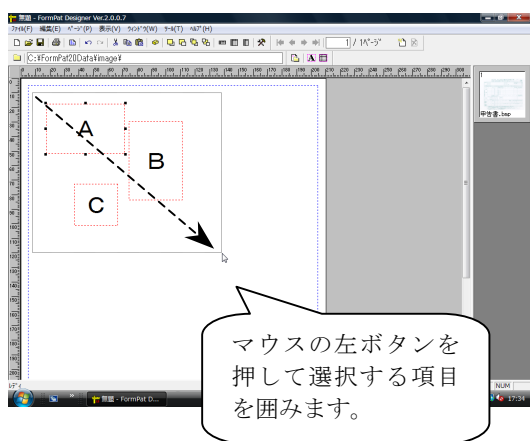
なお、9 9 9 9 9 まで採番すると 1 から探して空いている番号を使用します。

4.5 複数項目の移動

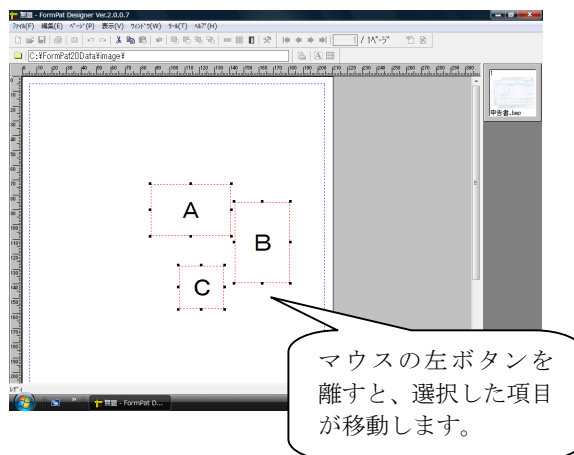
移動させる複数の項目をマウスの左ボタンを押したまま囲みます。

マウスの左ボタンを離すと、複数の項目が選択状態になっていますので、選択されている中の任意の項目にマウスの  を合わせ、左ボタンを押したまま目的の位置へマウスを移動させ、左ボタンを離します。選択している全ての項目が移動します。

但し、複数選択されている中の  カーソルが割り付けられている項目を基準に移動します。複数選択時の他の項目への切り替えは可能です。



※別の複数選択の方法として、**Ctrl** キーを押しながら個々にマウスの左クリックで選択／解除することもできます。



4.6 カーソルキーの移動

カーソルキーを使って項目を移動することができます。

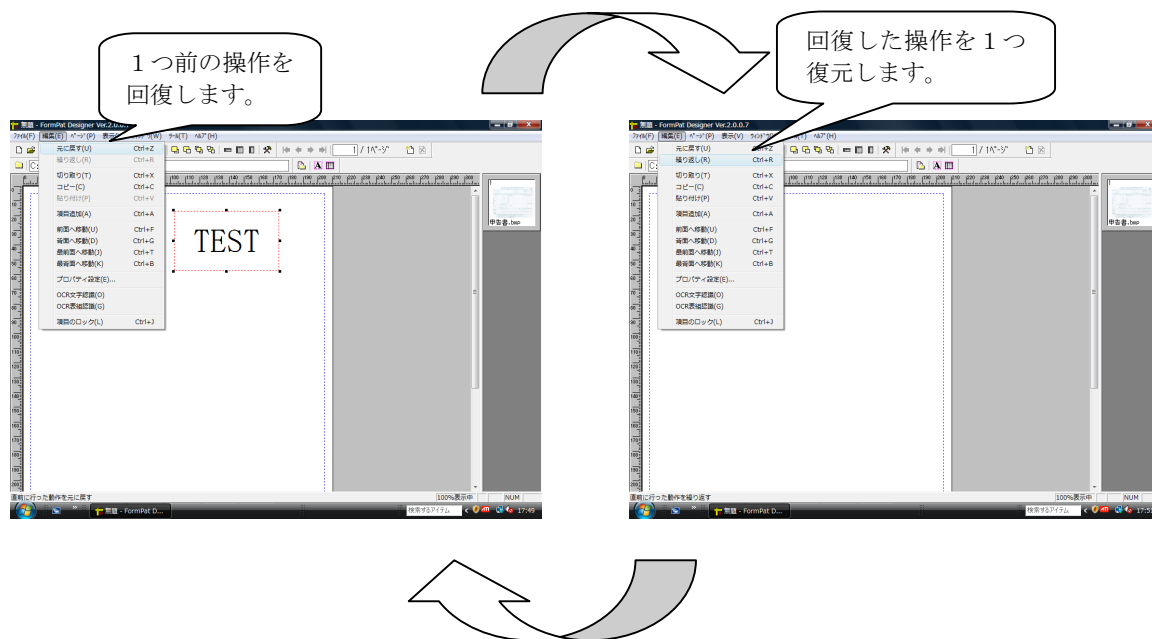
単独項目、複数選択項目の両方の移動に対応します。

項目を選択し、カーソルキー     を押すと項目が移動します。

グリッドに合わせる設定にしている場合、指定しているグリッドの間隔単位で移動します。グリッドに合わせない設定にしている場合、0.1mm 単位で移動します。

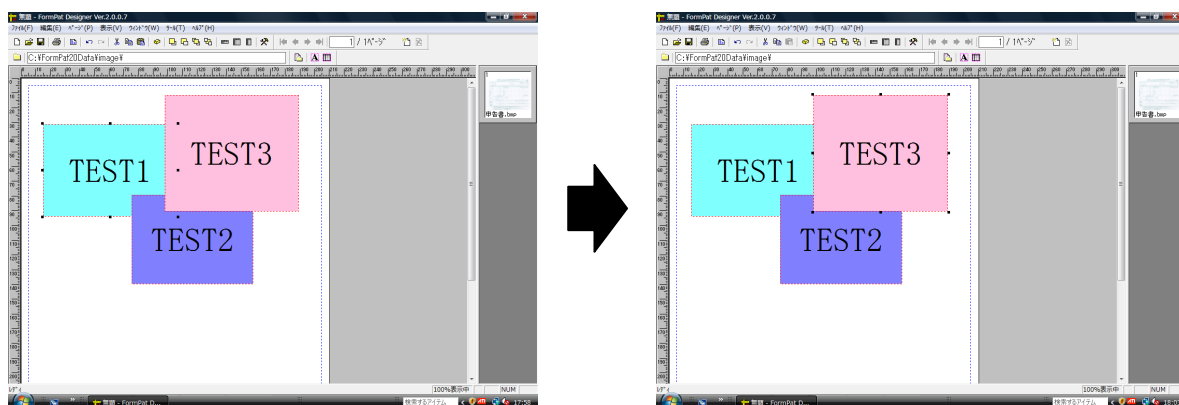
4.7 操作の回復・復元（アンドウ・リドゥ）

〔編集(E)〕メニューから〔元に戻す(U)〕を選択すると、1つ前の操作を回復（アンドウ）します。また、〔編集(E)〕メニューから〔繰り返す(R)〕を選択すると、回復した操作を1つ復元（リドゥ）します。



4.8 重複位置項目の選択

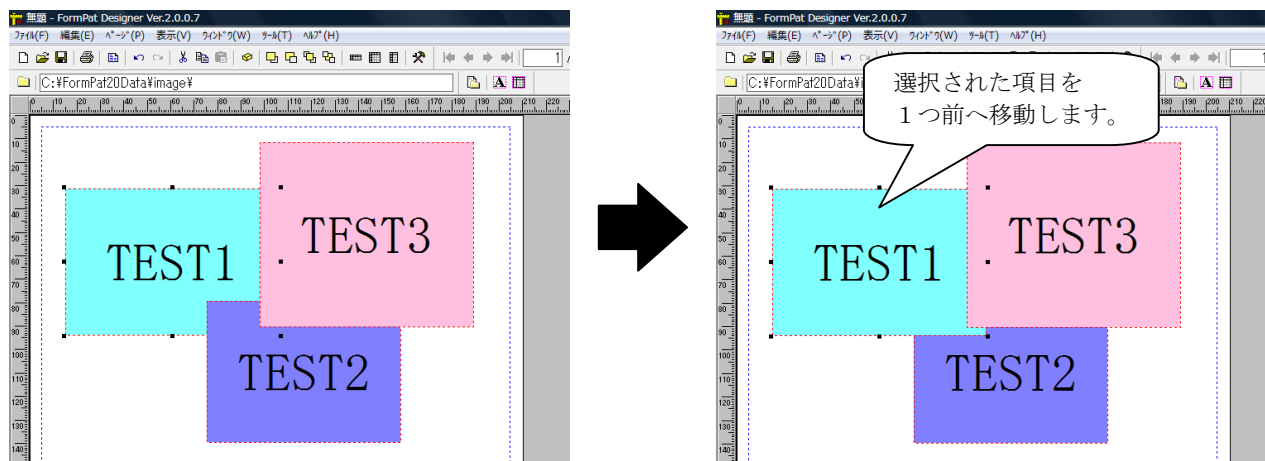
ある項目の下に隠れている別の項目を選択する場合は、〔Shift〕キーを押しながらマウスをクリックすると選択できます。また、3つ以上重なっている場合は優先順位の高い順番で項目の選択が切り替わります。



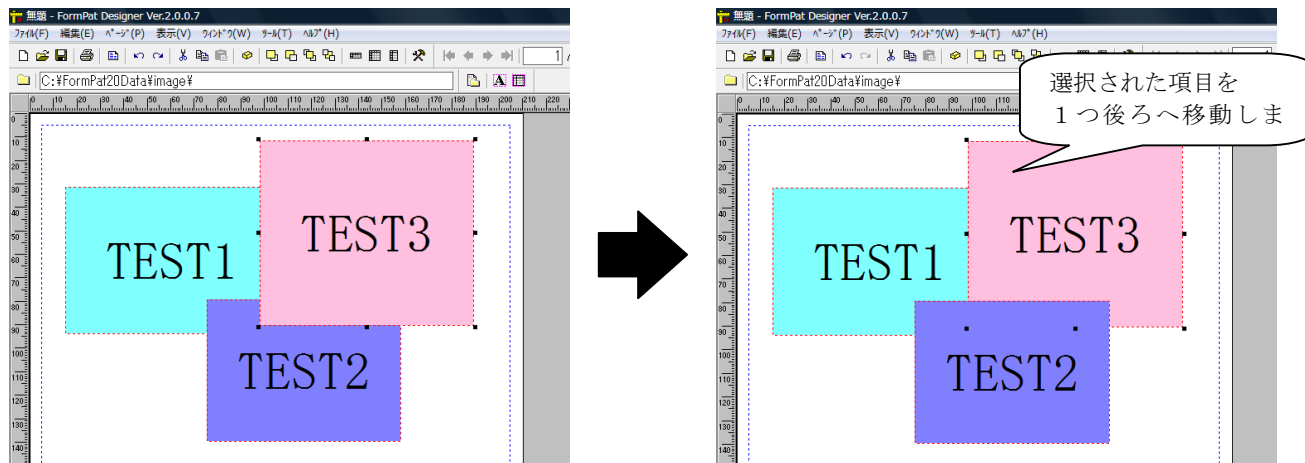
4.9 項目の前後関係調節

- ① [編集(E)] メニューの [前面へ移動(U)] を選択すると、選択されている項目枠を1つ前の位置へ移動します。[編集(E)] メニューの [背面へ移動(D)] を選択すると、選択されている項目枠を1つ後ろの位置へ移動します。

[前面へ移動]

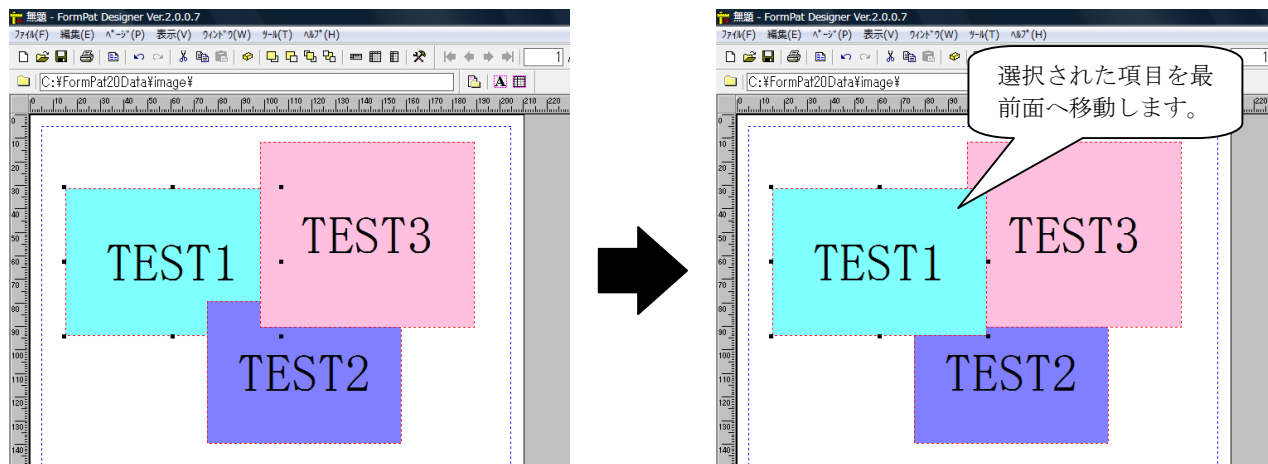


[背面へ移動]

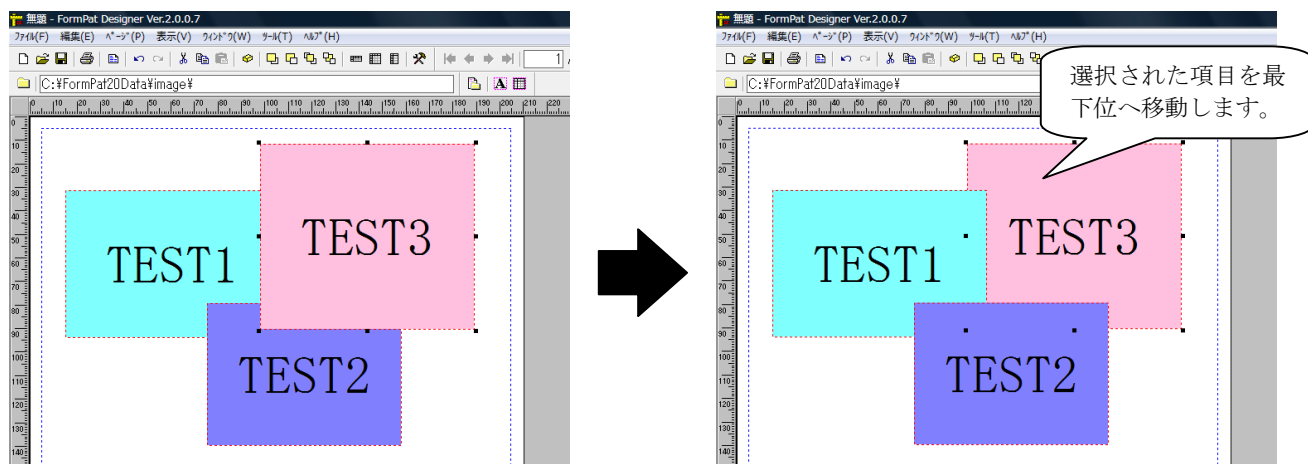


- ② [編集(E)] メニューの [最前面へ移動(J)] を選択すると、選択されている項目枠を他の項目枠に隠れることのない最前面の位置へ移動します。[編集(E)] メニューの [最背面へ移動(K)] を選択すると、他の項目枠に隠れる最背面の位置へ移動します。

[最前面へ移動]



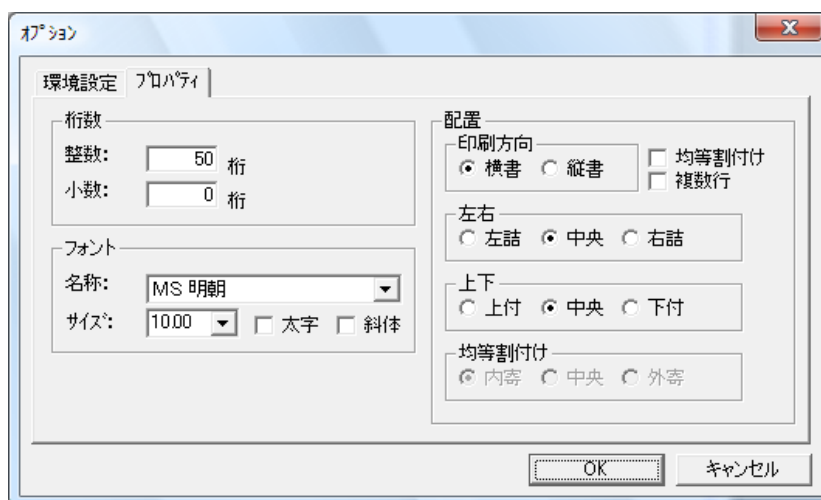
[最背面へ移動]



4.10 デフォルト項目情報の設定

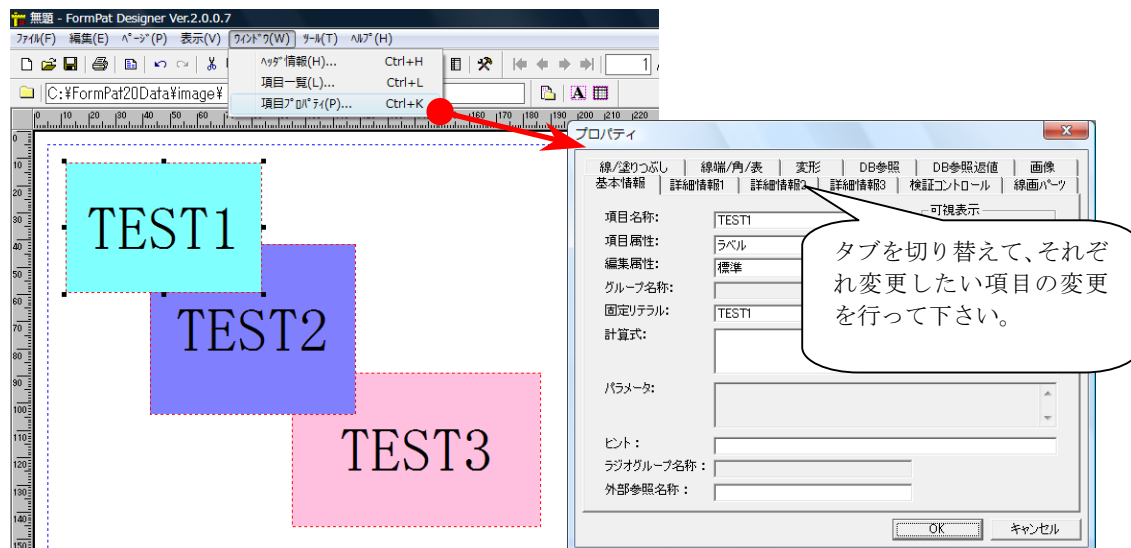
項目を追加する際のデフォルト情報を設定します。

[ツール(T)] の [オプション(O)] を選択すると、オプション画面が表示されますので [プロパティ] タグを選択し、デフォルト情報を設定して [OK] を押します。



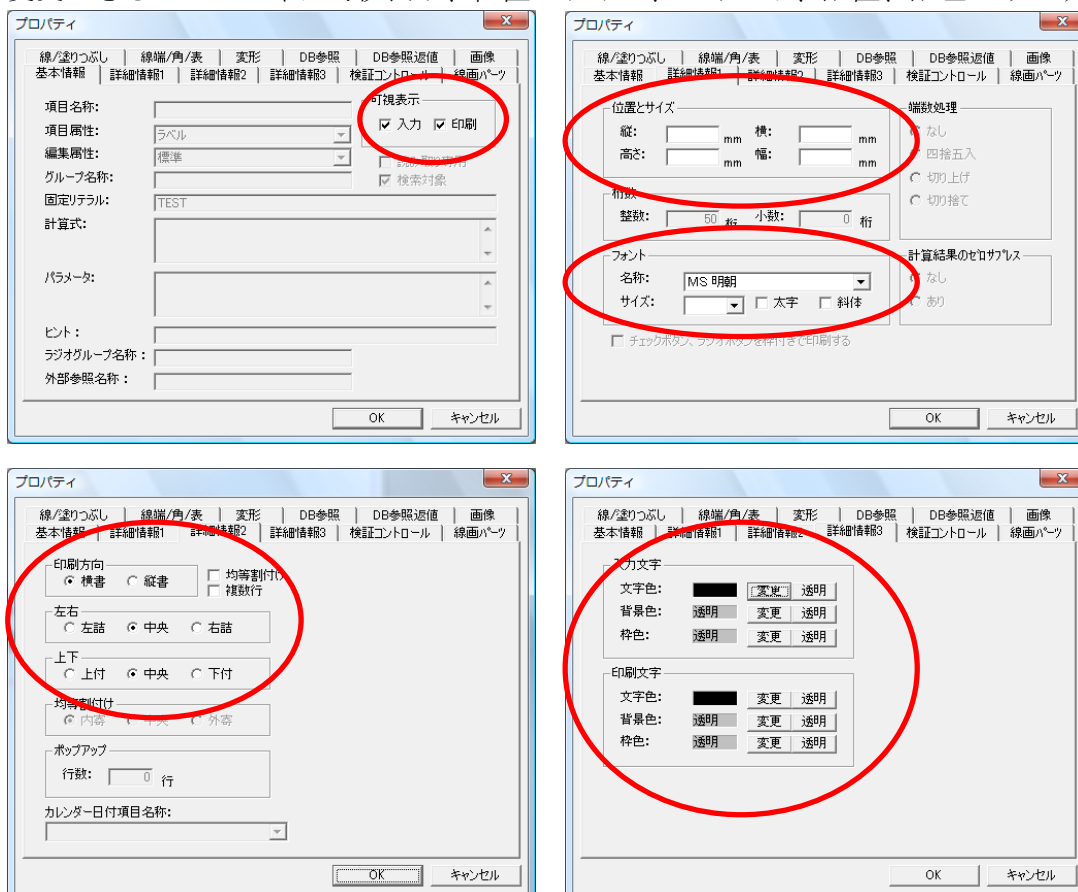
4.1.1 項目のプロパティ変更

プロパティを変更したい項目を選択した状態で、[ウィンドウ(W)]メニューから[項目プロパティ(P)]を選択して項目プロパティ画面を表示します。
変更したい項目をマウスで選択して、キーボードまたはマウスで設定内容を変更します。



4.1.2 複数項目のプロパティ変更

プロパティを変更したい複数の項目を選択した状態で、[ウィンドウ(W)]メニューから[項目プロパティ(P)]を選択して項目プロパティ画面を表示し、変更します。
変更できるプロパティは可視表示、位置とサイズ、フォント、配置、配色のみです。

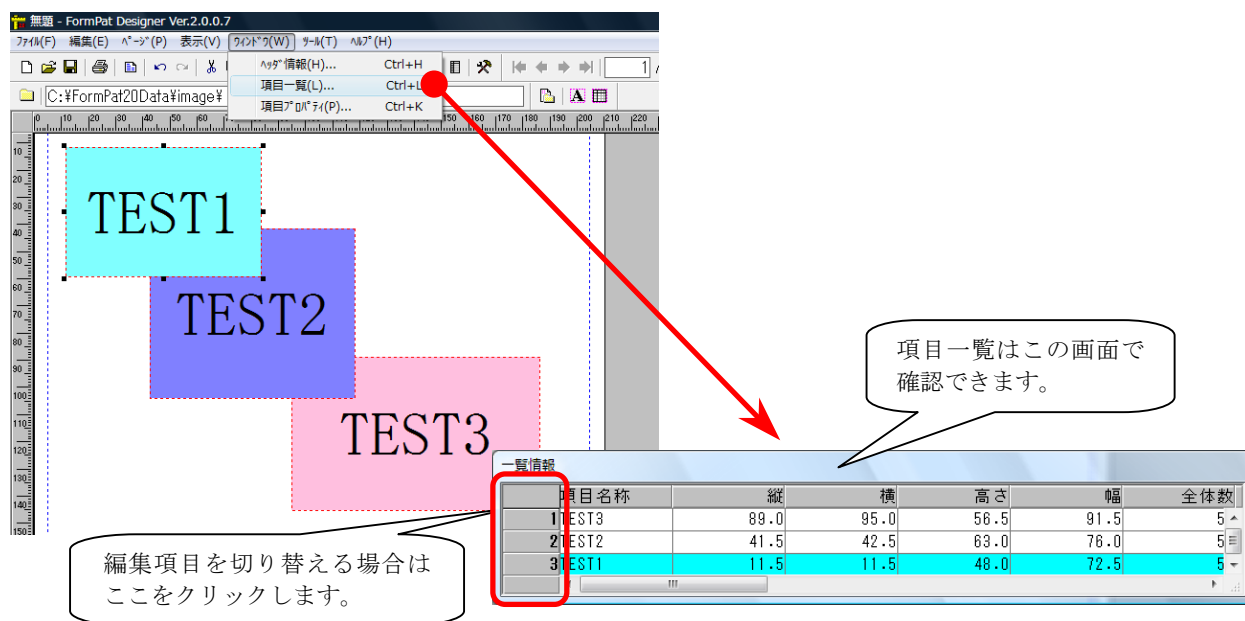


4.1.3 項目の一覧確認

貼り付けた項目を一覧形式で確認する場合は、[ウィンドウ(W)]メニューから[項目一覧(L)]を選択して一覧情報画面を表示します。

この画面では主なプロパティ情報や各項目の前後関係を確認できます。

※ 項目一覧でプロパティの内容を変更することはできません。

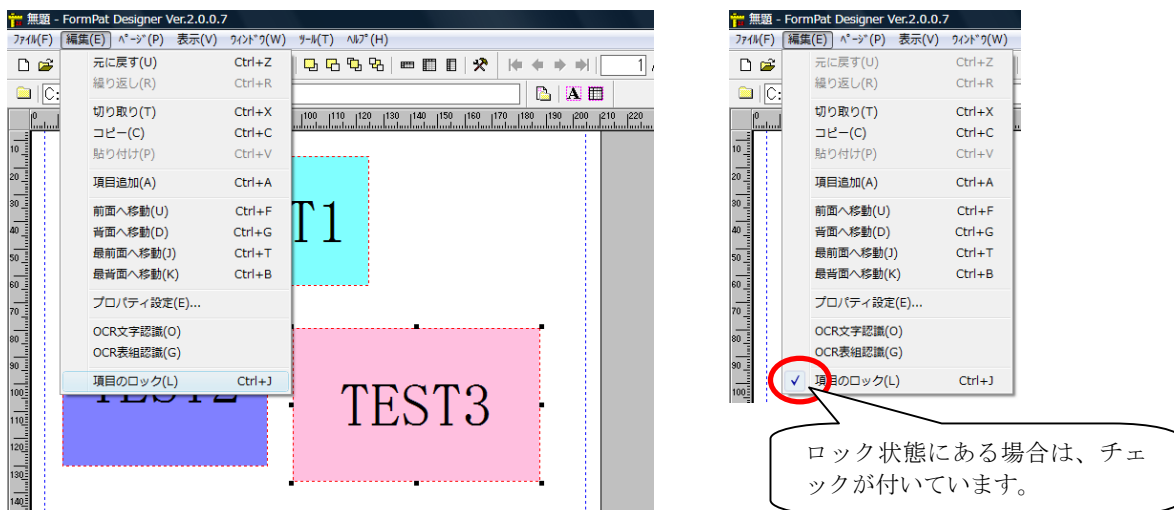


4.1.4 項目のロック

[編集(E)]メニューから[項目のロック(L)]を選択すると、貼り付けた項目をロックして移動ができないようにします。

ただし、ロックをした時点での項目が対象となりますので、それ以降に追加した項目には反映されません。追加した項目にもロックをしたい場合は、[項目のロック(L)]に付いたチェックをはずしてロックを解除した後、再度ロックをして下さい。

ロック状態はフォームと一緒に保存されます。

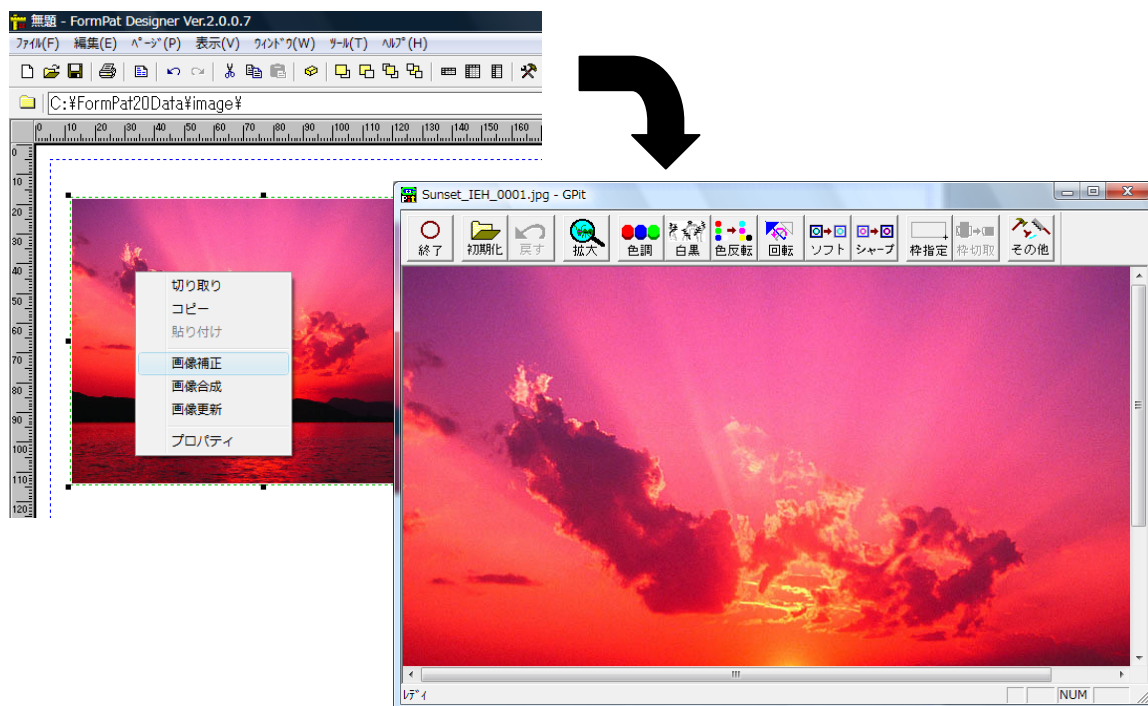


4.15 画像補正

写真の色調／輪郭／切り抜き等の補正を行います。

補正する写真枠をマウスで選択します。

マウスの右ボタンを押すと、ポップアップメニューが表示されますので「画像補正」を選択します。画像補正画面が表示されますので、補正操作を行って下さい。



※画像補正操作終了後、補正された写真が表示されない場合はポップアップメニューの「画像更新」を選択して下さい。

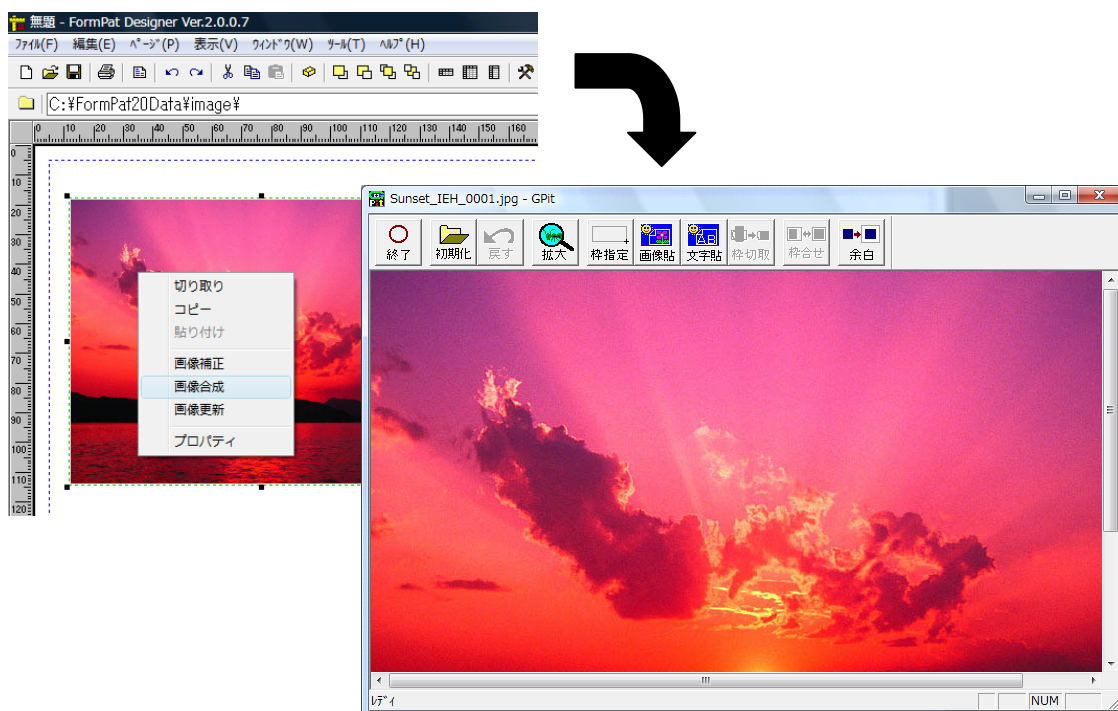
※画像補正の詳細については、『7.1 画像補正』をご覧ください。

4.16 画像合成

画像の上に別の画像や文字の貼り付けを行います。
指定した色の部分を透かして合成したり指定枠での切取りも可能です。

合成する写真枠をマウスで選択します。

マウスの右ボタンを押すと、ポップアップメニューが表示されますので「画像合成」を選択します。画像合成画面が表示されますので、合成操作を行って下さい。



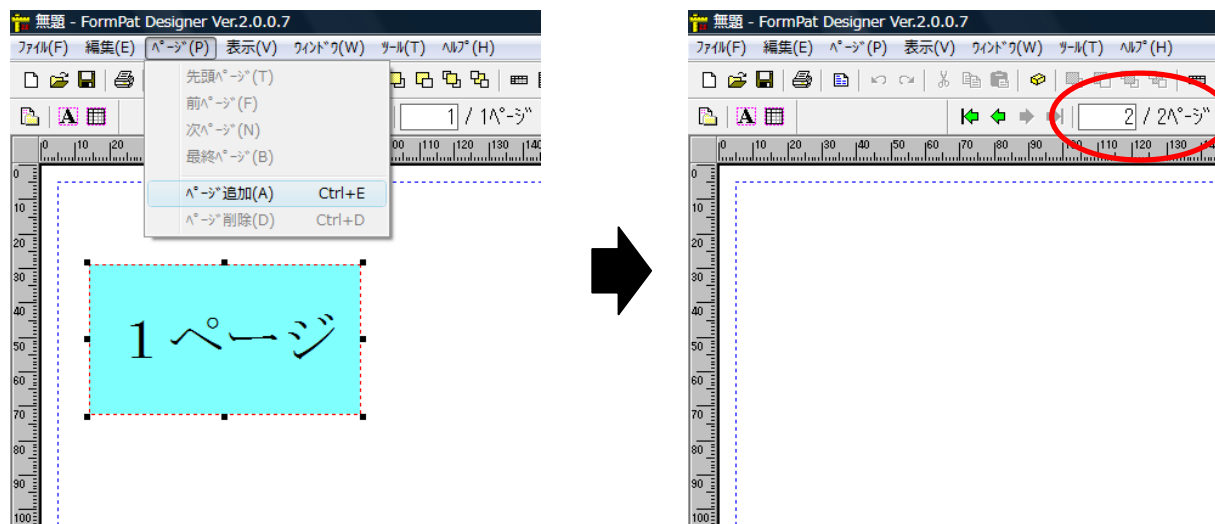
※画像合成操作終了後、合成された写真が表示されない場合はポップアップメニューの「画像更新」を選択して下さい。

※画像合成の詳細については、『7.2 貼り付け合成』をご覧ください。

5. ページ操作

5.1 ページの追加

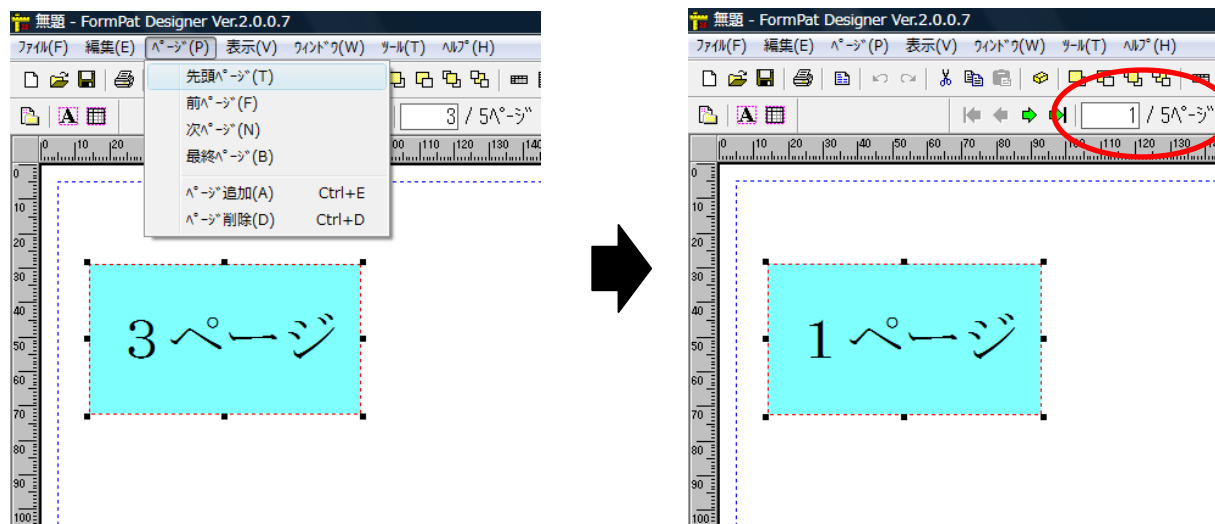
[ページ(P)] メニューの [ページ追加(A)] を選択します。最終ページの後に1つページが追加され、追加されたページへ移動します。



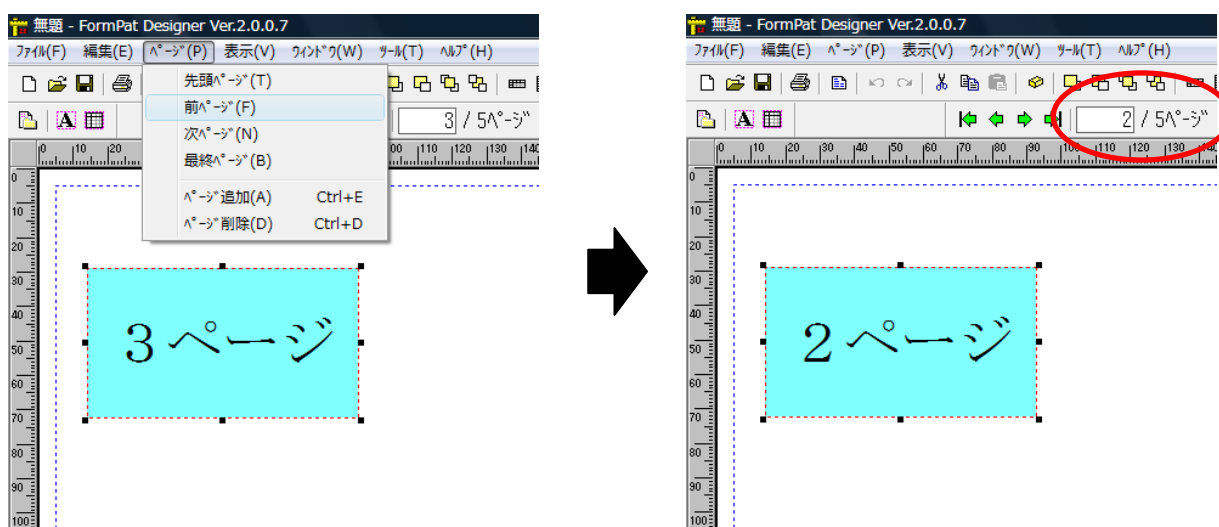
注意 追加できるページ数は最大1000ページ迄です。

5.2 ページの移動

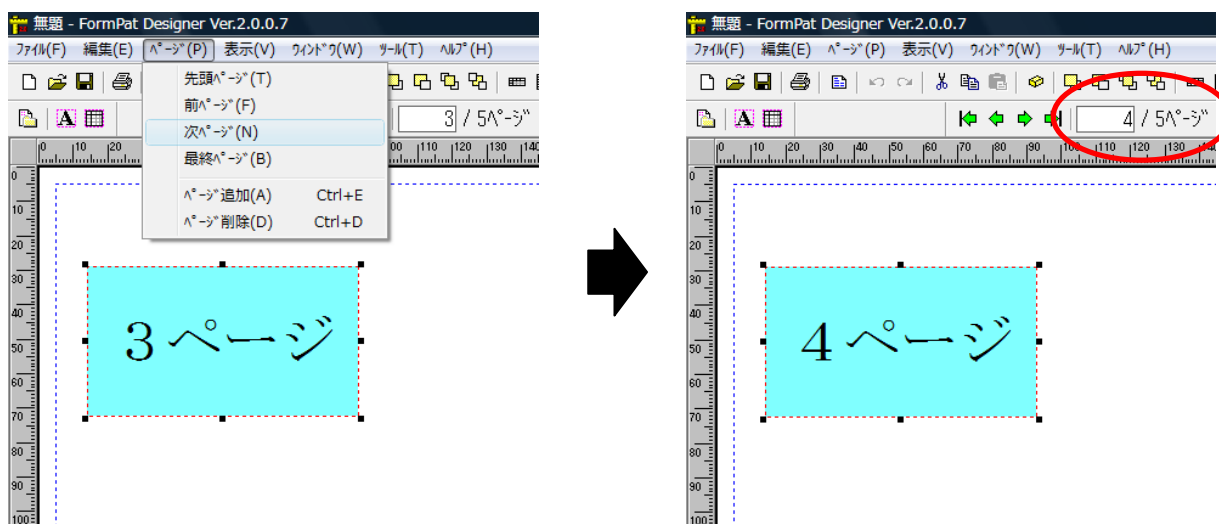
[ページ(P)] メニューの [先頭ページ(T)] を選択すると、先頭ページへ移動します。



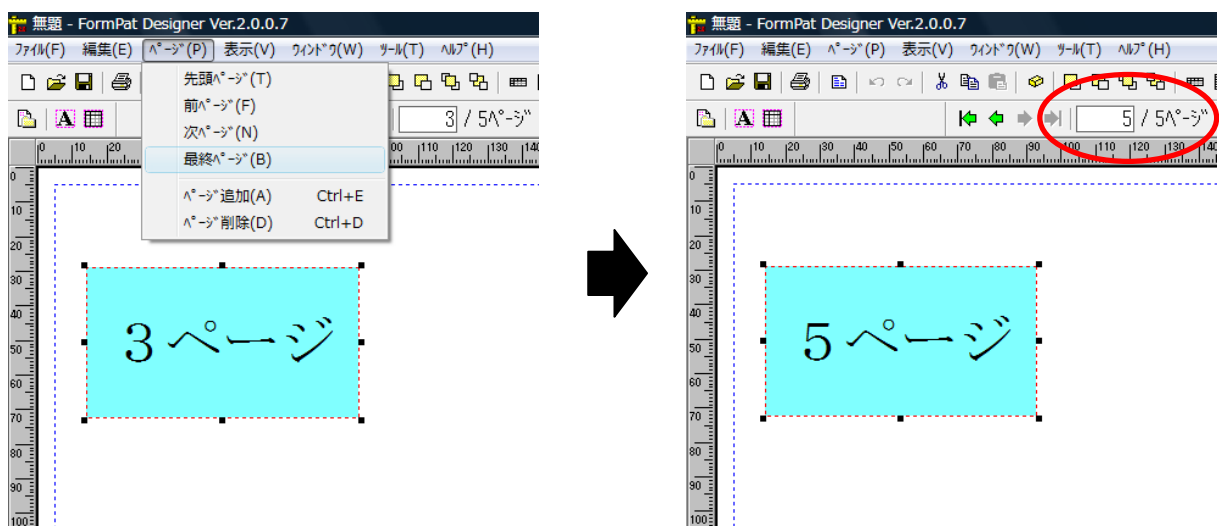
「ページ(P)」メニューの「前ページ(F)」を選択すると、1つ前のページへ移動します。



「ページ(P)」メニューの「次ページ(N)」を選択すると、1つ後のページへ移動します。

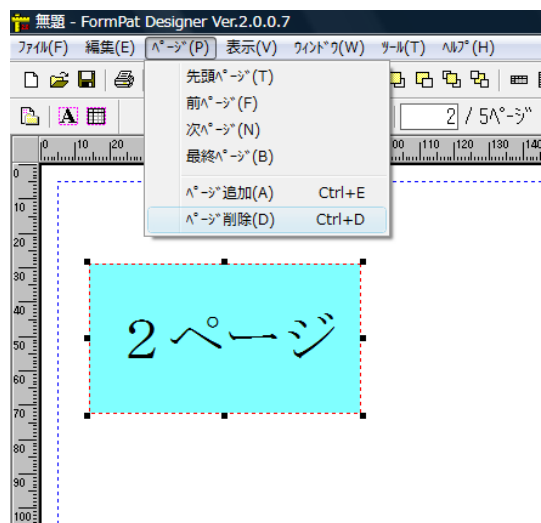


「ページ(P)」メニューの「最終ページ(B)」を選択すると、最終ページへ移動します。

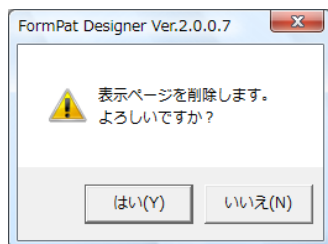


5.3 ページの削除

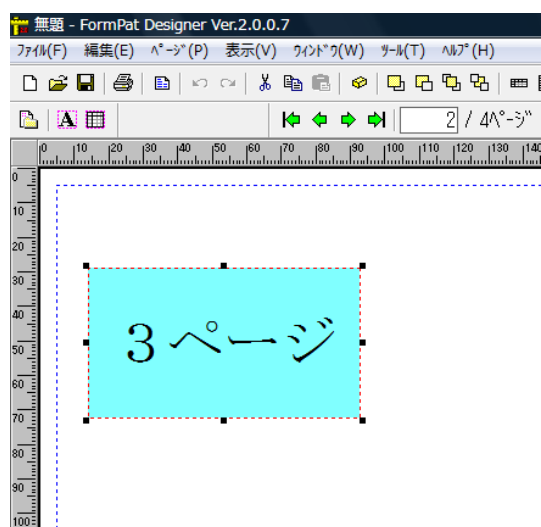
①削除するページを表示して、[ページ(P)] メニューの [ページ削除(D)] を選択します。



②削除確認画面が表示されますので、[はい(Y)] を選択します。



③表示していたページが削除されます。



注意

ページ削除は全ページ数が2ページ以上の場合に操作できます。
従って、全ページ数が1ページの場合は削除できません。

BLANK PAGE

6. フォーム操作

6.1 環境設定

[ツール(T)] メニューの [オプション(O)] を選択してオプション画面を表示します。
さらに [環境設定] タグを選択して環境設定を行います。



●グリッド間隔

幅 : グリッド間隔の幅を mm 単位で指定できます。(0.5mm ~ 100.0mm の範囲。)

高さ : グリッド間隔の高さを mm 単位で指定できます。(0.5mm ~ 100.0mm の範囲。)

●画像処理解像度

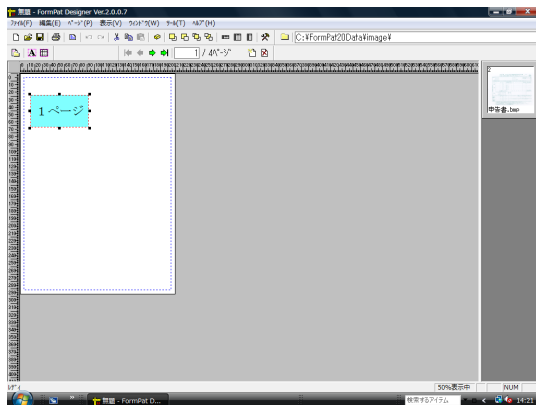
新規の画像の解像度を指定します。(10 ~ 30000 の範囲。)

●項目の移動/サイズ変更

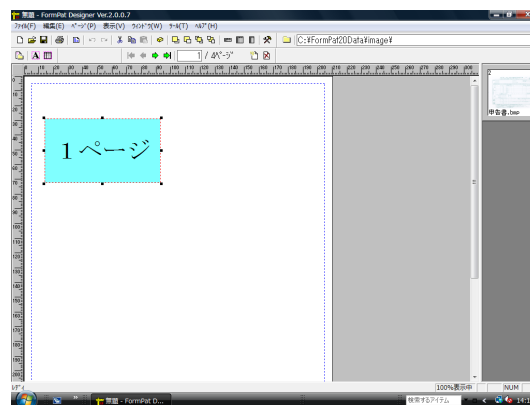
項目枠を移動したりサイズ変更したりする際に、グリッド間隔で設定されている位置に合わせるかどうかを指定できます。例えばグリッドは表示せず、項目枠の移動やサイズ変更はグリッドに合わせたい場合は、グリッドは非表示に設定してこの設定を『常にグリッドに合わせる』にします。

6.2 拡大／縮小表示

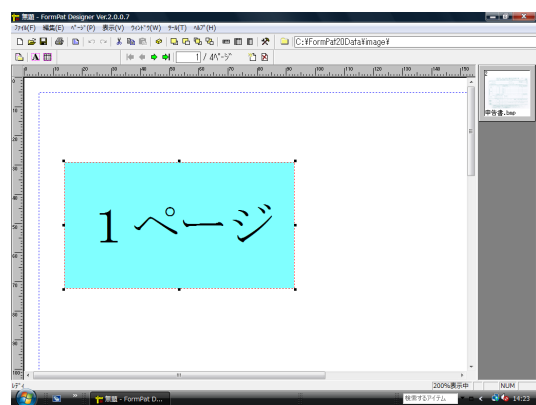
〔表示(V)〕メニューの〔拡大(Z)〕を選択して、50%、100%、200%、400%、自動の中から表示したいモードを選択します。



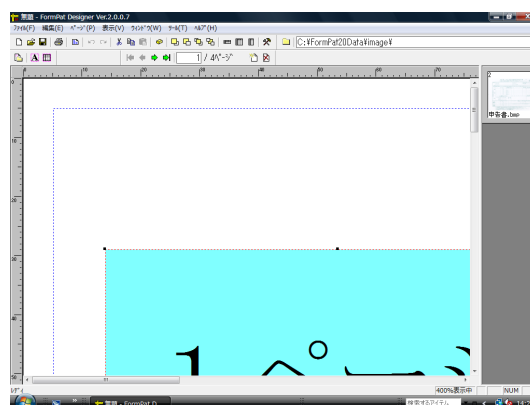
50%表示



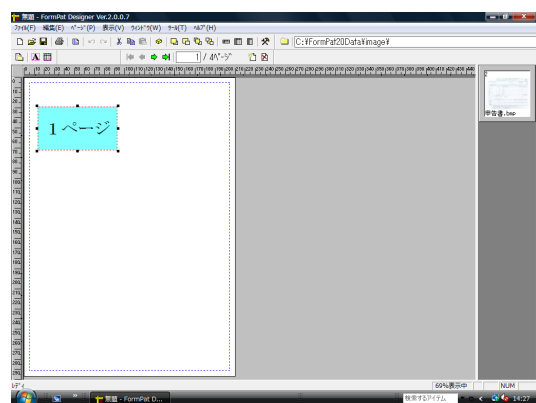
100%表示



200%表示



400%表示

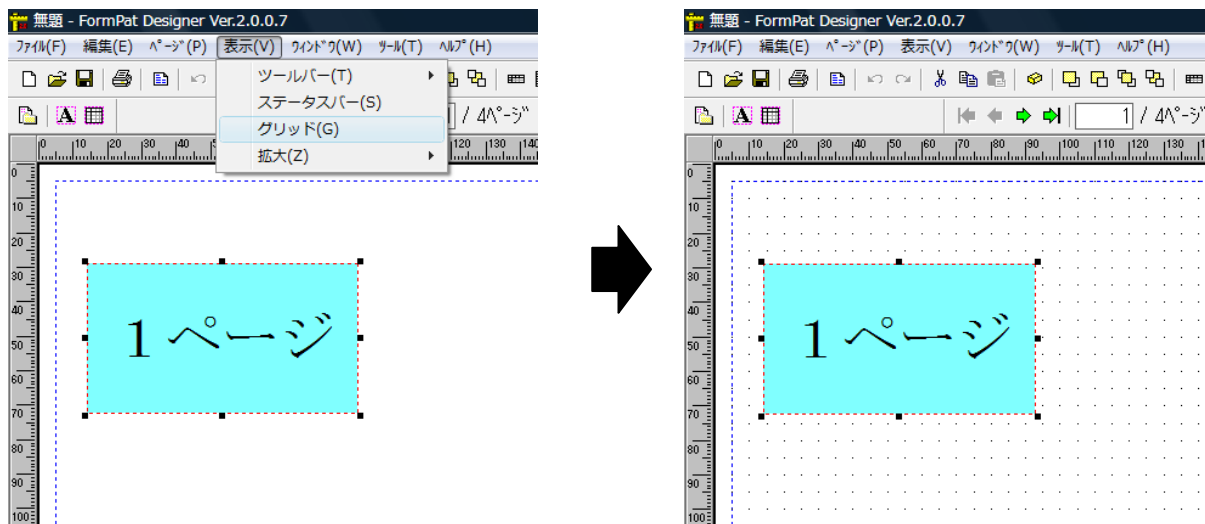


自動表示

※自動表示とはフォーム編集領域に合わせて用紙全体が収まるように、自動的に拡大／縮小する表示モードです。

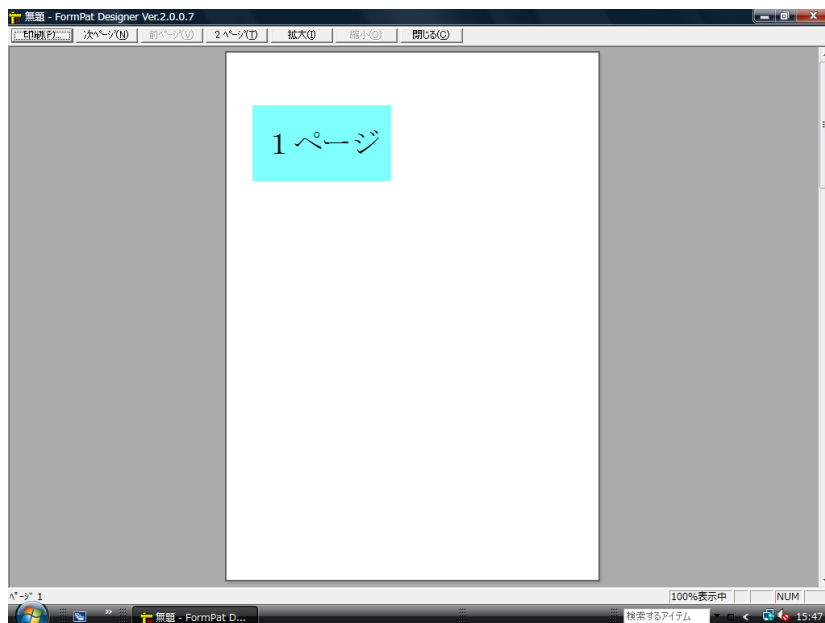
6.3 グリッド表示

〔表示(V)〕メニューの〔グリッド(G)〕を選択することで、項目枠を指定された間隔で強制的に移動する為の点線の表示／非表示を行います。また、グリッド移動の設定については『6.1 環境設定』をご覧ください。



6.4 印刷プレビュー

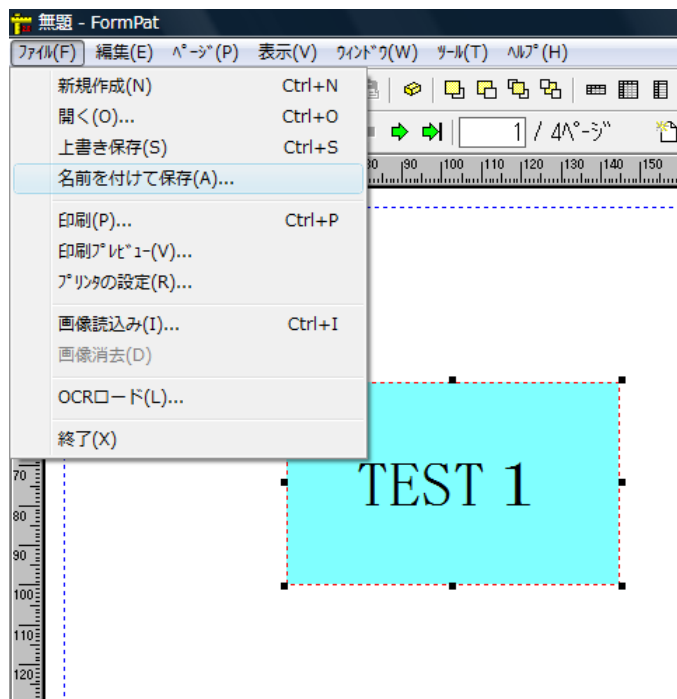
〔ファイル(F)〕メニューの〔印刷プレビュー(V)〕を選択すると、定義した項目が実際にプリンタへ出力されるものと同じものを画面へ表示します。



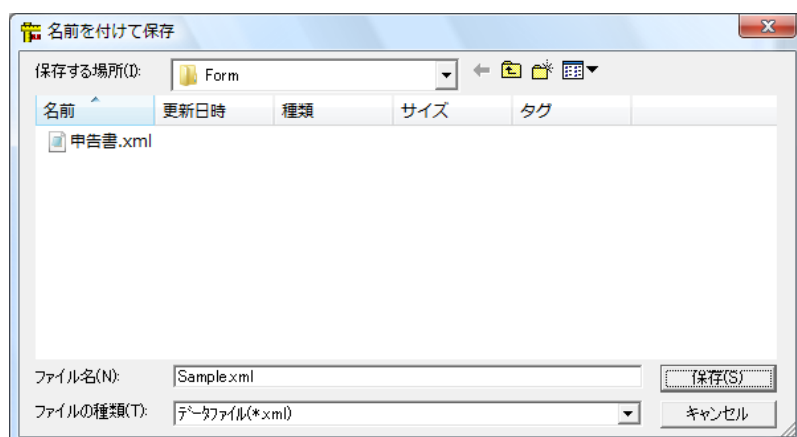
6.5 別名保存

編集中のフォームを別名で保存します。

- ① [ファイル(F)] メニューの [名前を付けて保存(A)...] を選択します。



- ② ファイル名を付けて保存画面が表示されますので、保存する場所とファイル名を指定して [保存(S)] を押します。

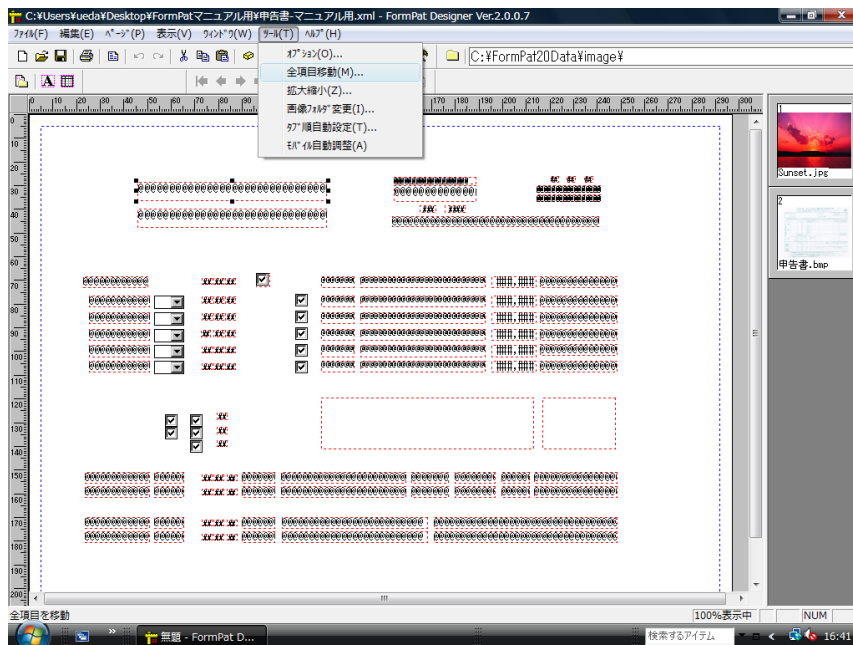


※ファイル名には xml 形式ファイル（ xxxx.xml ）または拡張子無し形式ファイルを指定して下さい。

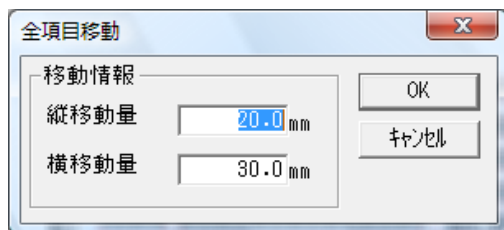
6.6 全項目移動

全ての項目を指定した相対位置へ移動させます。

- ① [ツール(T)] メニューから [全項目移動(M)] を選択します。

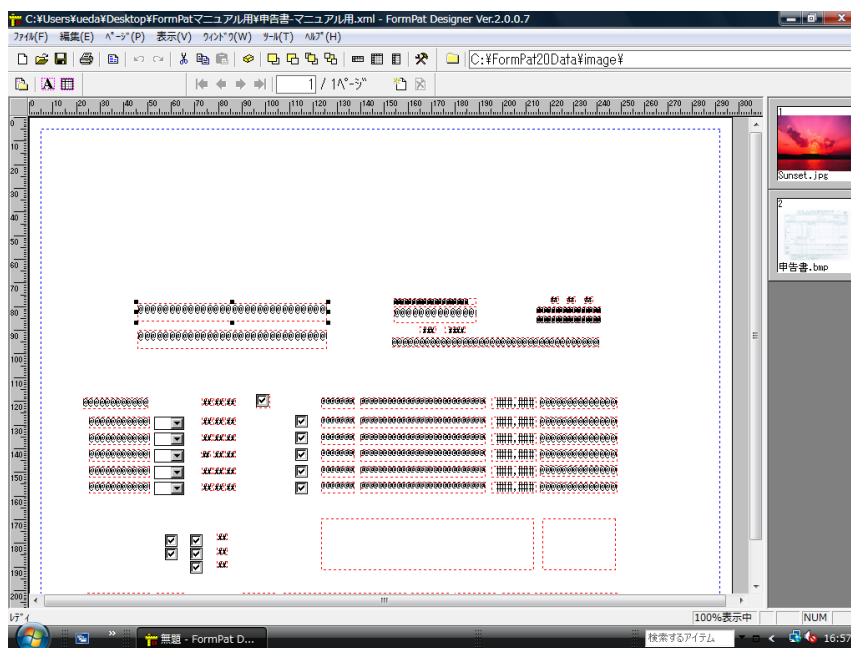


- ② 全項目移動画面が表示されますので、縦移動量と横移動量を設定して [OK] を押します。

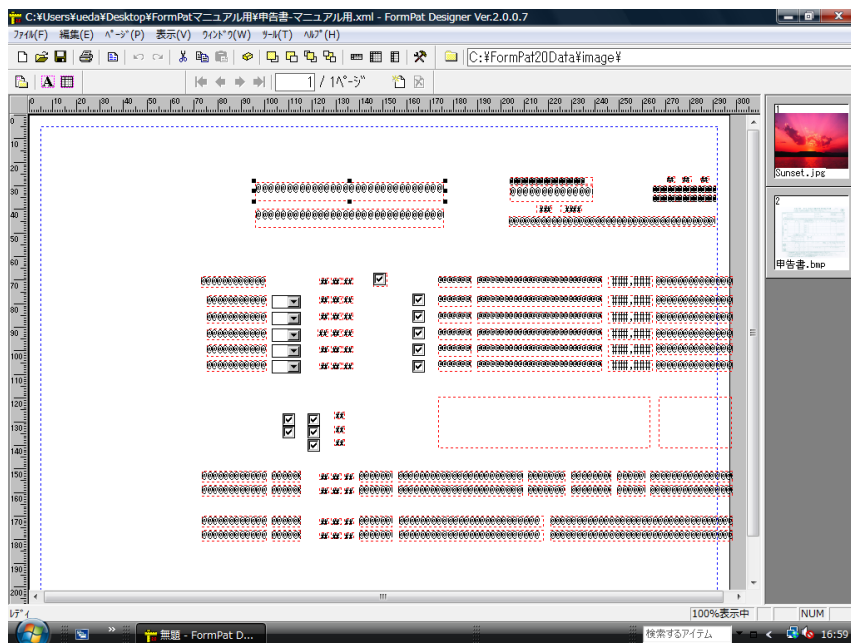


注意 移動量は -100.0～100.0 の範囲を設定できます。

③すべての項目が設定した数値分移動されます。



縦方向に移動

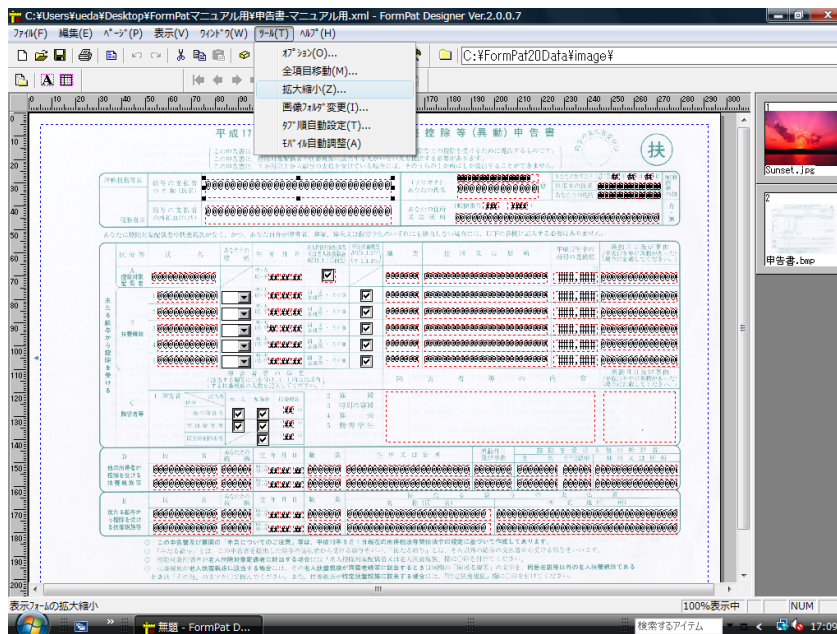


横方向に移動

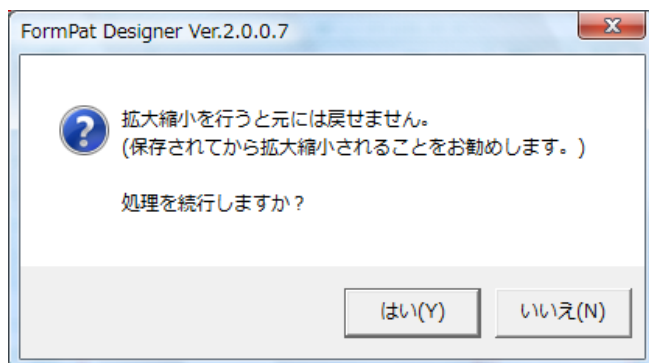
6.7 拡大／縮小編集

全ての項目の位置・サイズを指定した倍率に変更します。

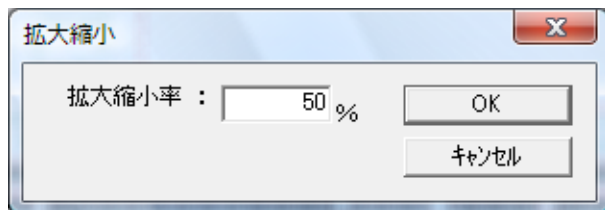
- ① [ツール(T)] メニューから [拡大縮小(Z)] を選択します。



- ② 確認画面が表示されますので、[はい(Y)] を押します。
処理を続行しない時は [いいえ(N)] を押して下さい。

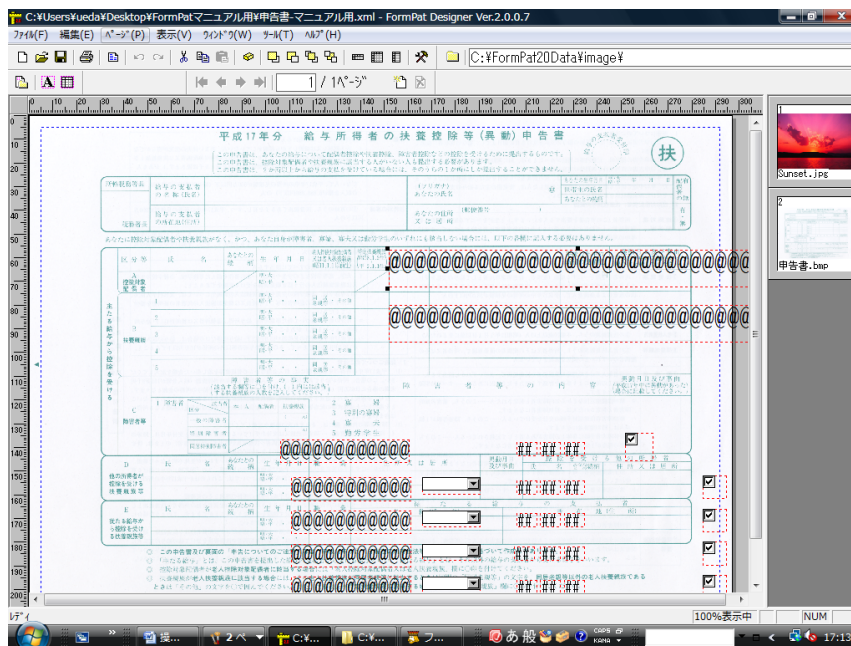


- ③ 拡大縮小画面が表示されますので、拡大縮小率を設定して [はい(Y)] を押します。

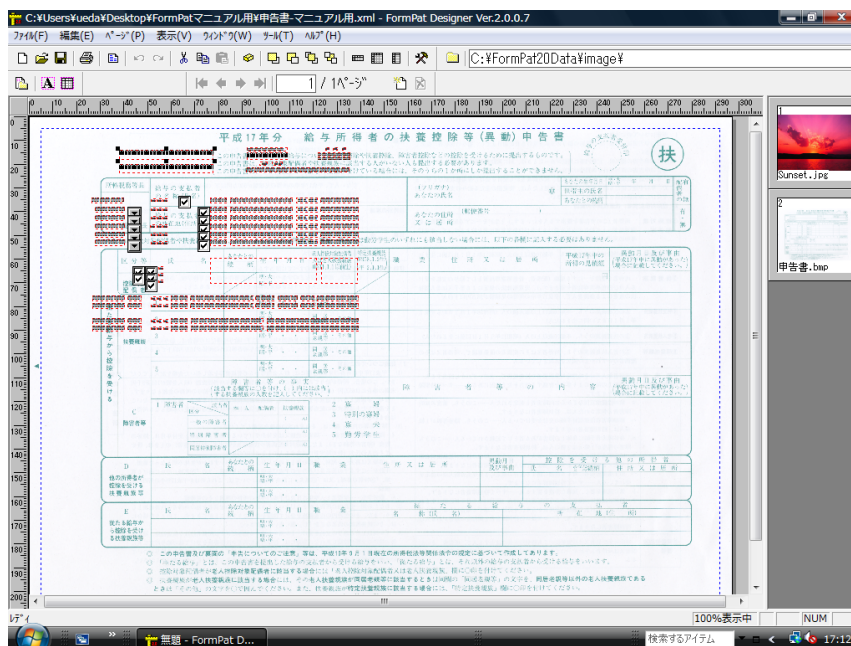


注意 拡大縮小率は 25%～400%の範囲を設定できます。

④全体の項目が拡大・縮小されます。



200%に拡大

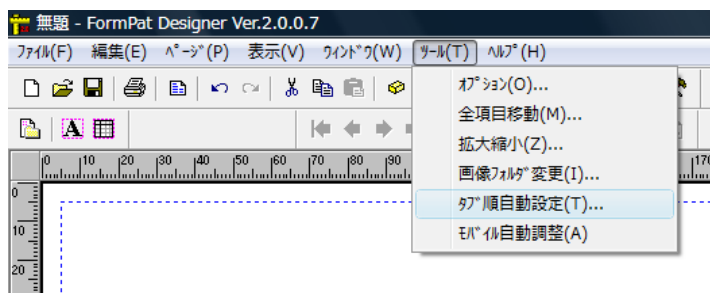


50%に縮小

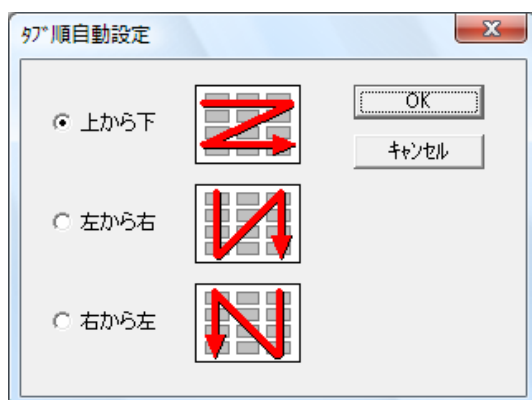
6.8 タブ順自動設定

タブの移動順を自動設定します。

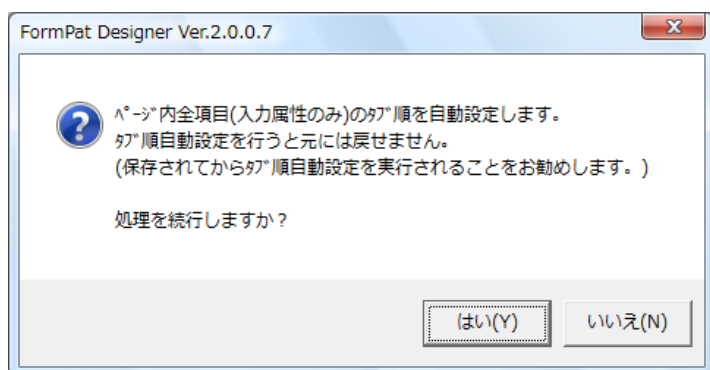
- ① [ツール(T)] メニューの [タブ順自動設定(T)] を選択します。



- ② タブ順自動設定画面が表示されますので、タブ順を3つのモードから選択して [OK] を押します。



- ③ 確認画面が表示されますので、[はい(Y)] を押します。
処理を続行しない時は[いいえ(N)]を押して下さい。



※全項目（単独選択時）選択時には、全項目での設定となり、複数選択時には、選択している項目のみでの設定となります。

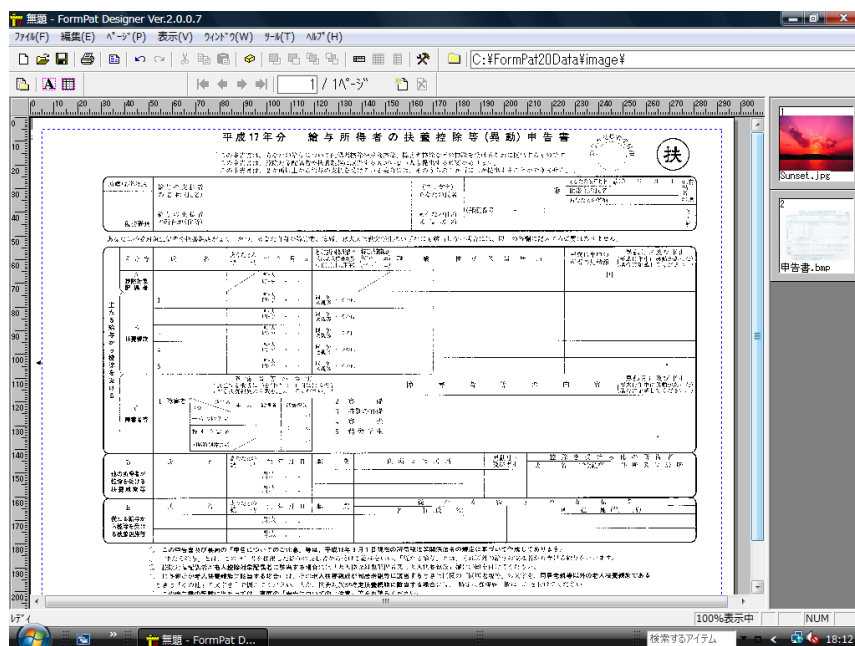
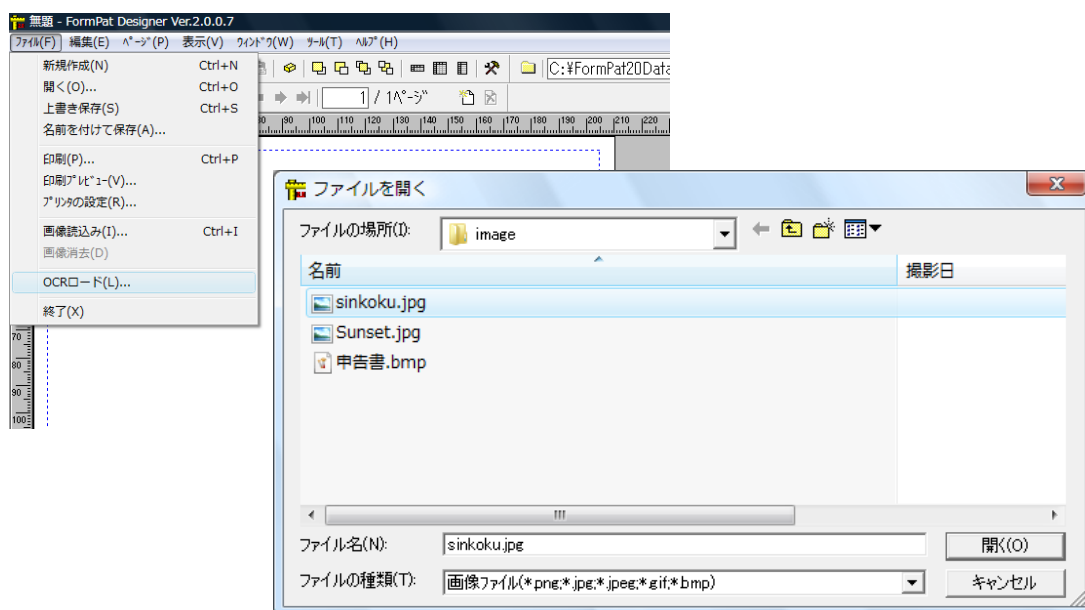
※テキスト・コンボボックス・チェックボタン・印鑑・DB参照・ハイパーリンクが自動設定の対象となります。

6.9 OCR文字認識（オプション機能）

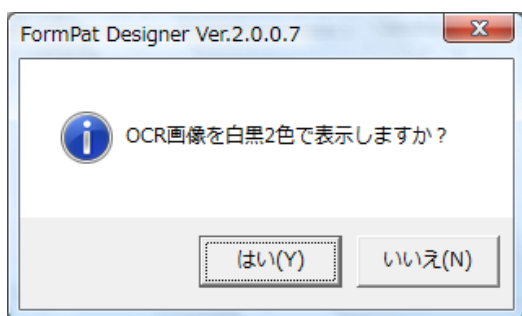
イメージスキャナで読込んだ画像の文字を認識します。
この機能はオプションです。オプションが有効のときに使用できます。

※ [ツール(T)] メニューから[画像フォルダ変更(I)]を選択して、画像ファイルが格納されている場所を変更しておいて下さい（「3.16 画像ファイルの設定③~④」参照）。

- ① [ファイル(F)] メニューの [OCRロード(L)] を選択します。
ファイルを開く画面が表示されますので、OCR として読込む画像ファイルを格納している場所とファイル名を指定して [開く(O)] を押すと画像が表示されます。

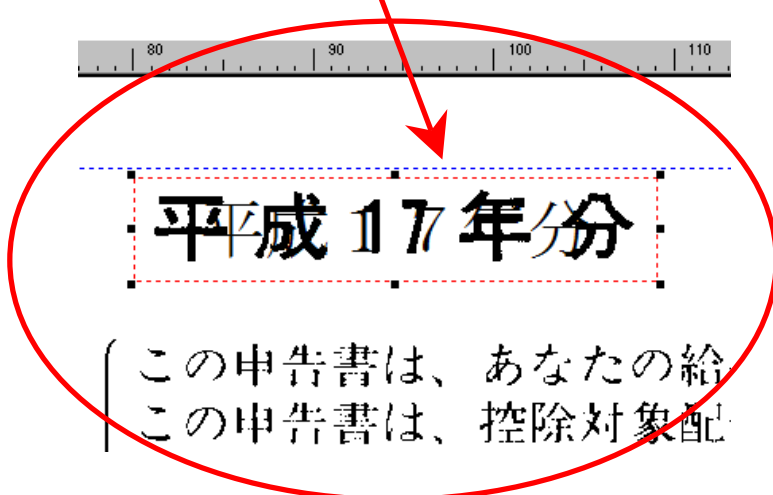
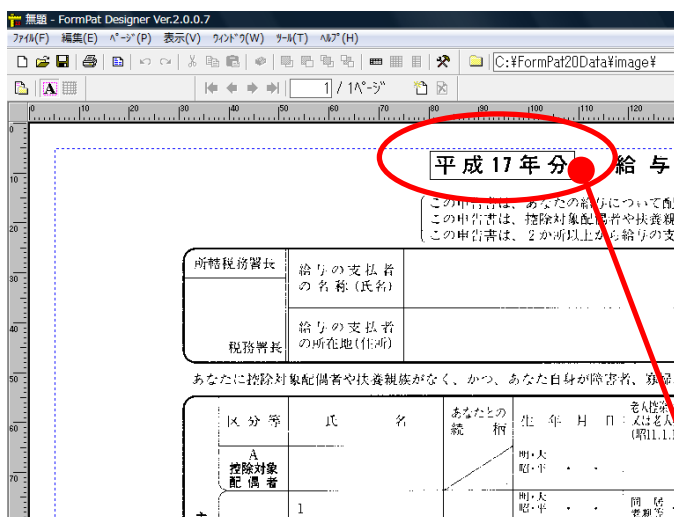


- ②OCR として読み込むには白黒 2 色で表示させる必要があります。
確認画面が表示されますので、[はい(Y)] を押します。



- ③画像を読み込んだら[編集(E)]メニューから[OCR 文字認識(O)]を選択します。

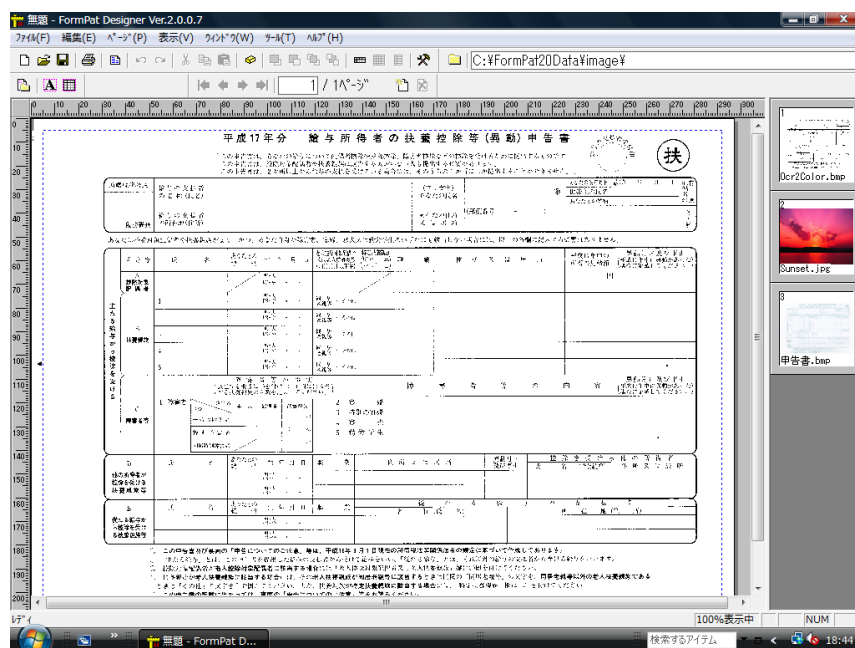
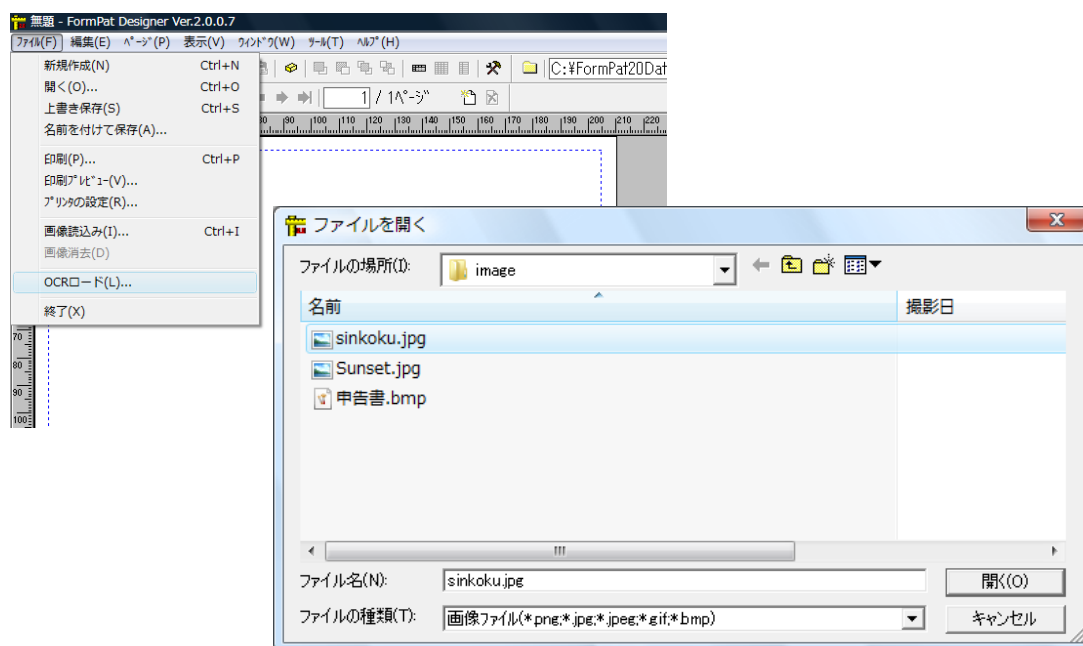
- ④マウスをフォーム上に移動するとカーソルが+になりますので、OCR として認識したい文字の左上位置に+を移動してマウスの左ボタンを押します。
マウスの左ボタンを押した位置が枠の左上位置となり、マウスの左ボタンは離さずに押したままマウスを移動して枠を描画し、認識したい文字を囲むように右下位置を設定します。左ボタンを離すと認識した文字が表示されます。



6.10 OCR表組認識 (オプション機能)

イメージスキャナで読込んだ画像の罫線を認識します。
この機能はオプションです。オプションが有効のときに使用できます。

- ① [ファイル(F)] メニューの [OCRロード(L)] を選択します。
ファイルを開く画面が表示されますので、OCR として読込む画像ファイルを
格納している場所とファイル名を指定して [開く(O)] を押すと画像が表示されます。

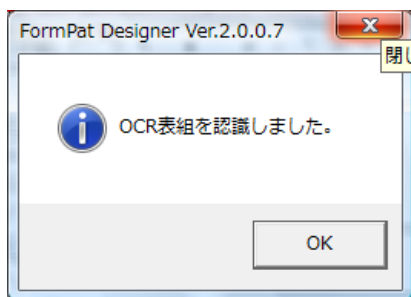


- ②OCR として読み込むには白黒 2 色で表示させる必要があります。
確認画面が表示されますので、[はい(Y)] を押します。

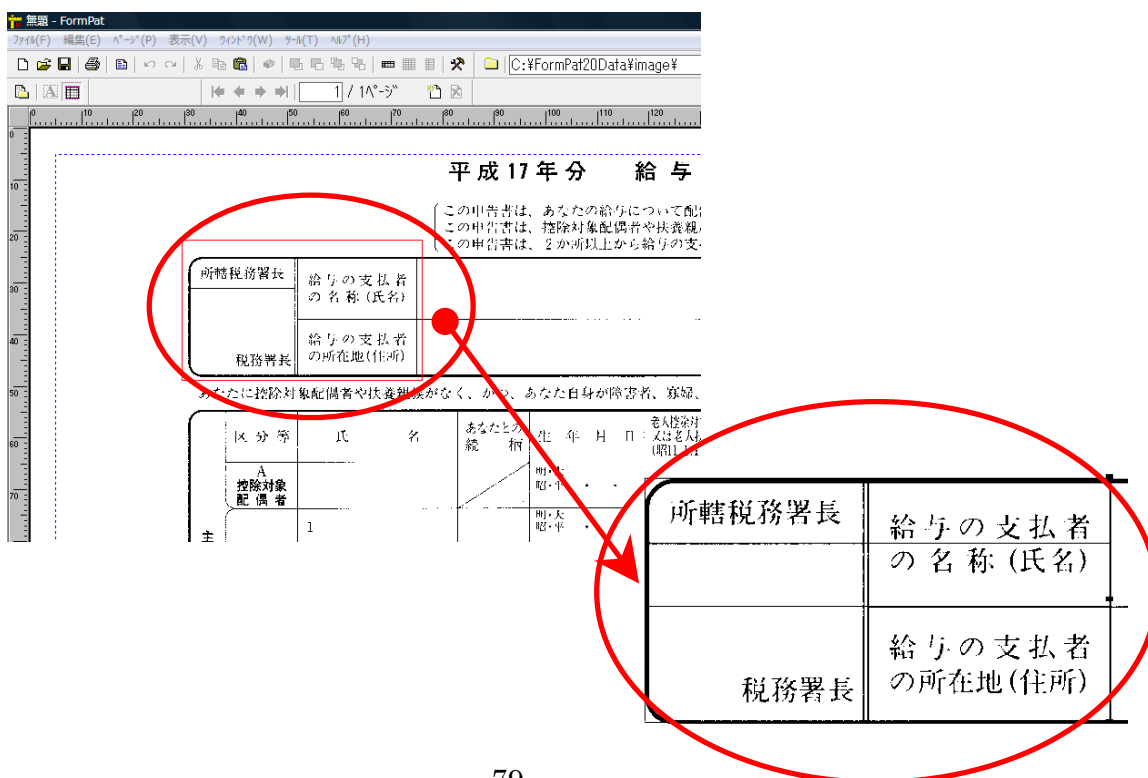


- ③画像を読み込んだら [編集(E)] メニューから [OCR 表組認識(G)] を選択します。

- ④マウスをフォーム上に移動するとカーソルが+になりますので、OCR として認識したい罫線の左上位置に+を移動してマウスの左ボタンを押します。
マウスの左ボタンを押した位置が罫線枠の左上位置となり、マウスの左ボタンは離さずに押したままマウスを罫線に沿って移動し、認識したい罫線の右下位置を設定します。
左ボタンを離すと下図のメッセージが表示されますので、[OK] を押して下さい。



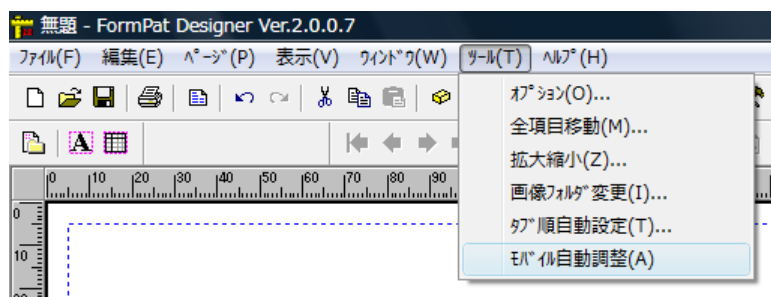
- ⑤認識した罫線が表示されます。



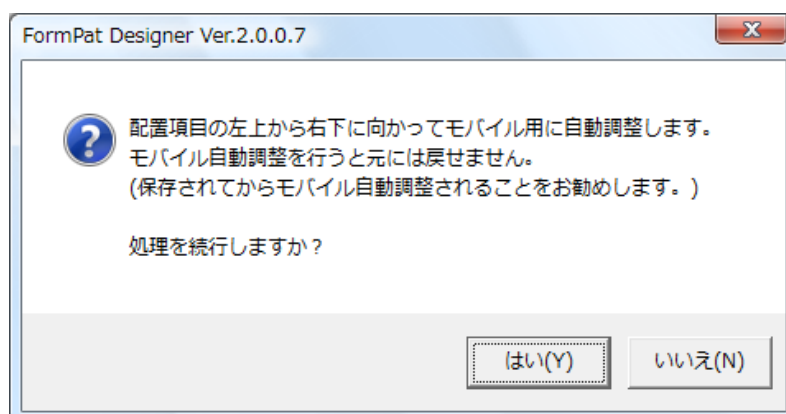
6.1.1 モバイル自動調整（オプション機能）

配置項目の左上から右下に向かってモバイル用に項目の並びを自動調整します。
この機能はオプションです。オプションが有効のときに使用できます。

- ① [ツール(T)] メニューの [モバイル自動調整(A)] を選択します。



- ② 確認画面が表示されますので、[はい(Y)] を押します。
処理を続行しない時は [いいえ(N)] を押して下さい。

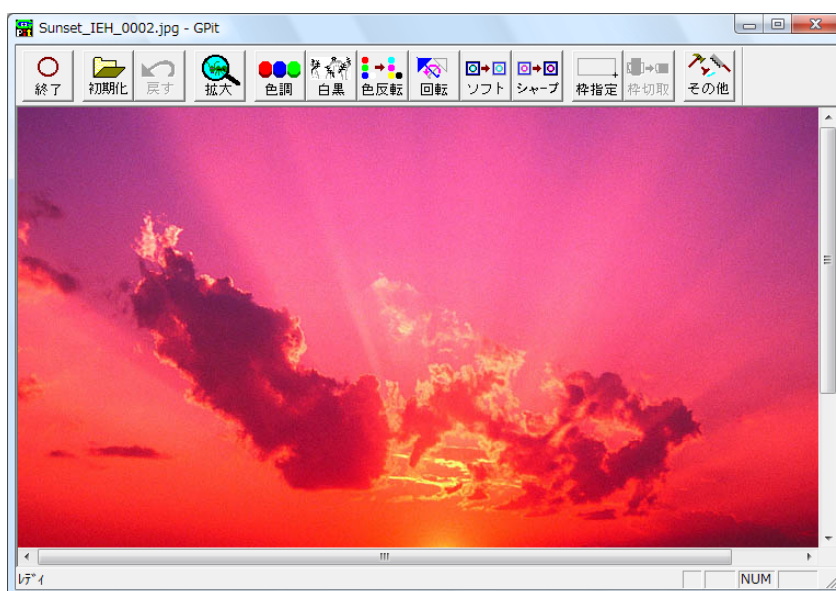


7. 画像編集

画像編集の基本的な操作手順を示します。

7.1 画像補正

画像の色調／輪郭／切り抜き等の補正ができます。



操作

終了

機能を終了します。画像の編集が行われている場合は、保存の確認メッセージが表示されます。保存する、しないをボタンで指示してください。

初期化

編集中の画像を最初の状態に戻します。編集を初めからやり直す時に使用します。

拡大

このボタンを押すと拡大モードにロックされます。もう一度押すと解除されます。拡大モード中では写真をマウスボタンで指定すると左ボタンが拡大、右ボタンが縮小となります。

戻る

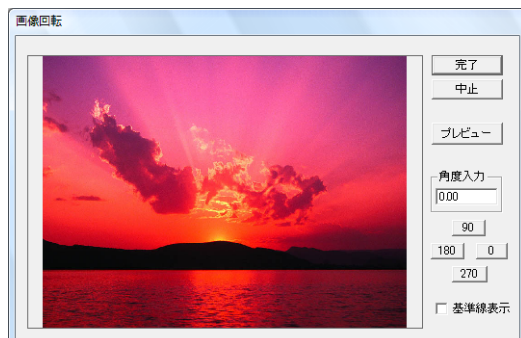
直前の編集操作を無効にして戻します。（1編集操作のみ）

色調

下のサブ画面が表示され、RGB（赤、緑、青）ごとの明るさとコントラスト調整ができます。



白黒	カラー画像を256階層の白黒画像へ変換します。
色反転	各色を反転します。例えば通常の写真画像を色反転するとネガと同じになります。もう一度実行すると元に戻ります。
回転	下のサブ画面が表示され、画像を90°単位や任意の角度で回転できます。



ソフト	画像をソフトにします。（柔らかい感じになります。）
シャープ	画像をシャープにします。（はっきりとした感じになります。）
枠指定	画像の切り取り枠を指定します。
枠切取	枠指定後この操作を実行すると指定枠で切取られた画像となります。
その他	横反転、縦反転、ソフト（中央値）、外周余白作成が用意されています。
横反転	画像を左右逆に反転します。（鏡と同じ効果です。）
縦反転	画像を上下逆に反転します。
ソフト2	なるべく輪郭をぼかせずに画像をソフトにする機能です。
外周余白作成	サブ画面が表示され、入力する色（RGB）と幅（画素数）で画像の外周に余白を追加します。

補助操作

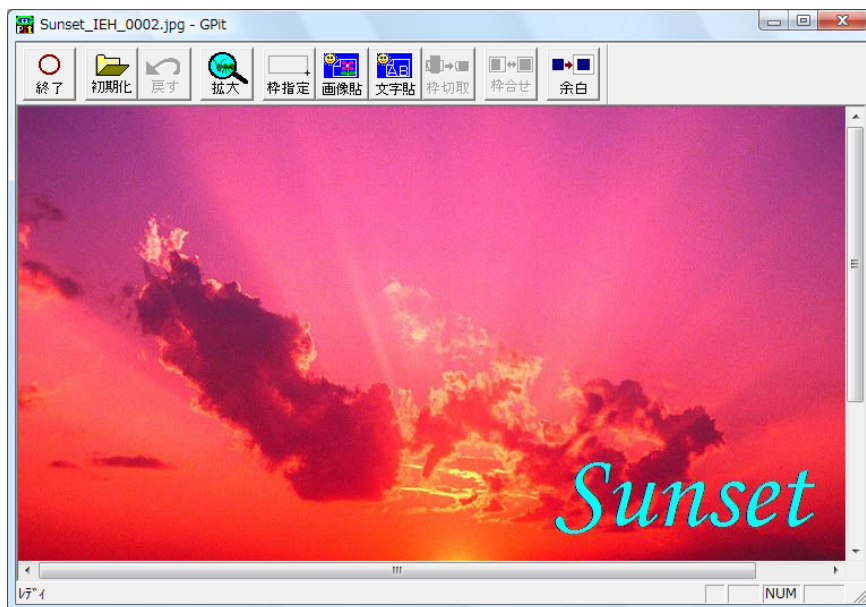
枠指定オプション

枠指定後マウス右ボタンで画像部分を指定するとサブメニューが表示され次の2つの操作ができます。

- （1）枠の形状変更用ハンドル（■）の表示／非表示が切り替えられます。
- （2）上位のアプリケーションから指定された枠の縦横比固定をするしないを切り替えることができます。自由モード中は白黒の破線で、固定モード中の枠は赤青の破線で表示されます。固定モードで枠が画像内に収められず不定の場合は枠対角にXが表示されています。この場合は枠を調整してください。

7.2 貼り付け合成

画像の上に別の画像や文字を貼り付けます。
指定した色の部分を透かして合成したり指定枠での切取りができます。



操作

終了

機能を終了します。画像の編集が行われている場合は、保存の確認メッセージが表示されます。保存する、しないをボタンで指示してください。

初期化

起動直後に読み込んだ画像の状態に戻します。

戻す

貼り付け作業中の画像を無効にします。（1操作のみ）

拡大

このボタンを押すと拡大モードにロックされます。もう一度押すと解除されます。拡大モード中では写真をマウスボタンで指定すると左ボタンが拡大、右ボタンが縮小となります。

枠指定

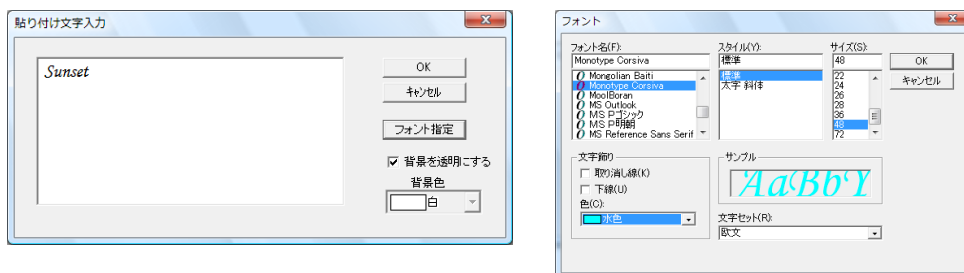
画像の切取りや画像貼り付けのための枠を指定します。

画像貼

下の画面で透過する色を指定し、画像選択画面により貼り付ける画像を呼び出します。前もって枠が指定されていれば呼び出した画像をこの枠内に表示し、なければ画像の全体をを枠として設定し画像を貼り付けます。もし貼り付け中の画像があれば、その確定の確認メッセージが表示されますのでボタンで指示してください。



文字貼 入力した文字を画像に貼り付けます。貼り付ける文字はフォント、色、背景色等の属性を指定できます。設定枠と確定については上の**画像貼**の内容と同じです。貼り付けた文字は画像として合成されます。



枠切取 指定枠が表示中にこの操作を実行するとその枠で切取られた画像となります。

余白 サブ画面が表示され、入力する色（RGB）と幅（画素数）で画像の外周に余白を追加します。

枠合せ 貼り付け画像を指定枠内に画像の縦横比を変えず貼り付け表示するか、枠に画像を縦横ともフィット変形して貼り付け表示するかを切り替えます。

補助操作

枠指定オプション

枠指定後マウス右ボタンで画像部分を指定するとサブメニューが表示され次の2つの操作ができます。

- （1）枠の変更用ハンドル（■）の表示／非表示が切り替えられます。
- （2）上位のアプリケーションから指定された枠の縦横比固定をする、しないを切り替えることができます。自由モード中は白黒の破線で、固定モード中の枠は赤青の破線で表示されます。固定モードで枠が画像内に収めれず不定の場合は枠対角にXが表示されています。この場合は枠を調整してください。

8. 外部ファイルについて

8.1 検証コントロール用外部ファイル

検証コントロールの形態チェックにある任意には、独自の検証コントロールを使用するために、検証コントロール用外部ファイルにて設定した参照名称を指定できます。参照名称には半角英数字が使用可能です。検証コントロールの定義は正規表現で記述します。外部ファイルの作成方法を下記に示します。

■検証コントロール用外部ファイル

メモ帳等のテキストエディタで `Validate.ref` というファイルを作成します。

◇外部ファイルの作成例

// 検証コントロール任意定義

`URL=(http://|https://|)([¥w-]+¥.)+[¥w-]+(/[¥w- ./?%&=]*)?`

`EMAIL=¥w+([-+.]¥w+)*@¥w+([-+.]¥w+)*¥.¥w+([-+.]¥w+)*`

`TEL=(0¥d{1,4}-|¥(0¥d{1,4}¥) ?)?¥d{1,4}-¥d{4}`

※ 外部ファイルを保存するときは、文字コードを ANSI で保存して下さい。

◇外部ファイルの説明

コメント行は // で始まる文字列で設定可能

(参照名称)=(検証正規表現) の形式で複数設定可能

8.2 外部参照名称用外部ファイル

プロパティの基本情報にある外部参照名称には、テキスト、コンボボックス、チェックボタン、ラジオボタン、DB 参照ボタン、ハイパーリンク（テキスト）、手書編集ボタン、フォーム複写ボタンの初期値を指定するために、外部参照名称用外部ファイルにて設定した参照名称を指定できます。

参照名称には項目名称と同じ制約の文字が使用可能です。外部ファイルに XML 形式で記述します。外部ファイルの作成方法を下記に示します。

■外部参照名称用外部ファイル

メモ帳等のテキストエディタで SetControl.xml というファイルを作成します。

◇外部ファイルの作成例

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS" ?>
<ROOT name="Set Control Data">
  <VERSION>1.0</VERSION>
  <TITLE>初期設定サンプル</TITLE>
  <FORM>
    <FORMNAME></FORMNAME>
    <SECTION>
      <SECTIONNAME></SECTIONNAME>
      <DATA>
        <NAME></NAME>
        <SETDATA>
          <CTRL>タイトル,商品一覧</CTRL>
          <CTRL>品名,冷蔵庫,テレビ,冷蔵庫,洗濯機</CTRL>
        </SETDATA>
      </DATA>
    </SECTION>
  </FORM>
</ROOT>
```

※ 外部ファイルを保存するときは、文字コードを ANSI で保存して下さい。

◇外部ファイルの説明

<FORM>, <SECTION>, <DATA>, <CTRL> はそれぞれの階層で複数設定可能。

<FORMNAME> にフォーム名を設定するとフォーム毎の管理が可能。

<SECTIONNAME>, <NAME> は現在未使用。

<CTRL> について

テキスト、チェックボタン、ラジオボタン、DB 参照ボタン、ハイパーリンク（テキスト）、手書編集ボタン、フォーム複写ボタンの場合

<CTRL>(外部参照名称),(初期値)</CTRL>

コンボボックスの場合

<CTRL>(外部参照名称),(初期値),(リスト 1),(リスト 2),…</CTRL>

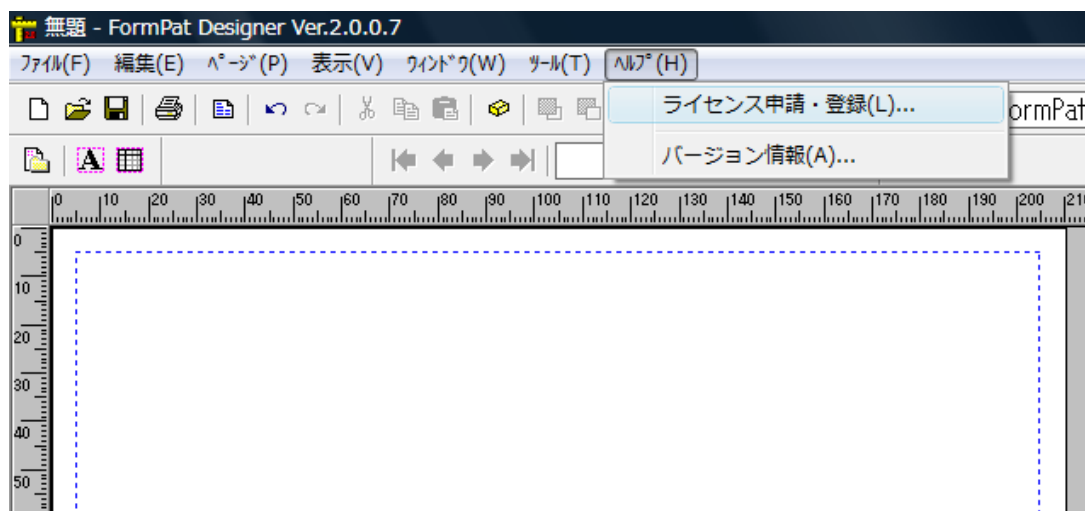
9. ライセンスについて

本製品はご購入されたお客様に対して、定義環境（開発ライセンス）1ライセンスを許諾するものです。定義環境1ライセンスとはユーザ1名が1台のパソコン上で本製品の定義環境を利用できる権利です。*FormPat Designer* は、ライセンスの申請・登録が必要です。

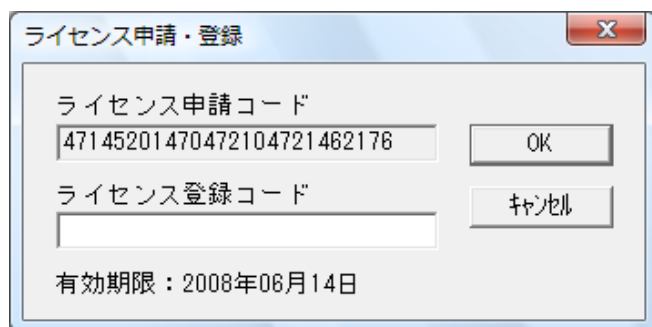
■ライセンスの申請・登録

① *FormPat Designer* を起動します（「3.1 『*FormPat Designer*』の起動」参照）。

② [ヘルプ(H)] メニューの [ライセンス申請・登録(L)] を選択します。

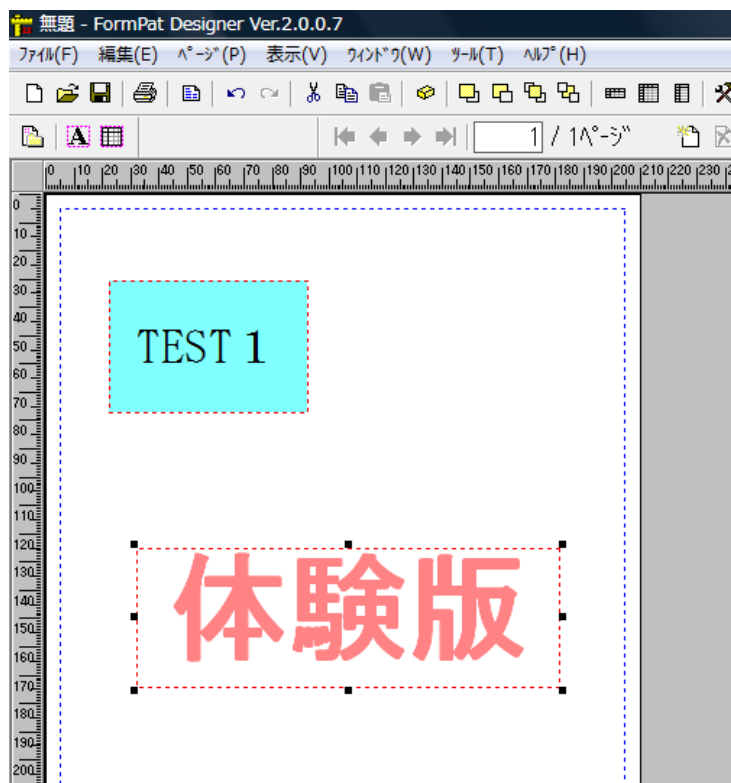


③ ライセンス申請・登録画面が表示されます。



- 1) 表示されている申請コードと希望する使用期間を弊社宛にご連絡下さい。
- 2) 折り返し、ライセンス登録コードをご連絡致しますので、「ライセンス登録コード」に入力して「OK」を押して下さい。
- 3) ライセンス申請コードが入力したライセンス登録コードに変わっている事と、申請した有効期限が表示されている事を確認して下さい。
- 4) 次回申請の際は、変更されたライセンス申請コードをご連絡下さい。

- ④ライセンス登録が終了するまでは、体験版として2ヶ月間使用することができます。
ただし、保存をすると『体験版』の文字が挿入され、印刷時にもそのまま出力されます。



10. 他アプリケーションとの連携について

FormPat Designer は他アプリケーションから起動することができます。

起動する際のオプションとして、新規／既存フォームを指定したり、既存フォームを削除したりすることも可能です。その呼び出し方法を下記に示します。

■フォーム指定起動

FormPat.exe [フォームファイル名称]

(例: "FormPat.exe Form1.xml")

※フォームファイル名称には、拡張子が『XML』のファイルを指定します。

※新規作成の場合も保存するファイル名称を指定して下さい。

■フォーム削除

FormPat.exe [フォームファイル名称] /DEL

(例: "FormPat.exe Form1.xml /DEL")

※フォームが存在しない場合はエラーメッセージを表示しますが、

フォームを正常に削除できた場合は確認メッセージを表示しません。

※フォームに貼り付けている画像ファイルは削除されませんのでご注意ください。

注意

他アプリケーションとの連携を行う場合は、*FormPat Designer* を他アプリケーションと同じ場所（フォルダ）へインストールされることをお勧めします。

他アプリケーションと違う場所（フォルダ）へインストールされた場合は、

他アプリケーションのカレントフォルダを *FormPat Designer* がインストールされているフォルダへ変更してからフォーム指定起動／削除を行って下さい。

< 記述例 >

:

SetCurrentDirectory (*FormPat Designer* がインストールされているフォルダ)

WinExec ("FormPat.exe Form1.xml", 1)

:

BLANK PAGE

11. 補足事項

■プロパティの有効／無効

項目属性	ラベル	テキスト	コンボ ボックス	チェック ボタン	ラジオ ボタン	画像	線画	バーコード
編集属性	●	●	●	—	—	—	—	—
グループ名称	—	●	●	●	●	—	—	—
固定リテラル	●	●	●※8	●※1	●※1	●※4	—	●※5
計算式	●	—	—	—	—	—	—	—
パラメータ	—	—	●※2	●※3	●※3	—	—	—
検証	—	●	●	—	—	—	—	—
ヒント	●	●	●	●	●	●	—	—
桁数	●	●	—	—	—	—	—	—
端数処理	●	●	—	—	—	—	—	—
計算結果の ゼロサプレス	●	●	—	—	—	—	—	—
読み取り専用	—	●	—	—	—	—	—	—
検索対象	▲※7	●	●	●	●	—	—	—
チェックボタン、 ラジオボタンを 枠付きで印刷する	—	—	—	●	●	—	—	—
ラジオグループ 名称	—	—	—	—	●	—	—	—
ポップアップの 行数	—	—	—	—	—	—	—	—
外部参照名称	—	●	●	●	●	—	—	—

項目属性	印鑑	DB 参照 ボタン	ハイパーリンク		貼付画像	手書編集 ボタン	手書画像	フォーム複写 ボタン
			テキスト	ラベル				
編集属性	—	—	—	—	—	—	—	—
グループ名称	—	—	—	—	—	—	—	—
固定リテラル	—	●	●※9	●	—	●	—	●
計算式	—	—	—	●	—	—	—	—
パラメータ	—	●	—	●※9	—	—	—	●
検証	▲※6	—	●	—	—	—	—	—
ヒント	—	—	●	●	—	—	—	—
桁数	—	—	●	—	—	—	—	—
端数処理	—	—	—	—	—	—	—	—
計算結果の ゼロサプレス	—	—	—	—	—	—	—	—
読み取り専用	—	—	●	—	—	—	—	—
検索対象	●	—	●	—	—	—	—	—
チェックボタン、 ラジオボタンを 枠付きで印刷する	—	—	—	—	—	—	—	—
ラジオグループ 名称	—	—	—	—	—	—	—	—
ポップアップの 行数	—	●	—	—	—	—	—	●
外部参照名称	—	●	●	—	—	●	—	●

● : 有効、 ▲ : 一部有効、 — : 無効

※1 チェックボタン、ラジオボタンのデフォルト値 (“1” : チェック有り、“0” : チェック無し)

※2 リストボックスに表示する項目 (例 : “田中, 山田, 佐藤”)

※3 チェックボタン、ラジオボタンの横に表示する文字 (例 : “本人”)

※4 画像ファイル名を設定 (例 : “image001. jpg”)

※5 バーコード情報を設定 (例 : “C39-12345”)

※6 必須のみ指定可能

※7 計算式が設定されている時に指定可能

※8 コンボボックスのデフォルト値

※9 URLを設定 (例 : “http://www. abc. co. jp”)

※ 可視表示、位置とサイズ、フォント、配置、配色は全項目属性で共通のため、省略しています。

■項目名称の禁止文字

項目名称には下記の文字を使用することができません。これは XML 1.0 に準拠した禁止文字+α となっています。

- ・ 1 文字目の半角数字（2 文字目以降であれば使用可能）
- ・ 半角記号・特殊文字（“_” は使用可能）
- ・ 半角カタカナ
- ・ 全角英数字
- ・ 全角記号・特殊文字（2 文字目以降であれば “—” は使用可能）
- ・ 全角漢字の外字等
- ・ XML という文字列（大文字、小文字関係なし）
- ・ SUM、AVERAGE、ROUND、ROUNDUP、ROUNDDOWN、MAX、MIN、ABS、INT、SQR という文字列（計算式で使用する文字列）
- ・ COS、TAN、ASIN、ACOS、ATAN という文字列（将来拡張用の予約文字列）

■最大ページ数・最大項目数

最大ページ数は 10 ページ、1 ページ当たりの最大項目数は 1,000 項目です。

■モバイル用プロパティの有効／無効

項目属性	ラベル	テキスト	コンボ ボックス	チェック ボタン	ラジオ ボタン	画像	線画	バーコード
編集属性	●	●	●	—	—	—	—	—
グループ名称	—	●	●	●	●	—	—	—
固定リテラル	●	—	●※5	●※1	●※1	—	—	—
計算式	●	—	—	—	—	—	—	—
パラメータ	—	—	●※2	●※3	●※3	—	—	—
検証	—	●	●	—	—	—	—	—
ヒント	—	—	—	—	—	—	—	—
桁数	—	●	—	—	—	—	—	—
端数処理	—	—	—	—	—	—	—	—
計算結果の ゼロサブレス	—	—	—	—	—	—	—	—
読み取り専用	—	—	—	—	—	—	—	—
検索対象	▲※4	●	●	●	●	—	—	—
チェックボタン、 ラジオボタンを 枠付きで印刷する	—	—	—	—	—	—	—	—
ラジオグループ 名称	—	—	—	—	●※6	—	—	—
ポップアップの 行数	—	—	—	—	—	—	—	—
外部参照名称	—	●	●	●	●	—	—	—

項目属性	印鑑	DB 参照 ボタン	ハイパーリンク		貼付画像	手書編集 ボタン	手書画像	フォーム複写 ボタン
			テキスト	ラベル				
編集属性	—	—	—	—	—	—	—	—
グループ名称	—	—	—	—	—	—	—	—
固定リテラル	—	—	●※7	●	—	—	—	—
計算式	—	—	—	—	—	—	—	—
パラメータ	—	—	—	●※7	—	—	—	—
検証	—	—	●	—	—	—	—	—
ヒント	—	—	—	—	—	—	—	—
桁数	—	—	●	—	—	—	—	—
端数処理	—	—	—	—	—	—	—	—
計算結果の ゼロサプレス	—	—	—	—	—	—	—	—
読み取り専用	—	—	—	—	—	—	—	—
検索対象	—	—	●	—	—	—	—	—
チェックボタン、 ラジオボタンを 枠付きで印刷する	—	—	—	—	—	—	—	—
ラジオグループ 名称	—	—	—	—	—	—	—	—
ポップアップの 行数	—	—	—	—	—	—	—	—
外部参照名称	—	—	●	—	—	—	—	—

● : 有効、 ▲ : 一部有効、 — : 無効

※1 チェックボタン、ラジオボタンのデフォルト値 (“1”:チェック有り、“0”:チェック無し)

※2 リストボックスに表示する項目 (例 : “田中, 山田, 佐藤”)

※3 チェックボタン、ラジオボタンの横に表示する文字 (例 : “本人”)

※4 計算式が設定されているときに指定可能

※5 コンボボックスのデフォルト値

※6 ラジオボタングループ名は連続した項目で配置すること

※7 URLを設定 (例 : “http://www.abc.co.jp”)

※ 画像、線画、バーコード、印鑑、DB 参照ボタン、貼付画像、手書編集ボタン、手書画像、フォーム複写ボタンは使用不可

■均等割りのフォント設定

一文字ずつを指定の升目に均等割りを使用して配置する際は、下記の表を参考にして下さい。

フォントは『MS ゴシック』を使用して下さい。

なお、下記の表はあくまで目安としてお考え下さい。

実際には文字数により微調整が必要になる場合があります。

一文字ずつの指定升目とは下記のような入力形式のことです。

あ	い	う	1	2	3
---	---	---	---	---	---

A	B	C	1	2	3
---	---	---	---	---	---

全角		半角	
枠サイズ (横×縦)	フォントサイズ	枠サイズ (横×縦)	フォントサイズ
3×3mm	5.7 ポイント	2.3×3mm	4.87 ポイント
4×4mm	7 ポイント	3×4mm	6 ポイント
5×5mm	10 ポイント	3.8×5mm	7.85 ポイント
6×6mm	10 ポイント	4.5×6mm	10 ポイント
7×7mm	14.5 ポイント	5.3×7mm	12.5 ポイント
8×8mm	16 ポイント	6×8mm	13 ポイント
9×9mm	20 ポイント	6.8×9mm	15.5 ポイント
10×10mm	20 ポイント	7.5×10mm	16 ポイント
11×11mm	23 ポイント	8.3×11mm	18 ポイント
12×12mm	26 ポイント	9×12mm	20 ポイント

フォントサイズは下記の計算式で算出しています。

<全角>

1 ポイント=0.3528mm 枠サイズ 比率=1 : 1

フォントサイズ = 枠横サイズ (mm) ÷ 25.4(mm/インチ) × 72(ポイント/インチ) × 0.8(割合)

<半角>

1 ポイント=0.3528mm 枠サイズ 比率=0.75 : 1

フォントサイズ = 枠横サイズ (mm) ÷ 25.4(mm/インチ) × 72(ポイント/インチ) × 0.8(割合)

12. その他注意事項

■ファイルのバックアップについて

使用されるパソコンが故障した場合、大切なデータも壊れてしまうことがありますので作成したフォームのファイルは必要に応じてバックアップをとるようにして下さい。

■アプリケーションの動作保証について

本アプリケーションは、Windows 2000／XP／Vista／7 の環境で使用される場合のみ動作を保証しています。

■文字／写真枠配置の誤差について

本アプリケーションは、0.1mm 単位の印刷項目の調整を可能としていますが、Windows アプリケーションの限界でディスプレイとプリンタの物理的な装置の違いや湿度等の関係で用紙が伸縮する場合があります、実際には約±1mm 程度の誤差が発生します。

■罫線／図形について

本アプリケーションの罫線／図形には、弊社専用の図形コマンドを使用しています。従いまして、線画ファイルを直接作成される場合や線画パーツを追加される場合は、図形コマンドリファレンスが必要です。図形コマンドリファレンスは、本製品に同梱しておりませんので、必要な場合は弊社窓口までご連絡下さい。

■点線や破線について

点線や破線を「線塗りつぶし」で太さを変更すると、プリンタの機種やプリンタの設定によっては実線になってしまうことがあります、これはプリンタの仕様です。